

- Terakawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Evaluation of Circulating Dendritic Cell Number and Function of Patients with Pancreatic Cancer Who Underwent Chemoradiotherapy. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
25. Teshima S, Kaibori M, Ozaki T (2004) Cycloprodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1beta. 第77回日本生化学会, 横浜
26. Teshima S, Kaibori M, Yoshida H, Ozaki T, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Cycloprodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1beta. 第77回日本生化学会, 横浜
27. Sato M, Hamada Y, Takada K, Tanano A, Tokuhara K, Hatano T (2004) Thoracoscopic Diaphragmatic Procedures under Artificial Pneumothorax. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
28. 井上健太郎, 神原達也, 田中義人, 道浦 拓, 中井宏治, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 中根恭司 (2004) 胃悪性リンパ腫の手術成績. 第76回日本胃癌学会総会, 米子
29. 井上健太郎, 中根恭司, 佐藤睦哉, 中井宏治, 道浦 拓, 田中義人, 神原達也, 山道啓吾, 上山泰男 (2004) FUDR (2'-deoxy-5-fluorouridine) 腹腔内化学療法における急速投与の比較. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
30. 井上健太郎, 中根恭司, 藤谷和正, 辻仲利政, 後藤昌弘, 瀧内比呂也, 榎原啓之, 上堂文也, 木村 豊, 今野元博, 今村博司, 古河 洋 (2004) TS-1/Paclitaxel 併用療法における推奨用量と有効性および有害事象 (胃癌を対象とした多施設共同第I/II相臨床試験OGSG0105). 第42回日本癌治療学会総会, 京都
31. 岩本慈能, 吉岡和彦, 森田美佳, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2004) 直腸癌に対する腹腔鏡補助下手術. 第42回日本癌治療学会総会, 京都
32. 岩本慈能, 吉岡和彦, 森田美佳, 米倉康博, 中根恭司 (2004) 大腸癌に対する腹腔鏡補助下手術—当科症例での検討—. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 久留米
33. 岩本慈能, 吉岡和彦, 米倉康博, 森田美佳 (2004) 当院における直腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術. 第59回日本消化器外科学会, 鹿児島
34. 吉岡和彦, 岩本慈能, 森田美佳, 中野雅貴, 米倉康博, 中根恭司 (2004) 鎖肛術後の排便機能障害に対する graciloplasty. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
35. 吉岡和彦, 岩本慈能, 森田美佳, 米倉康博, 中野雅貴, 中根恭司 (2004) 肛門管とは何か? : Dynamic graciloplasty における「肛門管」の機能的意義の検討. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 久留米
36. 吉岡和彦, 岩本慈能, 米倉康博, 森田美佳, 上山泰男 (2004) Dynamic graciloplasty : 直腸癌患者と重度便失禁患者の比較検討. 第59回日本消化器外科学会, 鹿児島
37. 高田晃平, 浜田吉則, 田中義人, 徳原克治, 棚野晃秀, 上山泰男 (2004) 小児盲腸軸捻転症の2例. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
38. 高田晃平, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 上山泰男 (2004) 胆道拡張症術後における胃内胆汁逆流の検討. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
39. 高田晃平, 浜田吉則, 徳原克治, 棚野晃秀, 渡辺健太郎, 大橋 敦, 北村直行, 蓮井正史, 上山泰男 (2004) 小児の消化管出血. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
40. 佐藤正人, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 小切匡史, 畑埜武彦, 浜田吉則 (2004) 腹腔鏡下幽門筋切開術—その術式の変遷ならびに経験. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
41. 佐藤正人, 馬殿徹也, 小切匡史 (2004) 小児そけいヘルニアに対するクリニカルパス導入の経緯ならびに最近の問題点. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
42. 山道啓吾, 浅井 晃, 小松優治, 松浦 節, 神原達也, 田中義人, 馬殿徹也, 中野雅貴, 道浦 拓, 井上健太郎, 中根恭司, 上山泰男 (2004) 進行食道癌に対する化学放射線療法後の salvage operation. 第58回日本食道学会学術集会, 東京
43. 山道啓吾, 浅井 晃, 田中義人, 小松優治, 松浦 節, 神原達也, 道浦 拓, 中野雅貴, 井上健太郎, 中根恭司, 上山泰男 (2004) 進行

- 食道癌に対する集学的治療. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
44. 山道啓吾, 浅井 晃, 田中義人, 小松優治, 松浦 節, 馬殿徹也, 道浦 拓, 中野雅貴, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司, 上山泰男 (2004) 進行食道癌における術前化学放射線療法施行後のリンパ節郭清のあり方. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
  45. 山道啓吾, 浅井 晃, 道浦 拓, 松浦 節, 神原達也, 田中義人, 井上健太郎, 川口雄才, 中根恭司, 上山泰男 (2004) 食道胃多重癌に対する食道切除・腹腔内空腸Roux-Y再建法. 第59回日本消化器外科学会, 鹿児島
  46. 森田美佳, 畑 嘉高, 中野雅貴, 岩本慈能, 米倉康博, 吉岡和彦, 中根恭司 (2004) ストーマ造設患者へのアンケート調査によるQOLの把握. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
  47. 森田美佳, 畑 嘉高, 中野雅貴, 岩本慈能, 米倉康博, 吉岡和彦, 中根恭司 (2004) ストーマアンケート調査によるQOL決定因子の解析. 第59回日本大腸肛門病学会総会, 久留米
  48. 中井宏治, 小松優治, 神原達也, 田中義人, 道浦 拓, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 奥村俊一郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2004) 胃癌術後における上部消化管内視鏡検査の検討. 第76回日本胃癌学会総会, 米子
  49. 中根恭司, 井上健太郎, 道浦 拓, 小松優治, 神原達也, 田中義人, 山道啓吾, 上山泰男 (2004) 胃全摘後の機能再建術式—空腸 pouch 間置再建法—. 第42回日本癌治療学会総会, 京都
  50. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 松浦 節, 神原達也, 田中義人, 中井宏治, 佐藤睦哉, 井上健太郎, 山道啓吾, 上山泰男 (2004) RI胃排出試験を用いた機能温存胃切除後の評価. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
  51. 中根恭司, 道浦 拓, 神原達也, 田中義人, 中井宏治, 佐藤睦哉, 井上健太郎, 山道啓吾, 上山泰男 (2004) 幽門機能温存を旨とした噴門側胃切除術—Latarjet枝温存の意義—. 第76回日本胃癌学会総会, 米子
  52. 徳原克治, 浜田吉則, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男, 野田幸弘, 中野崇秀, 藤井喜充, 國府寺美 (2004) 腫瘍破裂, 大量腹水貯留を伴った卵巢若年性顆粒膜細胞腫の1幼児例. 第20回日本小児がん学会, 京都
  53. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 佐藤正人, 上山泰男 (2004) 日常よく遭遇する小児外科疾患とその対応—腸重積症について—. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
  54. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男 (2004) 良性一過性新生児非器質性腸閉塞症の診断に生検は必要か. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
  55. 徳原克治, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男 (2004) 胆道拡張症に合併するCommunicating accessory bile duct—とくに肝管形成の工夫について—. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
  56. 畑埜武彦, 佐藤正人, 二階堂任, 木田裕之, 二階堂泰資, 小路徹二, 螺良愛郎 (2004) 高プロラクチン血症を伴った乳癌症例の検討. 第66回日本臨床外科学会総会, 盛岡
  57. 里井壯平, 高井惣一郎, 山本栄和, 米虫 敦, 福井淳一, 山木 壮, 権 雅憲, 谷川 昇, 澤田 敏, 上山泰男 (2004) 肝癌27例の進展度診断におけるMultidetector row CT (MDCT) の有用性—血管造影との比較から—. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
  58. 里井壯平, 高井惣一郎, 川口雄才, 柳本泰明, 松井陽一, 福井淳一, 石崎守一, 由井倫太郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 重症急性膵炎6例における進行性肝機能障害と臨床的予後. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
  59. 権 雅憲, 吉田和正, 乾 広幸, 松井陽一, 上山泰男 (2004) 氷温領域を用いた臓器保存法の検討. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
  60. 権 雅憲, 松井陽一, 上山泰男 (2004) 超高齢者 (80歳以上) に対する胆石治療術式の選択. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
  61. 権 雅憲, 邱 澤雨, 辻 勝成, 土屋英人, 海堀昌樹, 上山泰男 (2004) エンドトキシンショックモデルにおけるフィブネクチンの生体保護効果について. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
  62. 海堀昌樹, 松井陽一, 柳田英佐, 横井川規巨,

- 脇川 健, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 肝癌術前全肝 chemolipiodolization による術後肝癌再発および生存率におよぼす効果. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
63. 高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 高橋完治, 杉本直俊, 辻 勝成, 寺川直良, 山本栄和, 松井陽一, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 教室における局所進行膵癌の集学的治療. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
64. 高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 高橋完治, 寺川直良, 尾崎 岳, 福井淳一, 荒木 浩, 松井陽一, 上山泰男 (2004) 当教室における局所進行膵癌の治療戦略. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
65. 松井陽一, 由井倫太郎, 里井壯平, 海堀昌樹, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 切除マージン0で肝内脈管より剥離摘出した肝細胞癌患者の予後. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
66. 森 毅, 山田正法, 山本大悟, 田中完児 (2004) 血清CEAおよびCA15-3の高値を示した巨大乳腺悪性葉状腫瘍の1例. 第12回日本乳癌学会
67. 羽原弘造, 海堀昌樹, 柳田英佐, 山田正法, 浜田吉則, 権 雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2004) エンドトキシン由来肝臓障害に対する抗繊維化剤 pirfenidone の保護作用. 第41回日本外科代謝栄養学会, 愛媛
68. 三宅 岳, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 徳原克治, 高田晃平, 上山泰男, 中野崇秀 (2004) opsoclonus-myooclonus-ataxia (OMA) 症候群を合併した神経芽腫の1例. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
69. 山田正法, 浜田吉則, 羽原弘造, 吉田秀行, 尾崎 岳, 海堀昌樹, 権 雅憲, 上山泰男, 奥村忠芳 (2004) 肝細胞における炎症性サイトカインの一酸化窒素合成酵素の誘導メカニズム. 第41回日本外科代謝栄養学会, 愛媛
70. 寺川直良, 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 高橋完治, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 膵癌症例における免疫機能評価—LPS 刺激による全血TNF $\alpha$ 産生能の比較—. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
71. 石崎守彦, 海堀昌樹, 内田洋一郎, 尾崎 岳, 田中宏典, 福井淳一, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 若年者に発症した非B型非C型肝炎細胞癌の1切除術. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
72. 石崎守彦, 高井惣一郎, 里井壯平, 柳本泰明, 高橋完治, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 下部胆管癌を疑い手術施行後, 自己免疫性膵炎と診断された1例. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
73. 辻 勝成, 権 雅憲, 吉田秀行, 邱 澤雨, 海堀昌樹, 奥村忠義, 上山泰男 (2004) ラット肝切除後エンドキシン血症モデルにおけるedaravoneの生体保護効果の検討. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
74. 内田洋一郎, 海堀昌樹, 福井淳一, 石崎守彦, 尾崎 岳, 川口雄才, 上山泰男 (2004) 分類不能の重複胆嚢にみられた胆嚢結石症の1例. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
75. 尾崎 岳, 由井倫太郎, 里井壯平, 高井惣一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 術後離開創の創傷治療に対するハイドロファイバーの評価. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
76. 福井淳一, 里井壯平, 高井惣一郎, 柳本泰明, 高橋完治, 石崎守彦, 尾崎 岳, 宮宗武史, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 当科における慢性膵炎手術46例の臨床的検討. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
77. 柳田英佐, 海堀昌樹, 脇川 健, 内田洋一郎, 横井川規巨, 権 雅憲, 奥村忠義, 上山泰男 (2004) ラット肝硬変モデルにおける肝部分切除後のrhHGF-activatorによる肝内HGFの活性化及び, 肝再生促進効果の解析. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
78. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 膵癌症例における末梢血樹状細胞機能解析と予後予測への応用. 第104回日本外科学会定期学術集会, 大阪
79. 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 膵癌切除症例における末梢血樹状細胞の予後予知因子としての有用性. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
80. 高橋完治, 高井惣一郎, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 寺川直良, 権 雅憲, 上山泰男

- (2004) 局所進行膀胱癌における放射線化学療法の検討：末梢血樹状細胞を中心とした免疫学的評価。第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島
81. 加藤健志，池永雅一，三嶋秀行，福永 睦，村田幸平，富永修盛，加納寿之，池田公正，山崎恵司，天野正弘，池田正孝，森田俊治，勝本善弘，石田秀之，関本貢嗣，瀧内比呂也，吉岡和彦，古河 洋，森田智視，坂本純一，門田守人 (2004) 進行・再発大腸癌に対するCPT-11と5'-DFUR併用化学療法の第II相臨床試験。第42回日本癌治療学会総会，京都
82. 吉田 良，霜田雅之，肥田候矢，山神和彦，山本秀和，小西靖彦，武田 惇 (2004) 十二指腸潰瘍が原因と考えられる特発性食道破裂の1例。第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
83. 桜本和人，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男，佐藤正人 (2004) 腹腔鏡下尿管管切除術の経験。第41回日本小児外科学会総会，大阪
84. 小松優治，山道啓吾，坂井田紀子，浅井 晃，中野雅貴，神原達也，松浦 節，田中義人，道浦 拓，中井宏治，中根恭司，上山泰男 (2004) 食道アカラシアに合併した広範な多発食道癌の一例。第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
85. 小松優治，山道啓吾，浅井 晃，三宅 岳，松浦 節，馬殿徹也，田中義人，道浦 拓，中井宏治，中根恭司，上山泰男 (2004) TS-1によるsecond line chemotherapyが奏効した進行下部食道腺癌の一例。第58回日本食道学会学術集会，東京
86. 大石賢玄，浜田吉則，徳原克治，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男 (2004) Anocutaneous fistulaとの鑑別が困難であったAnorectal stenosisの1例。第41回日本小児外科学会総会，大阪
87. 棚野晃秀，浜田吉則，高御堂祥一郎，片岡洋祐，渡辺 淳，山田久男 (2004) 共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児期腸管における筋層間神経叢の免疫組織学的検討。第45回日本組織細胞化学学会総会学術集会，鹿児島
88. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，佐藤正人，上山泰男，片岡洋祐，渡辺 淳，山田久夫 (2004) 共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児腸管における腸管神経系構築過程の免疫組織学的検討。第41回日本小児外科学会総会，大阪
89. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，上山泰男 (2004) 臍胆管合流異常症に対するMRCPによる画像診断。第41回日本小児外科学会総会，大阪
90. 棚野晃秀，浜田吉則，徳原克治，高田晃平，貴島和久，貴島範彦 (2004) 臍肝胆道合流異常症に対する分流手術後遺残胆管の1切除例。第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会，大阪
91. 田中義人，山道啓吾，谷川 昇，中野雅貴，小松優治，松浦 節，神原達也，道浦 拓，井上健太郎，浅井 晃，中根恭司，上山泰男 (2004) 食道癌術後乳び胸に対するリンパ管造影の有用性。第58回日本食道学会学術集会，東京
92. 田中義人，中根恭司，神原達也，道浦 拓，井上健太郎，岩本慈能，山道啓吾，吉岡和彦，上山泰男 (2004) 術後癒着性イレウスの手術適応のタイミング及び保存的治療の限界。第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
93. 田中義人，中根恭司，神原達也，道浦 拓，中井宏治，井上健太郎，佐藤睦哉，山道啓吾，上山泰男 (2004) 胃癌再発イレウスに対する外科的治療の意義。第76回日本胃癌学会総会，米子
94. 田中義人，中根恭司，道浦 拓，中井宏治，井上健太郎，岩本慈能，山道啓吾，吉岡和彦，上山泰男 (2004) 当科における術後癒着性イレウスの治療戦略。第40回日本腹部救急医学会総会，東京
95. 渡辺健太郎，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男，北村直行，木下 洋 (2004) 脾臓に被膜形成不全を伴った新生児特発性乳糜水の1例。第41回日本小児外科学会総会，大阪
96. 藤井喜充，高田晃平，浜田吉則 (2004) 筋性防御出現前は血液検査とCT上所見を認めなかった穿孔性虫垂炎。第40回日本腹部救急医学会総会，東京
97. 道浦 拓，山道啓吾，小松優治，田中義人，井上健太郎，浅井 晃，中根恭司，上山泰男

- (2004) 上縦郭リンパ節再発に対する化学放射線療法. 第58回日本食道学会学術集会, 東京
98. 道浦 拓, 中根恭司, 中井宏治, 井上健太郎, 佐藤睦哉, 山道啓吾, 上山泰男 (2004) ビーグル犬に対する<sup>13</sup>C呼気試験法胃排出能検査の検討. 第59回日本消化器外科学会, 鹿児島
99. 福安厚子, 浜田吉則, 渡辺健太郎, 徳原克治, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男 (2004) Prune belly 症候群の亜型と思われた右上側腹部腹壁ヘルニアの1例. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
100. 北川克彦, 浜田吉則, 加藤泰規, 中井宏治, 山田正法, 羽原弘造, 中竹利和, 西澤幹雄, 伊藤誠二, 奥村忠芳 (2004) EGFと炎症性サイトカインによる小腸上皮細胞における一酸化窒素の産生誘導. 第77回日本生化学学会, 横浜
101. 北川克彦, 浜田吉則, 中井宏治, 加藤泰規, 上山泰男, 奥村忠芳 (2004) 炎症時の腸管におけるEGFの一酸化窒素産生増加のメカニズム. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
102. 由井倫太郎, 浜田吉則, 徳原克治, 富野敦捨, 岡本真由美, 渡辺健太郎, 棚野晃秀, 高田晃平, 上山泰男 (2004) 二卵性双生児の双方に発症した先天性胆道拡張症. 第41回日本小児外科学会総会, 大阪
103. 由井倫太郎, 尾崎 岳, 里井壯平, 山木 壮, 福安厚子, 松井陽一, 高井惣一郎, 権 雅憲, 中根恭司, 上山泰男 (2004) 抗リン脂質抗体症候群を伴った膵液性嚢胞の抗凝固療法に難渋した一例. 第66回日本臨床外科学会, 盛岡
104. 中田 博, 横井川規巨, 稲葉隆明, 海堀昌樹, 小倉徳裕, 高田秀穂, 井上瑞江, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 担癌状態におけるムチンの生物学的意義. 第63回日本癌学会学術総会, 福岡
105. 三宅 岳, 山本大悟, 田中義人, 田中完児 (2004) マンモグラフィ検診で発見される非浸潤癌の検討, 微細石灰化. 第12回日本乳癌学会, 北九州
106. 山田正法, 山本大悟, 奥川帆麻, 森 毅, 田中完児 (2004) 当科における良性・境界・悪性葉状腫瘍の検討. 第12回日本乳癌学会, 北九州
107. 奥川帆麻, 山本大悟, 植村芳子, 坂井田紀子, 山田正法, 田中完児 (2004) 乳癌患者における Nottingham Prognostic Index の有用性について. 第12回日本乳癌学会, 北九州
108. 権 雅憲, 松井陽一, 上山泰男 (2004) 超高齢者 (80歳以上) に対する胆石治療術式の選択. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
109. 権 雅憲, 邱 澤雨, 辻 勝成, 土屋英人, 海堀昌樹, 上山泰男 (2004) ラット肝切除後エンドトキシン血症におけるフィブロンネクチンの生体保護効果の検討. 第40回日本腹部救急医学会総会, 東京
110. 権 雅憲, 吉田和正, 乾 広幸, 松井陽一, 上山泰男 (2004) 氷温領域を用いた臓器保存法の検討. 第104回日本外科学会総会, 大阪
111. 権 雅憲, 邱 澤雨, 辻 勝成, 海堀昌樹, 上山泰男 (2004) ラット肝切除後エンドトキシン血症におけるELASPOLの生体保護効果の検討. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
112. 海堀昌樹, 松井陽一, 柳田英佐, 肱川 健, 内田洋一郎, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 肝細胞癌肝切除後の予後におよぼす腎機能障害の影響. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島
113. 今村 敦, 尾崎 岳, 田中宏典, 斎藤隆道, 山田 斉, 上山泰男 (2004) "Hostile" abdomenを伴う腹部大動脈瘤患者に対するステントグラフト治療の有用性. 第32回日本血管外科学会総会, 東京
114. 田中宏典, 今村 敦, 尾崎 岳, 斎藤隆道, 中本博之, 山田 斉, 上山泰男 (2004) 腹部大動脈手術における感染あるいは汚染創での強酸性水洗浄, in-situ再建, 人工血管完全大網被覆の有用性. 第32回日本血管外科学会総会, 東京
115. 尾崎 岳, 今村 敦, 田中宏典, 山田 斉, 上山泰男 (2004) シャント作製に難渋した下大動脈への吻合を行った下腹部ループシャントの一例. 第32回日本血管外科学会総会, 東京

## 著 書

1. 中根恭司, 井上健太郎 (2004) 局所再発ほか. 再発胃癌治療ガイドブック (前原喜彦, 馬場秀夫編) 231-235頁, 南江堂
2. 田中完児 (2004) 乳がんにおけるチーム医療の実践—特に乳がん専門看護師 Breast Care Nurse) との共働. 乳癌診療二頁の秘訣 (光山

- 昌珠編) 320-321頁, 金原出版
3. 田中完児 (2004) 乳がんの啓発運動. 乳癌診断のコツと落とし穴 (霞富士雄編) 252-253頁, 中山書店
4. 田中完児 (2004) 専門看護師を中心としたチーム医療. 外来看護新時代 93-97頁, 日本総研出版
5. 権 雅憲 (2004) 肝臓・胆嚢・膵臓の病気. 最新版 家庭医学大全科, 胆嚢と胆管の病気 (高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢編) 2088-2100, 法研

## 胸部心臓血管外科学講座

### 〈研究概要〉

胸部心臓血管外科は、心臓血管外科と呼吸器外科に大別される。心臓血管外科は心臓血管病センターの外科部門として、循環器内科や小児科循環器グループとともに、先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患等の心大血管疾患に対し、内科と外科が一体となって研究活動を行っている。また、呼吸器外科は、肺癌の外科治療を中心として、第一内科呼吸器グループ、放射線科、病態検査科病理部門と研究グループを作り、協力して研究活動を行っている。

心臓血管外科部門では、手術件数は300例を超え、手術内容も含めて、大学病院としての標準的レベルを維持している。先天性心疾患の治療は心臓血管外科医の基本である。小児科循環器グループやNICUと密接な関係を保ち、術前より互いに協力して治療を行っており、今後も、成績向上のため、術前状態の改善、迅速で正確な手術、きめ細かい術後管理が必要である。虚血性心疾患の治療方針は、動脈グラフトを用いた完全血行再建である。術中の心停止時間の短縮、長年の心筋保護法の研究成果が実り、安全に手術が行えるようになり、最近8年間の予定手術例に死亡例がなく、良好な成績を維持している。再生医療として、循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として、本学倫理委員会の許可を得て、骨髄幹細胞移植による血管再生治療を他施設に先駆けて臨床に試みている。また無輸血手術遂行のための研究も行い、最近8年間の成人予定手術の約90%が無輸血手術であった。弁膜症の治療方針は、可能な限り自己弁温存をはかる弁形成、弁輪形成術を第一選択とし、不可能な例に人工弁置換術を行う方針である。経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった。大血管疾患は、破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ、脳合併症や多臓器不全、感染による死亡例が多いが、大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により、安全に手術が可能になった。すべての動脈瘤は破裂するものと考え、今後も、早期の適切な外科治療により、成績向上の努力が必要である。また、大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり、その予防法の研究をすすめている。昨年は、海外での研修や研究を終えた若い心臓血管外科医の導入をはかり、新しい治療法も積極的に取り入れ、成績向上に努めている。

呼吸器外科は、年間ほぼ200例前後の手術症例があり、その約半数が、原発性肺癌、悪性縦隔腫瘍、転移性腫瘍である。肺癌は、地域医師会の協力も受け、早期発見例も増加しており、治療成績は向上し、その成績を逐次公表している。悪性縦隔腫瘍に対しては手術前後の化学療法等の併用により著明な成績向上をみた。また自然気胸、転移性肺腫瘍、開胸肺生検等において、胸腔鏡下手術を多用している。

平成16年度も、心臓血管外科、呼吸器外科ともに、これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた。また、6月には、日本小児外科学会総会を主催した。

実験的研究では、平成15年度日本学術振興会科学研究費、私学振興財団よりの学術研究振興資金、再生医学難病治療センター、癌治療センターの補助により、1) 組織培養装置の導入により、分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的、基礎的研究 (心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究、統合的薬理学 Preconditioning に関する研究)、2) 心、肺移植に関する基礎的研究、3) 肺癌に関する細胞免疫学的研究、4) 吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用、5) 冬眠を応用した臓器保存の

研究, 6) 虚血性心疾患に対する系統的治療戦略として, 骨髄幹細胞移植による再生医療の研究(虚血心の血管新生療法における自家骨髄細胞移植の有効性と安全性に関する研究, 自家骨髄幹細胞移植を用いた不全心筋の再生に関する研究)などを行っている。

また, 大阪工業大学生体システム研究室とともに, 1) 赤血球変形能, 2) 磁界の生体への影響, 3) 生体細胞インピーダンス測定4) 心筋再生の医工学的応用, などの共同研究も進めている。

## 〈研究概要〉

原著

1. Wakeno M, Otani H, Nakao S, Uchiyama Y, Imamura H, Shingu K (2004) Adenosine and a nitric oxide donor enhances cardioprotection by preconditioning with isoflurane through mitochondrial adenosine triphosphate-sensitive K<sup>+</sup>channel-dependent and-independent mechanism. *Anesthesiology* 100: 515-524
2. Otani H (2004) Reactive oxygen species as mediators of signal transduction in ischemic preconditioning. *Antioxid Redox Signal* 6: 449-469
3. Kido M, Otani H, Kyoji S, Sumida T, Fujiwara H, Okada T, Imamura H (2004) Ischemic preconditioning-mediated restoration of membrane dystrophin during reperfusion correlates with protection against contraction-induced myocardial injury. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 287: H81-H90
4. Hattori R, Matubara H (2004) Therapeutic angiogenesis for severe ischemic heart disease by autologous bone marrow cells transplantation. *Molecular and Cellular Biochemistry* 264: 151-155
5. Fujii H (2004) Is coma an absolute contraindication for emergency central aortic operation? *J Thorac and Cardiovasc Surg* 128: 749-750
6. Darryl Chu, Christopher C, Sullivan LD, Augustine JC, Kido M, Paul TW, Jamieson SW, Thistlethwaite PA (2004) A new animal model for pulmonary hypertension based on the overexpression of a single gene, angiotensin-1. *Ann Thorac Surg* 77: 449-456
7. Saito Y, Minami K, Kaneda H, Okada T, Maniwa T, Imamura H (2004) New tubular bioabsorbable knitted airway stent-Feasibility assessment for delivery and deployment in a dog model. *Ann Thorac Surg* 78: 1438-1440
8. Lingling Du, Kido M, Lee DV, Robinowitz J, Samulski RJ, Jamieson SW, Weitzmann MD,

Thistlethwaite PA (2004) differential myocardial gene delivery by recombinant serotype-specific adeno-associated viral vectors. *Molecular Therapy* 10: 604-608

9. 藤井弘史, 中谷寿男 (2004) 肺塞栓症の診断と治療. *臨床婦人科産科* 58: 671-675
10. 服部玲治 (2004) マレーシア心臓血管外科事情. *胸部外科* 57: 474-476
11. 藤井弘史, 中谷寿男 (2004) 胸部の画像診断. *レジデントノート* 6: 451-454

総説

1. Saito Y (2004) Endobronchial stents: Past, present, Future. *Resp and Crit Care Med* 25: 375-380

学会発表

1. Hattori R (2004) Therapeutic strategies for severe heart failure. 8th Annual Scientific Meeting, National Heart Association of Malaysia, Kuala Lumpur
2. Kido M, Du L, Sullivan C, Deutsch R, Jamieson SW, Thistlethwaite PA (2004) Gene transfer of soluble TIE-2 ameliorates pulmonary hypertension in rodents. 84th American Association for Thoracic Surgery (AATS), Toronto
3. Saito Y, Minami K, Omiya H, Imamura H (2004) Tracheal leiomyoma—a report of case—. 13th World Congress Bronchology, Barcelona
4. Sumida T, Otani H, Fujiwara H, Kyoji S, Hiroji I (2004) Antistunning effect of ischemic preconditioning paradoxically increases cardiomyocyte necrosis. 77th American Heart Association, Scientific Session, New Orleans
5. Kaneda H, Gutierrez C, de Perrot M, Yamane M, Quadri SM, Arenovich T, Waddell T, Lui M, Keshavjee S (2004) Pre-implantation multiple cytokine mRNA expression analysis in donor lung grafts predicts survival after lung transplantation.

- 24th International Society for Heart and Lung Transplantation (ISHLT), San Francisco
6. Andrade CF, Kaneda H, Der S, Tsang M, Santos CC, Keshavjee S, Liu M (2004) Alterations in gene expression of toll-like receptors in human lung transplantation. 24th International Society for Heart and Lung Transplantation (ISHLT), San Francisco
  7. Kaneda H, Andrade CF, Yamane M, Waddell T, Lui M, Keshavjee S (2004) 4264-Gene expression profiling of hypothermic ischemia and reperfusion injury in rat lung transplantation. 100th American Thoracic Society, Orland, U.S.A.
  8. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H, Shingu K (2004) The optimal dose, the time, and the mechanism of delayed cardioprotection by isoflurane. アメリカ麻酔学会, San Francisco
  9. Kyoji S, Otani H, Sumida T, Fujiwara H, Imamura H, Kamihata H, Iwasaka T (2004) Translocation of sarcolemmal dystrophin is a mechanistic link between mitochondrial dysfunction and necrosis in ischemic-reperfused heart. 第77回アメリカ心臓病学会, New Orleans
  10. 大谷 肇, 岡田隆之, 呉 越, 服部玲治, 角田智彦, 藤原弘佳, 京井志織, 今村洋二 (2004) Phosphatidylinositol-3 kinase-dependent cell to-cell interactions promote growth and differentiation of bone marrow cells in vitro. 第68回日本循環器学会総会, 東京
  11. 角田智彦, 大谷 肇, 藤原弘佳, 岡田隆之, 京井志織, 今村洋二 (2004) Free radical scavenger protects the ischemic heart from stunning and necrosis through distinct mechanisms. 第68回日本循環器学会総会, 東京
  12. 藤井弘史, 三宅建作, 大谷 肇, 今村洋二 (2004) 感染性内腸骨動脈瘤の1手術治験例. 第18回日本血管外科学会近畿地方会, 大阪
  13. 藤井弘史, 弘津喜史, 三宅建作, 井上 豪, 吉岡正太郎, 岸本真房, 松尾信昭, 山本 透, 田中孝也, 中谷寿男 (2004) 当センターにおける急性大動脈解離症例の現状. 第9回河内救急医療懇話会, 大阪
  14. 藤井弘史, 大谷 肇, 弘津喜史, 三宅建作, 山本 透, 北沢康秀, 田中孝也, 中谷寿男, 今村洋二 (2004) 当救命センターにおける急性大動脈解離に対する上行, 弓部置換術例. 第47回近畿心臓外科研究会, 大阪
  15. 藤原弘佳, 角田智彦, 宮本 隆, 中尾佳永, 大迫茂登彦, 大谷 肇, 今村洋二 (2004) 巨大Valsalva洞動脈瘤に対する大動脈基部再建術の一治験例. 第47回関西胸部外科学会, 京都
  16. 藤原弘佳, 大谷 肇, 角田智彦, 宮本 隆, 中尾佳永, 今村洋二 (2004) The mechanism of terminal hot spot revisited. 第57回日本胸部外科学会, 札幌
  17. 大谷 肇, 藤原弘佳, 角田智彦, 宮本 隆, 中尾佳永, 今村洋二 (2004) 心筋特異的再灌流障害の機序と対策. 57回日本胸部外科学会札幌
  18. 岡田隆之, 大谷 肇, 呉 越, 角田智彦, 藤原弘佳, 今村洋二 (2004) Bone marrow cell differentiation depends on adhesion to host cardiac cells I vitro. 第104回日本外科学会総会, 大阪
  19. 岡田隆之, 大谷 肇, 呉 越, 服部玲治, 角田智彦, 藤原弘佳, 今村洋二, Yacub Mohd Azhari (2004) Insulin-like growth factor1 enhances growth and differentiation of bone marrow cells upon contact with cardiomyocytes. 第57回日本胸部外科学会総会, 札幌
  20. 京井志織, 大谷 肇, 角田智彦, 岡田隆之, 藤原弘佳, 今村洋二, 神島 宏, 岩坂寿二 (2004) Restoration of membrane dystrophin during reperfusion correlates protection against contraction-induced myocyte injury in preconditioned heart. 第68回日本循環器学会総会, 東京
  21. 京井志織, 大谷 肇, 角田智彦, 岡田隆之, 藤原弘佳, 今村洋二, 神島 宏, 岩坂寿二 (2004) Cardiomyopathy heart is tolerant to ischemia/reperfusion injury through the mechanism dependent on iNOS, Protein Kinase C, and mitochondrial KATP channels. 第68回日本循環器学会総会, 東京
  22. 京井志織, 大谷 肇, 角田智彦, 岡田隆之, 藤原弘佳, 今村洋二, 神島 宏, 岩坂寿二 (2004) P38MAP Kinase and c-Jun NH2-terminal Kinase play differential roles in progression of heart failure in cardiomyopathy hamster. 第68回日本循環器学会総会, 東京

## 著書

1. 齊藤幸人 (2004) 肺切除術後の気管支断端ト  
ラブルの防止. 肺癌診療二頁の秘訣, 24-235  
頁, 金原出版, 東京
2. 馬庭知弘, 近藤晴彦 (2004) 肺切除術: 肺全  
摘術. 麻酔科診療プラクティス, 120-122 頁,  
文光堂, 東京

## 脳神経外科学講座

## 〈研究概要〉

脳腫瘍では悪性グリオーマに対する集学的治療を行い, 手術材料は全例に電顕, 組織培養を試みている. 株化細胞を基礎にして, フローサイトメトリー (FACS can購入), レーザースキャニングサイトメーターによるDNA histogramの解析, サイクリンによるcell kinetics, 無菌的細胞分取, 更に分子生物学的手法による解析などを行っている. また, 透過型, 走査型電顕による形態学的観察も行っている. 最近では, 脳腫瘍の遺伝子治療の基礎実験を行っている. 脳血管障害では臨床的に血管内手術とを組み合わせた最先端の治療を行っている. 小児脳外科では先天性奇形の実験的作成や, 水頭症の発生機序について研究をしている. 脳死研究では, 平坦脳波の自動解析を法医学・救急科・精神科と合同で研究を行っている. 頭蓋底外科では, 耳鼻科・形成外科とのチームにより困難な手術例に対する種々のアプローチを研究している.

虚血脳や脊髄損傷における骨髄移植による神経再生の基礎実験を臨床応用に向けて研究中である.

## 〈研究業績〉

## 原著

1. Masayuki Tsuji, Takayuki Inagaki, Harubumi Kasai, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto, Yoshiko Uemura (2004) Solitary myofibromatosis of the skull: a case report and review of literature. Childs Nerv Syst 20: 366-369
2. Tian-Xue Fan, Hiroko Hisha, Tie-Nan Jin, Kikuya Sugiura, Muneo Inaba, Guo-Xiang Yang, Qing Li, Xiao-Li Wang, Chang-Ye Song, Yun-Ze Cui, Qiang Li, Yuming Zhang, Xiao-Guang Zhang, Hong-Xue Fan, Susumu Ikehara (2004) Induction of Tolerance in Quadruple Chimeric Mice. Stem Cells 22: 683-695
3. Qiang Li, Yasuo Sakurai, Takashi Ryu, Keiichi Azuma, Kunikazu Yoshimura, Yasuo Yamanouchi, Susumu Ikehara, Keiji Kawamoto (2004) Expression of Rb2/p130 protein correlates with the degree of malignancy in gliomas. Brain tumor Pathol 21: 121-125
4. T Inada, Y Yamanouchi, S Jomura, S Sakamoto, M Takahashi, T Kambara, K Shingu (2004) Effect of propofol and isoflurane anaesthesia on the immune response to surgery. Anaesthesia 59: 954-959
5. 大重英行, 稲垣隆介, 吉村晋一, 我妻敬一, 笠井治文, 今堀 巧, 山内康雄, 河本圭司, 中野崇秀, 藤本幸子, 植村芳子 (2004) 新生児未熟型奇形腫の1例. 小児の脳神経 29: 355-359
6. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦 (2004) 脳波自動解析システム. CLINICAL NEUROSCIENCE 22(5): 568-569
7. 笠井治文, 大重英行, 塚崎裕司, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 軽微な腫瘍内出血を呈した小脳 glioblastoma の1例. 脳神経外科ジャーナル 13: 706-710
8. 久徳茂雄, 河本圭司 (2004) CT計測による正常頭蓋骨成長過程の検討. CI研究 26: 163-168
9. Yasuo Yamanouchi (2004) Occipital extra- and intracranial lipoencephalocele associated with tectocerebellar dysraphia: case for discussion. Childs Nerv Serv 20: 238

## 総説

1. Yoshihiro Numa, Yuhji Tsukazaki, Harubumi Kasai, Li Qiang, Keiji Kawamoto (2004) DNA content analysis using Laser Scanning Cytometry

- (LSC) in Brain Tumors. *Cytometry Research* 14: 63–68
2. Keiji Kawamoto, Yuji Tsukazaki, Yoshihiro Numa, Qiang Li (2004) Regional analysis of DNA-ploidy using laser scanning cytometer in glioma and its clinical application. *Cytometry (Abstract)* 59B: 18
  3. 河本圭司, 笠井治文, 吉村晋一, 大重英行, 櫻井靖夫, 山内康雄, 中嶋安彬 (2004) 頭蓋骨腫瘍分類・軟骨腫・良性軟骨芽細胞腫・軟骨肉腫. *脳神経外科* 32: 427–435
  4. 稲垣隆介 (2004) 二分脊椎 顕在性二分脊椎症. *Brain Nursing* 20: 867–875
  5. 稲垣隆介 (2004) 二分脊椎 潜在性二分脊椎症. *Brain Nursing* 20: 974–977
  6. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 水無脳症 (Hydraencephaly) の実態調査から一診断指針の作成に向けて. 平成15年度総括・分担研究報告書 (厚生労働科学研究費補助金「先天性水頭症」調査研究班): 83–84
  7. 河本圭司, 稲垣隆介, 塚崎裕司, 龍 堯志, 植村芳子, 坂井田紀子, 中嶋安彬 (2004) 骨腫・良性骨芽細胞腫・骨肉腫. *脳神経外科* 32: 549–556
  8. 河本圭司, 沼 義博, 今堀 巧, 加藤隆行, 山田明史, 中嶋安彬 (2004) Ewing肉腫, 悪性リンパ腫, 形質細胞腫, 多発性骨髄腫. *脳神経外科* 32: 669–676
  9. 河本圭司, 小田恭弘, 松本匡章, 辻 雅之, 山原崇弘, 中嶋安彬 (2004) 血管腫, 脊索腫, 血管内皮腫. *脳神経外科* 32: 781–787
  10. 河本圭司, 川上勝弘, 岩瀬正顕, 須山武裕, 李強, 中嶋安彬 (2004) 転移性骨腫瘍, 類表皮嚢胞, 類皮嚢胞, 頭蓋骨内髄膜腫. *脳神経外科* 32: 895–903
  11. 河本圭司, 大内雅文, 久徳茂雄, 辻 裕之, 山下敏夫, 中嶋安彬 (2004) 動脈瘤様骨嚢胞, 線維性異形成, 好酸球肉芽腫. *脳神経外科* 32: 985–993
  12. 河本圭司, 我妻敬一, 大石哲也, 上坂達郎, 瀬野敏孝, 川口琢也, 中嶋安彬 (2004) 頭蓋骨巨細胞腫, 筋線維腫, 骨Paget病. *脳神経外科* 32: 1085–1090
  13. 稲垣隆介 (2004) もやもや病. *Brain Nursing* 20: 1268–1274
- 学会発表
1. 稲垣隆介 (2004) 臨床検査技師に必要な脳神経外科疾患. 大阪府臨床衛生検査技師会 平成16年度生涯教育推進講座, 大阪
  2. 稲垣隆介 (2004) シヤントの基本と問題点. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  3. 河本圭司 (2004) Glio-neural tumor. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 熊本
  4. Keiji Kawamoto, Harubumi Kasai, Tetsuya Oishi, Takashi Ryu, Keiichi Aduma, Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Isao Nishimura (2004) Ultrastructural study of hematopoietic brain tumor. 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy, Kanazawa
  5. Keiji Kawamoto, Yuji Tsukazaki, Yoshihiro Numa, Qiang Li (2004) Regional analysis of DNA-ploidy using Laser Scanning Cytometer in glioma and its clinical application. ISAC, France
  6. Takayuki Inagaki, Hideyuki Ohshige, Takumi Imahori, Takahide Nakano, Noriko Sakaida, Yasuo Yamanouchi and Keiji Kawamoto (2004) Primitive Neuroectodermal Tumor of the Skull Base: A Case Report. 11th International Symposium on Pediatric Neuro-oncology, Boston
  7. Inagaki T, Yamanouchi Y, Kawamoto K (2004) Histological study of tight filum terminale. 32nd Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Buenos Aires
  8. Shiguang Zhao, Jian Hua Zhang, Bao Hong Jiang, En Zhong Liu, Keiji Kawamoto (2004) Effect of arsenic trioxide on cell cycle arrest in glioma cell lines by using laser scanning cytometry. 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy, Kanazawa
  9. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 神寄清一郎, 田中達也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症頭部外傷の集学的治療 頭蓋内圧と脳波の持続測定の有効性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  10. 河本圭司 (2004) サイトメリーの今後の動向—ISACの報告—. 第14回日本サイトメトリー学会, 高崎
  11. 稲垣隆介, 吉村晋一, 塚崎裕司, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 脊髄の再繫留について: ゴア

- テックスの使用は予防効果があるか? 第21回日本二分脊椎研究会, 東京
12. 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 吉岡正太郎, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症脊椎損傷患者の急性期管理. 第9回日本脳神経外科救急学会, 広島
  13. 沖井 裕, 河本圭司, 赤根 敦, 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 中谷壽男 (2004) 脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的に解析した一例. 第9回日本脳神経外科救急学会, 広島
  14. 沼 義博, 辻 雅之, 山内康雄, 河本圭司 (2004) Basal Interhemispheric Approach にて摘出した頭蓋咽頭腫の4例. 第14回日本間脳下垂体腫瘍学会, 金沢
  15. 稲垣隆介, 笠井治文, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 眼窩内(眼窩周辺)の腫瘍性病変について. 第15回義眼床手術研究会, 大阪
  16. 吉村晋一, 川口琢也, 上坂達郎, 山原崇弘, 我妻敬一, 櫻井靖夫, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 再出血を呈した横S状静脈洞dural AVFに対し導出静脈draining vein切断と洞塞栓sinus occlusionを行った一例. 第33回日本脳卒中の外科学会, 名古屋
  17. 久徳茂雄, 富野祐里, 黒岡定浩, 谷口俊子, 稲垣隆介, 山内康雄 (2004) 頭蓋冠拡大術を骨延長で行うべきでなかった症例について. 第47回日本形成外科学会, 東京
  18. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 田中孝也, 中谷健二, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症脳損傷病態管理におけるBISモニターの有用性と問題点. 第7回日本臨床救急医学会総会, 横浜
  19. 稲垣隆介, 笠井治文, 吉村晋一, 川口琢也, 今堀 巧, 我妻敬一, 山原崇弘, 山内康雄, 中野崇秀, 野田幸弘, 藤本幸子, 河本圭司 (2004) 小児後頭蓋窩腫瘍の治療方針. 第27回日本小児神経外科学会, 埼玉
  20. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄, 富野祐里, 黒岡定浩, 河本圭司 (2004) 頭蓋冠拡大術における延長器のminor complicationsとその改良. 第27回日本小児神経外科学会, 埼玉
  21. 久徳茂雄, 富野祐里, 井上唯史, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 頭蓋冠骨延長術における前頭蓋底骨切りについて. 第16回日本頭蓋底外科学会, 横浜
  22. 稲垣隆介 (2004) 二分脊椎症に関する基礎実験の体得と臨床像との対比. 第44回日本先天異常学会, 佐賀
  23. 沼 義博, 辻 雅之, 山内康雄, 河本圭司 (2004) トルコ鞍近傍の炎症性疾患の治療経験. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  24. 吉村晋一, 笠井治文, 櫻井靖夫, 塚崎裕司, 龍堯志, 我妻敬一, 山原崇弘, 大石哲也, 上坂達郎, 川口琢也, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 鞍結節部髄膜腫に対する摘出術とStrategy. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  25. 山内康雄, 稲垣隆介, 山原崇弘, 吉村晋一, 笠井治文, 河本圭司, 久徳茂雄 (2004) 水頭症病態による巨頭症の手術治療. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  26. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 神寄清一郎, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症頭部外傷の集学的治療 頭蓋内圧と脳波の持続測定の有用性. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
  27. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 中谷健二, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 頸椎クリアランスの現状と問題点. 第32回日本救急医学会, 幕張
  28. 沼 義博, 辻 雅之, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 脳腫瘍と鑑別を要したトルコ鞍近傍の炎症性疾患. 第9回日本脳腫瘍の外科学会, 金沢
  29. 笠井治文, 稲垣隆介, 吉村晋一, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 治療に難渋した頭蓋内原発悪性リンパ腫の一例. 第59回近畿脳腫瘍研究会, 神戸
  30. 山原崇弘, 吉村晋一, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 大後頭孔狭窄を伴った軟骨異栄養症の1例. 第59回近畿脳腫瘍研究会, 神戸
  31. 我妻敬一, 吉村晋一, 笠井治文, 塚崎裕司, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) けいれんにて発症した毛細血管拡張症の1例. 第48回日本脳神経外科学会近畿地方会, 大阪
  32. 辻 雅之, 加藤隆行, 稲垣隆介, 笠井治文, 大重英行, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 頭蓋底から眼窩内へ広がる肉芽腫の一例. 第27回日本脳神経CI学会, 名古屋

33. 李 強, 趙 世光, 櫻井靖夫, 龍 堯志, 我妻敬一, 笠井治文, 沼 義博, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) Expression of cyclins, p53 and DNA content analysis in glioma. 第22回日本脳腫瘍病理学会, 新潟
34. 李 強, 安水良知, 王 曉麗, 宋 昌曄, 張玉明, 河本圭司, 池原 進 (2004) 虚血脳モデルに対する骨髓細胞を用いた脳内移植の検討. 第93回日本病理学会総会, 札幌
35. 李 強, 櫻井靖夫, 龍 堯志, 沼 義博, 河本圭司 (2004) Immunohistochemical and LSC analysis for expression of cyclins, p53 and DNA content in glioma. 第14回日本サイトメトリー学会, 群馬
36. 大重英行, 笠井治文, 今堀 巧, 龍 堯志, 吉村晋一, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 錐体骨に発生し小脳出血を伴った chondrosarcoma の一例. 第16回日本頭蓋底外科学会, 横浜
37. Qiang Li, Yasuo Sakurai, Takashi Ryu, Keiichi Aduma, Harubumi Kasai, Yoshihiro Numa, Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto (2004) Immunohistochemical and flow cytometric analysis of p53 and DNA content in glioma. 第22回日本ヒト細胞学会, 東京
38. 李 強, 櫻井靖夫, 龍 堯志, 我妻敬一, 笠井治文, 沼 義博, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) Immunohistochemical and flow cytometric analysis of p53 and DNA content in glioma. 第5回日本分子脳神経外科学会, 東京
39. 李 強, 龍 堯志, 我妻敬一, 櫻井靖夫, 笠井治文, 沼 義博, 山内康雄, 村上知之, 河本圭司 (2004) 脳腫瘍cyst液のサイトカインのマルチ解析. 第63回日本脳神経外科学会総会, 名古屋
40. 大石哲也, 笠井治文, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 頭蓋骨に発生した血管内皮腫の一例. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 熊本
41. 山原崇弘, 稲垣隆介, 我妻敬一, 上坂達郎, 川口琢也, 吉村晋一, 塚崎裕司, 櫻井靖夫, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 低位円錐症例に対する検討. 第22回日本こども病院神経外科医会, 神戸
42. Qiang Li, Naoki Hosaka, Wenhao Cui, Takashi Ryu, Yunze Cui, Xiaoli Wang, Yuming Zhang, Changye Song, Kequan Guo, Ming Li, JianFeng Wang, Keiji Kawamoto, Susumu Ikehara (2004) Lin-CD34+ Bone Marrow Cells Express Neural-Specific Markers and Appear As Neuron-like Cells by Ex Vivo Treatment. 第34回日本免疫学会総会, 札幌
43. 川口琢也, 吉村晋一, 笠井治文, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 意識障害・外眼筋麻痺で発症した下垂体卒中の一例. 第59回近畿脳腫瘍研究会, 神戸
44. 上坂達郎, 吉村晋一, 大石哲也, 川口琢也, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 小児小脳膠芽腫の1例. 第48回日本脳神経外科学会近畿地方会, 大阪
45. 川口琢也, 吉村晋一, 稲垣隆介, 笠井治文, 今堀 巧, 我妻敬一, 山原崇弘, 辻 雅之, 大重英行, 上坂達郎, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 緊急処置を要する小児後頭蓋眼窩の治療方針. 第9回日本脳神経外科救急学会, 広島
46. 川口琢也, 塚崎裕司, 稲垣隆介, 笠井治文, 今堀 巧, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 硬膜転移を来した急性リンパ性白血病 (ALL) の一例. 第27回日本脳神経CI学会, 名古屋
47. 上坂達郎, 稲垣隆介, 吉村晋一, 今堀 巧, 笠井治文, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 悪性リンパ腫の治療との関係が示唆される小児悪性脳腫瘍の一例. 第27回日本小児神経外科学会, 埼玉
48. 川口琢也, 稲垣隆介, 大石哲也, 山原崇弘, 辻 雅之, 龍 堯志, 櫻井靖夫, 山内康雄, 河本圭司, 北村直行, 木下 洋 (2004) 低体重出生児の脳室内出血. 第27回日本小児神経外科学会, 埼玉
49. 仙波都志香, 李 強, 櫻井靖夫, 龍 堯志, 沼 義博, 河本圭司 (2004) Sorting による微量細胞の光顕, 電顕用試料作成法. 第14回日本サイトメトリー学会, 群馬

#### 著 書

1. 河本圭司 (2004) “脳腫瘍の外科” に必要な病理: 脳神経外科医の立場から. 脳腫瘍の外科—脳腫瘍外科のコンセプトと治療予後向上の工夫 (吉井與志彦編) 98–106 頁, メディカ出版, 大阪

2. 河本圭司 (2004). 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第2版2刷 (河本圭司編集代表) 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第2版2刷, 東京
3. 河本圭司 (2004) 近畿脳腫瘍病理検討会記録総集編 (その1) (河本圭司編集代表) 264頁, 近畿脳腫瘍病理検討会
4. 山内康雄 (2004) 水頭症の治療. 水頭症のてびき (松本 悟, 山内康雄編) 48-64頁, 財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
5. 稲垣隆介 (2004) シヤント治療後の水頭症患者さんの長期予後と生活上の留意点. 水頭症のてびき (松本 悟, 山内康雄編) 87-95頁, 財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
6. 山内康雄 (2004) 水頭症のてびき (松本 悟, 山内康雄編) 財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団

## 整形外科科学講座

### <研究業績>

原 著

1. Braun A, Takemura S, Vallejo AN, Goronzy JJ, Weyand CM (2004) Lymphotoxin beta-mediated stimulation of synovial cells in rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum* 50: 2140-2150
2. Keizo Takada, Muneo Inaba, Naoya Ichioka, Susumu Baba, Mitsuru Taira, Koichi Nakamura, Hirokazu Iida, Susumu Ikehara (2004) Prevention of Senile Osteoporosis in SAMP6 Mice by Intra-Bone Marrow Injection of Allogeneic Bone Marrow Cells. *International Congress Series* 1260 (2004) The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): An Animal Model of Senescence 393-397
3. Takemura S, Toda Y, Goronzy JJ, Weyand CM, Ogawa R, Iida H (2004) HLA-DRB1 haplotype did not affect the medium-term results of total knee arthroplasty in patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol* 14: 37-42
4. 佐々木万弓, 脇田重明 (2004) 当科における大腿骨転子部骨折に対するガンマネイルの治療成績. *Hip Joint* 30: 158-160
5. 菅 俊光, 橋本寿子, 沖井 明, 奥中美早, 北村多愛, 山田志穂 (2004) 人工股関節置換術におけるクリニカルパスの症例別検討—関節リウマチ—. *クリニカルリハビリテーション* 13: 86-91
6. 和田孝彦, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2004) 成人における化膿性股関節炎およびTHA 後感染例の検討—antibiotics loaded acrylic cement (ALAC) の使用経験—. *整・災外* 47: 393-402
7. 西原 歩, 和田孝彦, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2004) 股関節に発生した osteochondromatosis の1例—杉岡式大腿骨頭回転骨切り術の進入方法を用いて—. *整・災外* 47: 915-919
8. 和田孝彦, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2004) 関節リウマチに対するセメントレス人工股関節置換術の中期成績. *整形災害外科* 47: 193-197
9. 和田孝彦, 飯田寛和 (2004) 成人に発症した化膿性股関節炎に対する人工股関節全置換術. *整形外科* 55: 948-954
10. 矢野光紀, 前川 徹, 浅野太洋, 佐々木万弓, 脇田重明 (2004) 関節リウマチに合併する上位頸椎病変の検討. *中部整災誌* 47: 907-908
11. 佐々木万弓, 脇田重明, 浅野太洋, 前川 徹, 寺脇之博 (2004) 当院における大腿骨転子部骨折に対するCHS, gamma nail の治療成績. *中部整災誌* 47: 945-946
12. 和田孝彦, 徳永裕彦, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2004) 当科における人工股関節置換術後感染に対する治療経験—Antibiotics Loaded Acrylic Cement (ALAC) を用いた一次的, 二次的再置換術—. *日本人工関節学会誌* 34: 3-4
13. 大窪 博, 徳永裕彦, 塚本英資, 松矢浩暉, 和田孝彦, 飯田寛和 (2004) 感染性人工股関節に対するStaging Systemの有用性について. *日本人工関節学会誌* 34: 9-10
14. 長谷川潔 (2004) 京セラ KLS 腫瘍用近位置換型システムを使用し, 再置換術した二症例の経診. *日本人工関節学会誌* 34: 945-946
15. 谷川暢之, 斉藤貴徳, 飯田寛和 (2004) 末梢神

経 bypass 移植術の再生軸索の起源についての検討. 末梢神経 15: 128-130

16. 和田孝彦 (2004) 特発性大腿骨頭壊死症に対する骨髄未分化幹細胞移植の効果—家兎骨頭壊死モデルを用いて— (中間報告). 財団法人日本股関節研究振興財団 19

#### 総 説

1. 赤木繁夫 (2004) 頸椎症性頸髄症. SEIKI-GEKAKANGO 9(1): 68-75
2. 福田 登, 飯田寛和 (2004) 腱板損傷. SEIKI-GEKAKANGO 9(2): 75-83
3. 児島 新, 飯田寛和 (2004) 肘部管症候群. SEIKI-GEKAKANGO 9(3): 68-75
4. 中村誠也 (2004) 橈骨遠位端骨折. SEIKI-GEKAKANGO 9(4): 94-100
5. 笹井邦彦 (2004) 腰椎椎間板ヘルニア. SEIKI-GEKAKANGO 9(5): 43-49
6. 和田孝彦 (2004) 大腿骨頭壊死. SEIKI-GEKAKANGO 9(6): 82-88
7. 大野博史 (2004) 前十字靭帯損傷. SEIKI-GEKAKANGO 9(7): 74-79
8. 宮島茂夫, 飯田寛和 (2004) 関節リウマチ. SEIKI-GEKAKANGO 9(8): 54-60
9. 坂根正則 (2004) 先天性内反足. SEIKI-GEKAKANGO 9(9): 38-43
10. 森 良樹 (2004) 後縦靭帯骨化症. SEIKI-GEKAKANGO 9(10): 72-78
11. 二宮俊憲 (2004) 五十肩. SEIKI-GEKAKANGO 9(11): 74-79
12. 大成浩征 (2004) 腰部脊柱管狭窄症. SEIKI-GEKAKANGO 9(12): 50-56
13. 飯田寛和 (2004) Spitzzy 変法. 関節外科 23: 146-151
14. 飯田寛和 (2004) 白蓋形成術. 関節外科 23: 1103-1107
15. 飯田寛和 (2004) 再置換術の工夫—弛んでいないステムの抜去方法—. 関節外科 23: 125-130

#### 学会発表

1. Iida H (2004) Case Debate: 51 years old Southern Chinese Female with Dysplastic hip. ASPAC 2004, オーストラリア, ブリスベン

2. Iida H, Wada T, Matsuya H (2004) A device for accurate stem insertion in cemented THA. 14th Asia Pacific Orthopaedic Association, Kuala Lumpur, Malaysia
3. Iida H (2004) THA for CDH. 14th Asia Pacific Orthopaedic Association, Kuala Lumpur, Malaysia
4. Nakamura M, Iida H, Ishida H (2004) Distraction lengthening of middle metacarpal bone in a patient with Tricho-Rhino-Phalangeal Syndrome. A case report. The 5th Congress of THE ASIAN PACIFIC FEDERATION OF SOCIETIES FOR SURGERY OF THE HAND, Osaka
5. Esumi T (2004) Successful Allogeneic Leg Transplantation in Rats in Conjunction with Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells. The 5th Congress of THE ASIAN PACIFIC FEDERATION OF SOCIETIES FOR SURGERY OF THE HAND, Osaka
6. 大窪 博, 徳永裕彦, 塚本英資, 松矢浩暉, 和田孝彦, 飯田寛和 (2004) 感染性人工股関節の治療に対する staging system の有用性について. 第34回日本人工関節学会, 幕張
7. 和田孝彦, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2004) 当科における人工股関節置換術後感染に対する治療経験—Antibiotics Loaded Acryl Cement (ALAC) を用いた一次的, 二次的再置換術. 第35回日本人工関節学会, 幕張
8. 坂根正則, 赤木繁夫, 中村誠也, 飯田寛和 (2004) 膝外反伸展変形, 脚長差のある Ollier's 病に対して, イリザロフ創外固定器を用いて治療した1例. 第33回近畿小児整形外科懇話会, 大阪
9. 坂根正則, 赤木繁夫, 中村誠也, 大野博史, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2004) 膝蓋骨に発生した外骨腫の1例. 第33回近畿小児整形外科懇話会, 大阪
10. 岡村泰三, 松田康孝, 梁瀬義章 (2004) 明らかな骨折前に画像診断が可能であった大腿骨頸部疲労骨折の1例. 第24回大阪整形外科症例検討会, 大阪
11. 若林 英, 清水克時, 細江英夫, 杉山誠一, 大西量一郎 (2004) 頸椎から胸椎レベルに及ぶ多発性椎間板ヘルニアの稀な1例. 第102回中部日本整形外科災害外科学会, 松山市

12. 長谷川潔, 原田理人, 北西正光 (2004) 無輸血治療を希望するエホバ証人の二治療経験. 第102回中部日本整形外科災害外科学会, 松山市
13. 矢野光紀, 前川 徹, 浅野太洋, 佐々木万弓, 脇田重明 (2004) 関節リウマチに合併する上位頸椎病変の検討. 第102回中部日本整形外科災害外科学会, 松山市
14. 佐々木万弓, 脇田重明, 前川 徹, 浅野太洋, 矢野光紀 (2004) 当科における大腿骨転子部骨折に対するCHS, Gamma Nailの治療成績. 第102回中部日本整形外科災害外科学会, 松山市
15. 薬師寺厚芳, 濱田 彰, 徳永裕彦, 中谷晃之, 塚本英資 (2004) 早期荷重をおこなったセメントレスTHAの短期成績. 第102回中部日本整形外科災害外科学会, 松山市
16. 前川 徹, 脇田重明, 浅野太洋, 矢野光紀, 佐々木万弓 (2004) リウマチ性上位頸椎病変の自然経過. 第48回日本リウマチ学会, 岡山
17. 竹村清介, 二宮俊憲, 飯田寛和 (2004) 関節リウマチ滑膜におけるリンパ球集簇の免疫学的検討. 第48回日本リウマチ学会, 岡山
18. 中村誠也, 飯田寛和, 南川義隆, 浅井聖子 (2004) リウマチ手の術後におけるスプリントの工夫. 第47回日本手の外科学会学術集会, 大阪
19. 市岡直也, 斉藤貴徳, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術. 第47回日本手の外科学会学術集会, 大阪
20. 斉藤貴徳, 市岡直也, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 全型腕神経叢損傷に対する対側C7移行術の有用性と問題点. 第47回日本手の外科学会学術集会, 大阪
21. 福田 登 (2004) 健常者の肩関節MRI像 (T2\*画像における腱板断裂擬陽性について). 第9回日本関節症研究会学術集会, 東京
22. 大窪 博, 徳永裕彦, 薬師寺厚芳, 塚本英資, 中谷晃之, 濱田 彰, 松矢浩暉, 和田孝彦, 飯田寛和 (2004) Staging systemを用いた感染性人工股関節の治療評価. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
23. 斉藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 顕微鏡下片側侵入全周除圧術の術後短期成績—従来法による両側開窓術との比較検討—. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
24. 池田一博, 亀山 修, 中尾浩志, 鈴木史和 (2004) 神経選択的電流知覚閾値 (CPT) を用いた腓骨神経麻痺発生機序についての一考察. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
25. 塚本英資, 徳永裕彦, 中谷晃之, 大窪 博, 薬師寺厚芳, 濱田 彰 (2004) 骨移植併用セメントレス人工股関節置換術後の早期荷重の検討. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
26. 飯田寛和, 伊藤達雄, 中村孝志 (2004) 生体活性骨補填材料使用実態調査結果. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
27. 斉藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 森 良樹, 小串むつみ, 飯田寛和 (2004) motor point刺激による伝導速度測定を用いた手根管症候群の診断. 第77回日本整形外科学会学術総会, 神戸
28. 大成浩征, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 転移性脊椎腫瘍と鑑別を要した脊椎カリエスの2例. 第27回日本骨・関節感染症研究会, 旭川市
29. 中村誠也, 宮島茂夫, 重栖 孝, 飯田寛和 (2004) 下肢長管骨骨髄炎に対する抗生剤含有骨セメント髓内釘を用いた治療. 第27回日本骨・関節感染症研究会, 旭川市
30. 大成浩征, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 頸椎椎弓形成術後の軸性疼痛についての検討—アンケート調査法による—. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 東京
31. 笹井邦彦, 斉藤貴徳, 大成浩征, 若林 英, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 胸椎脊柱管内病変に対する顕微鏡視下片側侵入椎弓切除術の有用性. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 東京
32. 笹井邦彦, 斉藤貴徳, 大成浩征, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 脊髄症あるいは脊髄神経根症を呈した頸椎椎間板ヘルニアに対する椎弓形成術を併用した顕微鏡視下後方摘出術. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 東京
33. 斉藤貴徳, 森 良樹, 今田直紀, 小串むつみ, 飯田寛和 (2004) 体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリング. 第33回日本脊椎脊髄病学会, 東京
34. 山本龍範, 加須屋崇, 坂根正則, 児島 新, 飯

- 田寛和 (2004) 人工関節周辺の大腿骨骨折治療への骨セメント使用の試み. 第30回日本骨折治療学会, 東京
35. 中村誠也, 飯田寛和, 中谷健治, 中谷壽男 (2004) Limited Contact-LCP plateを用いた上肢骨疾患に対する治療経験. 第30回日本骨折治療学会, 東京
36. 徳永裕彦 (2004) 前方侵入による低侵襲人工股関節置換術. 第12回Hip Forum 2004, 函館市
37. 飯田寛和 (2004) 人工股関節周辺骨折に対する対策. 第12回Hip Forum 2004, 函館市
38. 加藤勇司, 児島 新, 飯田寛和 (2004) 腰椎前方固定に用いる新しい interlocking device の開発と初期固定性について 第一報一. 第13回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 札幌
39. 笹井邦彦, 大成浩征, 赤木繁夫, 若林 英, 梅田眞志, 飯田寛和 (2004) 腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡を用いた片側侵入黄色靭帯全切除術. 第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 埼玉
40. 吉田雄吾, 笹井邦彦, 大成浩征, 赤木繁夫, 飯田寛和, 湯川尚哉, 辻 裕之, 吉村晋一, 稲垣隆介, 山内康雄 (2004) 再発ダンベル型神経鞘腫の摘出後に椎骨動脈の仮性動脈瘤破裂を生じた1症例. 第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 埼玉
41. 大成浩征, 笹井邦彦, 赤木繁夫, 飯田寛和, 稲垣隆介, 山内康雄 (2004) 抜去を要したMagerl Screwの1例. 第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 埼玉
42. 宮島茂夫, 大野博史, 飯田寛和 (2004) 初回TKAにrotating hinge prosthesisを使用した症例に関する検討. 第32回日本リウマチ・関節外科学会, 奈良
43. 徳永裕彦, 近藤 誠, 北川 洋, 東 隆司 (2004) 臼蓋に骨移植を併用した人工股関節置換術の早期荷重. 第32回日本リウマチ・関節外科学会, 奈良
44. 徳永裕彦, 近藤 誠, 北川 洋, 東 隆司 (2004) 小切開による人工股関節置換術の検討. 第32回日本リウマチ・関節外科学会, 奈良
45. 福田 登, 児島 新, 今田直紀, 飯田寛和 (2004) 鎖骨遠位端切除術後に腕神経叢麻痺を発症した1例. 第31回日本肩関節学会, 横浜
46. 飯田寛和, 和田孝彦, 松矢浩暉 (2004) 臼蓋形成術 (Spitzzy変法) 手術手技のポイント. 第31回日本股関節学会, 長崎
47. 佐々木万弓, 脇田重明 (2004) Modified transgluteal approach (Dall)によるTHAにおける大転子切離骨片の検討. 第31回日本股関節学会, 長崎
48. 中村誠也 (2004) 開放骨折に対する創外固定器を用いた初期治療. 第2回Limb Deformity Course KOBE JAPAN, 神戸
49. 斉藤貴徳, 今田直紀, 小串むつみ, 谷川暢之, 飯田寛和 (2004) 経頭蓋電気刺激一筋記録法による術中モニタリングの適応限界. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京
50. 今田直紀, 小串むつみ, 飯田寛和, 斉藤貴徳 (2004) 経頭蓋電気刺激一筋記録による運動誘発電位の至適記録法の検討. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京
51. 小串むつみ, 斉藤貴徳, 今田直紀, 飯田寛和 (2004) 手根管症候群にたいするmotor point刺激による伝導速度測定. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京
52. 前川 徹, 三木孝人, 脇田重明, 片平恵津子 (2004) レミケード点滴治療クリニカルパス. 第5回日本クリニカルパス学会, 仙台
53. 三木孝人, 前川 徹, 脇田重明, 片平恵津子 (2004) THAクリニカルパス. 第5回日本クリニカルパス学会, 仙台
54. 足立 崇, 大成浩征, 赤木繁夫, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 感染性脊椎炎の初期診断について. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
55. 児島 新, 小林義輝, 中村誠也, 中谷健治, 飯田寛和 (2004) 転落受傷患者についての検討. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
56. 和田孝彦, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2004) 新しいコンセプトで開発されたTripple Taper Polished Stem (C-Stem)の短期成績. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
57. 若林 英, 赤木繁夫, 大成浩征, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 脊髄砂時計腫の検討. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
58. 梅田眞志, 笹井邦彦, 大成浩征, 赤木繁夫, 飯

- 田寛和 (2004) 腰椎の硬膜内に転移した前立腺癌の1例. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
59. 稟 賢一, 千束福司, 三木堯明, 池田 登, 上尾豊二 (2004) 腰椎変性迂り症に対する非固定術の中期成績. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
60. 長谷川 潔, 北西正光 (2004) 京セラ腫瘍用KLS 近位置換型システムを使用し再置換した三症例の経験. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
61. 斉藤貴徳, 藤澤礼子, 市岡直也, 森 良樹, 飯田寛和 (2004) X-tubeを用いた顕微鏡下片側進入全周除圧術. 第103回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸
62. 中村誠也 (2004) 救急医療における整形外科疾患について. 第39回北河内救急研究会, 大阪
63. 飯田寛和 (2004) 股関節外科40年の進歩と今後の課題. 第396回東北大学整形外科談論会, 仙台
64. 笹井邦彦 (2004) 頸椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡視下後方摘出術. 第14回大阪整形外科手術手技研究会, 大阪
65. 飯田寛和 (2004) 人工股関節置換術一前外側アプローチ. 第14回大阪整形外科手術手技研究会, 大阪
66. 福田 登, 和田孝彦, 宮島茂夫, 足立 崇, 菅俊光, 小串むつみ, 飯田寛和 (2004) 在宅加療困難な重度RA患者の1考察. 第11回大阪リウマチケア研究会, 大阪
67. 赤木繁夫 (2004) 関節リウマチの外科的治療. 近畿地区リウマチのケア研修会, 大阪
68. 菅 俊光 (2004) 呼吸理学療法とその効果について. 第17回日本リハビリテーション医学会近畿地方会, 大阪
69. 飯田寛和 (2004) 人工股関節再置換術の手技とpitfall. 第13回奈良県骨・関節研究会, 奈良
70. 飯田寛和 (2004) 人工股関節に関わる諸問題. 第6回Latest Orthopedics研究会, 神戸
71. 谷川暢之, 斉藤貴徳, 小串むつみ, 今田直紀, 飯田寛和 (2004) 末梢神経不全損傷に対するbypass graft 術の再生形式についての検討. 第47回日本手の外科学会学術集会, 大阪
72. 高田敬蔵, 稲葉宗夫, 平 充, 馬場 奨, 飯田寛和, 池原 進 (2004) SAMP6 マウスを用いた, 骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療. 日本病理学会, 北海道
73. 高田敬蔵, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 平 充, 馬場 奨, 福井淳一, 郭 可泉, 飯田寛和, 池原 進 (2004) SAMP6 マウスを用いた, 骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療. 老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会, 大阪
74. 谷川暢之, 斉藤貴徳, 飯田寛和 (2004) 末梢神経 bypass 移植術の再生軸索の起源についての検討. 第15回日本末梢神経学会, つくば市
75. 高田敬蔵, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 平 充, 馬場 奨, 福井淳一, 郭 可泉, 李 銘, 飯田寛和, 池原 進 (2004) SAMP6 マウスを用いた, 骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療. 日本免疫学会総会, 学術総会, 北海道
76. 谷川暢之, 斉藤貴徳, 飯田寛和 (2004) 末梢神経 Bypass 移植術の再生軸索の起源と再生形式についての検討. 第19回日本整形外科学会基礎学術集会, 東京
77. 山本 慶, 大野博史, 加須屋崇, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 大腿骨頭に発生した良性軟骨芽細胞腫の一例. 第396回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
78. 黒井亜弥, 和田孝彦, 福田 登, 飯田寛和 (2004) CT ガイド下に経皮的切除を行った類骨々腫の1例. 第397回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
79. 河野良太, 山本龍範, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 腰椎黄色靭帯内血腫の一例. 第398回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
80. 薬師寺厚芳, 中谷晃之, 大窪 博, 塚本英資, 徳永裕彦, 濱田 彰 (2004) 生後1ヵ月の乳児に発症した橈骨骨髄炎の1例. 第399回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
81. 若林 英, 赤木繁夫, 大成浩征, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2004) 対麻痺を呈した第8胸椎血管腫の1例. 第399回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
82. 守屋 円, 宮島茂夫, 児島 新, 飯田寛和 (2004) 両中指伸展拘縮を来した血清反応陰性対称性滑膜炎 (RS3PE) の1例. 第400回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
83. 森 康治, 笹井邦彦, 梅田真志, 若林 英, 大

- 成浩征, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2004) 腰椎黄色靱帯嚢腫の2例. 第401回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
84. 井上 豪, 福田 登, 中村誠也, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2004) 鳥口突起骨折を合併した肩鎖骨関節脱臼に対し, Dewar法にて治療した1例. 第402回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪

## 著書

- 菅 俊光 (2004) 第1部運動不足による影響 第2章用語の定義. エクササイズ-疾患予防のための運動- (前島伸一郎, 前島悦子監訳) 5-9頁, エルゼビア・ジャパン, 東京
- 菅 俊光 (2004) 第3章スポーツ障害の治療 スポーツ障害に対する治療の概略. 親とコーチのためのスポーツ医学 傷害の予防と対策 (前島伸一郎, 前島悦子監訳) 34-40頁, 金芳堂, 京都

## 形成外科学講座

## 〈研究概要〉

形成外科学の対象領域は, 体表を中心とする全身で, 先天外表異常, 外傷, 腫瘍切除などによる形態の変化, 損傷・欠損や母斑, 血管腫など色調変化の機能的, 整容的再建を行うことを目的としている. その研究対象も極めて幅広い. 現在の主な基礎的・臨床的研究を列挙する.

- 1) 創傷治癒
- 2) 潰瘍, 熱傷, 褥瘡に対する創傷被覆材
- 3) ケロイド, 癍痕
- 4) 毛の発毛, 育毛
- 5) 皮膚, 皮膚付属器腫瘍の免疫組織学的検討
- 6) 皮膚腫瘍, 母斑, 血管腫, しみの臨床とそのレーザー・ケミカルピール治療
- 7) 熱傷の病態生理および臨床
- 8) 新しい皮弁の開発
- 9) 骨髄移植の免疫寛容における他家同種移植
- 10) 頭蓋顎顔面骨の発育, 計測
- 11) 骨・軟骨形成, 骨・軟骨誘導, 培養軟骨, 人工骨, 骨・軟骨代謝
- 12) 脂肪組織由来多分化能細胞の分化研究
- 13) アデノウイルスベクターを用いた遺伝子導入
- 14) マイクロサージャリー, 微小循環再建
- 15) 多指(趾)症, 合指(趾)症の発生と再建
- 16) 眼瞼・眼窩領域の解剖と再建
- 17) 顔面外傷, 顔面骨骨折の病態と臨床
- 18) 頭蓋底の発生, 解剖, 手術
- 19) 頭頸部腫瘍手術とその再建
- 20) 唇裂口蓋裂の発生と集学的治療
- 21) 構音障害, 音声障害の病理と臨床
- 22) GIDの病態と手術
- 23) その他

以下に概説する.

- 1) 創傷治癒

創傷治癒における線維芽細胞の動態

## 線維芽細胞のケモタキシス

- 2) 潰瘍, 熱傷, 褥瘡に対する創傷被覆材  
各種被覆材の開発と応用  
家兎耳介を用いた創傷被覆材と創傷治癒過程に関する研究
- 3) ケロイド, 癍痕  
ケロイド体質と発生病理, 毛孔性苔癬との関連の研究  
ケロイド由来細胞のTGF- $\beta$ , SMADsの検討
- 4) 毛の発毛, 育毛  
Wistar rat およびC57BL6 mouseを用いた毛成長・毛周期に関する研究  
IL6による毛育毛促進の研究
- 5) 皮膚, 皮膚付属器腫瘍の免疫組織学的検討  
皮膚, 皮膚付属器腫瘍の診断, 機能評価
- 6) 皮膚腫瘍, 母斑, 血管腫, しみの臨床とそのレーザー・ケミカルピール治療  
単純性血管腫, 母斑のレーザー治療とその病理, 機序に関する研究  
顔面皮膚腫瘍の治療および切除後再建
- 7) 熱傷の病態生理および臨床  
熱傷ラットショックモデルによる生体反応に関する研究  
超早期植皮のアログラフトを用いた実験的検討  
重度熱傷顔貌の頭部X線規格撮影を用いた軟部組織, 硬組織の分析
- 8) 新しい皮弁の開発  
新規皮弁の開発と微小血管造影による検索
- 9) 骨髄移植の免疫寛容における他家同種移植  
皮膚, 組織, 四肢移植への検討
- 10) 頭蓋顎顔面骨の発育, 計測  
頭蓋顎顔面外科一般における解剖および計測  
Computed radiographyによる当科の頭部X線規格写真分析標準値の検討  
CT計測による正常頭蓋骨成長過程の研究
- 11) 骨・軟骨形成, 骨・軟骨誘導, 培養軟骨, 人工骨, 骨・軟骨代謝  
人工骨・人工材料一般の基礎研究と臨床応用  
rhBMP-2による軟部組織内骨誘導能に関する実験的研究
- 12) 脂肪組織由来多分化能細胞の分化研究  
骨, 軟骨, 腱, 筋肉への分化応用の研究
- 13) アデノウイルスベクターを用いた遺伝子導入  
BMP-2遺伝子導入による骨形成の研究
- 14) マイクロサージャリー, 微小循環再建  
マイクロサージャリー後の組織血流の研究  
切断指肢再接着術の予後判定とケミカルメディエーター動態の研究
- 15) 多指(趾)症, 合指(趾)症の発生と再建  
合指症手術におけるピンサーによる新しい体外拡張法の開発
- 16) 眼瞼・眼窩領域の解剖と再建  
眼瞼・眼窩の再建, 義眼床の再建  
眼瞼, 眼球の位置計測と運動性の検討
- 17) 顔面外傷, 顔面骨骨折の病態と臨床  
外傷, 骨折病態と硬固定法の検討

- 18) 頭蓋底の発生, 解剖, 手術  
前頭蓋底延長術等の外科的侵襲による前頭洞発育への影響に関する臨床研究  
胎児頭蓋縫合部の組織発生の検討
- 19) 頭頸部腫瘍手術とその再建  
前頭蓋底悪性腫瘍の可及的積極的切除への新しい侵入経路の開発  
新しい前頭蓋底悪性腫瘍の切除分類と臨床利用
- 20) 唇裂口蓋裂の発生と集学的治療  
唇裂・口蓋裂の発生と集学治療  
顎裂骨移植, 構音改善手術, 顔面骨骨切り術の先進治療
- 21) 構音障害, 音声障害の病理と臨床  
各種構音障害, 音声障害の他覚的診断と治療
- 22) GIDの病態と手術  
GIDの病態と外性器再建術
- 23) その他  
バーチャル・リアリティの形成外科的応用  
下肢再建の臨床例における新しいティッシュエキスパンダーの開発  
食品による癌抑制  
唇裂, 熱傷, 外傷例の治療終了後メーカーキャップ施術による心理効果の検討

以上の基礎・臨床研究の成果は, 国際学会や国内全国規模学会・研究会発表, 学会雑誌・一般学術誌投稿が活発におこなわれている。その他, 形成外科臨床部門において当教室では下記のごとく対外的にも研究会, カンファレンス等を持ち, 臨床研究, 検討を進めている。

- ・義眼床手術研究会 (全国規模, 年1回, 1989年～)
- ・大阪市立大学・形成外科との臨床症例検討会 (KC会, 年3回, 1994年～)

#### <研究業績>

原著

1. Kyutoku S, Kurooka S, Tomino Y, Kawakami K (2004) Nasofrontal Duct Management in the Surgery of a Craniofacial Junction. *Craniofacial Surgery* 10: 305-307
2. Yuri T, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Kiyozuka Y, Senzaki H, Shikata N, Kanzaki H, Tsubura A (2004) Perillyl alcohol inhibits human breast cancer cell growth in vitro and in vivo. *Breast Cancer Res Treat* 84(3): 251-260
3. Pei R-J, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Tsubura A (2004) Immunohistochemical profiles of Mallory body by a panel of anti-cytokeratin antibodies. *Med Electron Microsc* 37(2): 114-118
4. Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Danbara N, Senzaki H, Kiyozuka Y, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Ogawa Y, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid suppresses KPL-1 human breast cancer cell growth in vitro and in vivo: potential mechanisms of action. *Breast Cancer Res* 6(4): R291-R299
5. Nikaido Y, Yoshizawa K, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Uehara N, Tsubura A (2004) Effects of maternal xenoestrogen exposure on development of the reproductive tract and mammary gland in female CD-1 mouse offspring. *Reprod Toxicol* 18(6): 803-811
6. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Okazaki K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibits growth of colo 201 human colon cancer cells. *Nutr Cancer* 50(1): 71-79
7. Detlev Erdmann, Ranya Sweis, Christoph Heitmann, Koji Yasui, Kevin C. Olbrich, L. Scott Levin, A. Adams Sharkawy, Bruce Klitzman

- (2004) Side-to-side sutureless vascular anastomosis with magnets. *Journal of vascular surgery* 40(3): 505-511
8. 葛西健一郎 (2004) レーザー治療. 月刊眼科診療プラクティス99巻 6(10): 134-135
  9. 葛西健一郎 (2004) 眼瞼手術のシミュレーション. 月刊眼科診療プラクティス99巻 6(10): 138-139
  10. 葛西健一郎 (2004) 肌の若返りとコラーゲン・ヒアルロン酸・ボツリヌス注射. 日皮会誌 114(13): 2112-2115
  11. 葛西健一郎 (2004) 炭酸ガスレーザーの美容皮膚科・皮膚外科への応用. 日皮会誌 114(13): 2119-2124
  12. 久徳茂雄 (2004) OR ナースのための各科トピック集—形成外科. *OPE nursing* 19: 484
  13. 中村智之, 島影達也, 久徳茂雄, 黒岡定浩, 南方竜也, 神田栄光 (2004) MR-microscopyによる皮膚腫瘍の術前評価. *臨床皮膚科* 58: 404-409
  14. 南方竜也, 久徳茂雄, 黒岡定浩 (2004) フィブラストスプレーが有効であった糖尿病性足趾壊死切断後潰瘍の1例. *新薬と臨床* 53: 77-81
  15. 河本圭司, 大内雅文, 久徳茂雄, 辻 裕之, 山下敏夫, 中嶋安彬 (2004) 動脈瘤様骨嚢胞, 線維性骨異形性症, 好酸性肉芽腫 (頭蓋骨腫瘍の臨床と病理 (6)). *脳神経外科* 32(9): 985-993
  16. 山中英治, 加藤裕子, 根来礼美, 小倉幸子, 谷藤美幸, 杉山昌晃, 長見周平, 久徳茂雄 (2004) クリニカルパスとの連動による効果(特集NSTの確立—活動の継続と展開). *臨床栄養* 105: 581-586
  17. 久徳茂雄, 黒岡定浩, 富野祐里, 山下耕助, 上羽哲也, 岩瀬正顕, 川上勝弘, 河本圭司 (2004) 前頭蓋底顔面外傷の急性期治療における形成外科の役割. *Neurosurgical Emergency* 9: 114-120
  18. 久徳茂雄, 富野祐里, 稲垣隆介, 山内康雄 (2004) 頭蓋冠拡大術における延長器の minor complications とその改良. *小児の脳神経* 29: 423-427
  19. 久徳茂雄, 河本圭司 (2004) CT計測による正常頭蓋骨成長過程の検討. *CI 研究* 26: 163-168
  20. 小川 豊 (2004) 手背熱傷における手の機能温存と手術. *熱傷* 30(3): 135-142
  21. 小川 豊 (2004) 形成外科手術の基本1. 縫合法1) 愛護の皮膚切開と剥離, 止血操作. *形成外科* 47 増刊: S151-S155
  22. 伊藤文人, 菅 豊明, 小川 豊, 南方竜也 (2004) 涙囊原発悪性腫瘍4例の治療経験. *日形会誌* 24: 112-119
  23. 裴 仁正, 四方伸明, 塚 貴司, 段原直行, 辻田(久徳)美樹, 螺良愛郎 (2004) 周生期Genistein暴露による化学発癌剤誘発ラット乳癌の抑制ならびにその作用機序. *乳癌基礎研* 13: 41-46
  24. 塚 貴司, 段原直行, 辻田(久徳)美樹, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果. *乳癌基礎研* 13: 47-50
  25. 鈴木健司, 下間亜由子, 楠本健司, 小川 豊 (2004) 抜歯後に発症した軟治性側頭下窩膿瘍の一例. *日形会誌* 24: 120-123
  26. 梅原真紀子, 速水淳史, 中東祐子, 黒川一郎, 楠本健司 (2004) 手術療法と術後の電子線治療が奏功した皮膚原発 Anaplastic Large Cell Lymphoma (Primary Cutaneous Anaplastic Large Cell Lymphoma Successfully Treated by Resective Operation and Postoperative Electron-beam Therapy). *皮膚の科学* 3(5): 493-496
  27. 佐々木富美子, 楠本健司, 小川 豊 (2004) ヒト線維芽細胞培養でのヒト血清, ウシ血清使用の比較および培地中TGF- $\beta$ 含有量の検討. 第9回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集 35-39
  28. 楠本健司, 小川 豊 (2004) 皮下茎皮弁による顔面皮膚悪性腫瘍切除後再建. *Skin Cancer* 18(3): 274-277
  29. 福田 智, 大西早百合, 新居康夫, 楠本健司, 小川 豊 (2004) 頬骨骨折整復時に鼻・口腔内から大量出血を来した1例. *関西医科大学雑誌* 55(2-4): 151-154
  30. 田辺敦子, 楠本健司, 下間亜由子, 松島貴志, 竹本剛司, 日原正勝, 小川 豊 (2004) 下顎角部骨折と智歯の関係について. *日頭顔面*

誌 20(2): 145-150

31. 安井浩司, 松本幸子, 三宅省吾, 清水隆之, 森小夕里, 伊藤洋子, 薦田友美 (2004) 臨床における体圧分散寝具の適正体圧と創傷治癒について. 洛和会病院医学雑誌 15: 27-30
  32. 安井浩司, 松本幸子, 坂田晋吾, 加川隆三郎 (2004) 肛門を温存しえた肛門全周性の扁平上皮癌の1例. 日形会誌 24: 427-430
- 学会発表
1. 葛西健一郎 (2004) シミの集学的治療—診断と治療のポイント. 第9回スキンケア研究会, 静岡
  2. 葛西健一郎 (2004) 肌の若返りとコラーゲン・ヒアルロン酸・ボツリヌス注射. 第103回日本皮膚科学会総会, 京都
  3. 葛西健一郎 (2004) 皮膚病変に対する各種レーザー治療について. 第11回東京皮膚臨床勉強会, 東京
  4. 葛西健一郎 (2004) Rejuvenation医療をこころざす先生へ. 第1回リジュビネーションセミナー, 東京
  5. 葛西健一郎 (2004) シミや小腫瘍のレーザー治療の実際. 第27回日本美容外科学会, 軽井沢
  6. Kasai K (2004) Recent advance in Flashlamp Dye Laser Treatment for Cutaneous Vascular Lesions. 第30回台湾皮膚科学会年次学術検討会, 台北
  7. Kasai K (2004) Laser Removal of Various Kinds of Senile Skin Lesions. 第4回ブラジルレーザー医学会総会, Guarujá, Brazil
  8. Kasai K (2004) Diagnosis and Treatment of Pigmented Lesions of Asian Skin. 第4回ブラジルレーザー医学会総会, Guarujá, Brazil
  9. Kyutoku S (2004) Surgical treatment of cranio-synostosis by a distraction method; outcomes and definitive indications. The 5th Asian Pacific Craniofacial Association Conference, Seoul, Korea
  10. 小川 豊 (2004) 顔面軟部組織損傷 眼瞼・眼窩周囲. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会 (Instructional Course), 東京
  11. 國吉京子 (2004) 口蓋裂の臨床と今後の課題. 発達障害教育研究会 シンポジウム, 京都
  12. 國吉京子 (2004) 自閉症児における母子関係で考えること, 及び保護者相談会. 池田ADサポート (自閉症児親の会), 大阪
  13. 國吉京子 (2004) 小児例への全体構造法の適応. 全体構造法研究会全国大会, 大阪
  14. 楠本健司, 小川 豊 (2004) 臨床デジタル画像の保存と応用について. 第22回日本臨床皮膚外科学会シンポジウム, 大阪
  15. Kenji Kusumoto (2004) Panfacial fracture. 9th AO Cranio-Maxillofacial Course in Nagoya, Nagoya
  16. 楠本健司 (2004) 手術創や種々の創傷, 創痕をきれいに治す方法について. 第537回大阪外科集談会 教育セミナー講演, 大阪
  17. 楠本健司 (2004) 口唇・鼻二次形成のためのプチ形成を含めた改善治療について. 平成16年度 京都口友会 講演会, 京都
  18. 楠本健司 (2004) 顎顔面領域の整容をめざした形成外科的治療の考え方と実際について. 第147回京都歯科集談会, 京都
  19. Kasai K (2004) Laser Facial Rejuvenation. 第41回ブラジル形成外科学会総会, Florianopolis, Brazil
  20. Kasai K (2004) Combined Normal Mode and Q-switched Ruby Laser Treatment for Giant Pigmented Nevi. 第4回ブラジルレーザー医学会総会, Guarujá, Brazil
  21. Kasai K (2004) Improvement of Laser Treatment for Portwine Stains by New Long Pulse Dye Laser with Contact Cooling Device. 第4回ブラジルレーザー医学会総会, Guarujá, Brazil
  22. Ogawa Y, Wang Y, Kusumoto K (2004) Successful skin allograft for burn injury by inducing donor specific tolerance with bone marrow transplant in rabbits. Joint Meeting of The Middle East Burn and Fire Disaster Society & The Plastic and Reconstructive Surgery, Cairo, Egypt
  23. Kusumoto K, Yamamoto I, Kuniyoshi K, Ogawa Y (2004) Analysis of lip motion of cleft lip using an in-contact motion capture system. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour
  24. Takemoto T, Kusumoto K, Kakudo N, Sasao T, Ogawa Y (2004) The distorted deformity after the augmentation rhinoplasty with costal cartilage. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour

25. Tanabe A, Kusumoto K, Miyake S, Ogawa Y (2004) Fat Injection and Transplantation in Nasal Deformation and Nasal Bone Fracture. The 5th APCA Conference, Seoul
26. Kakudo N, Kusumoto K, Takemoto T, Tanaka Y, Kurokawa I, Nakahigashi Y, Ogawa Y (2004) dumbbell-formed lipoma under zygomatic arch. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour
27. 南方竜也, 松島貴志, 王 毅彪, 井ノ山隆英, 小川 豊 (2004) 当院における動注療法について. 第31回日本マイクロサージャリー学会, 熊本
28. 南方竜也, 松島貴志, 王 毅彪, 井ノ山隆英, 小川 豊 (2004) 当院における切断端部の保存的療法について. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
29. 井上唯史, 久徳茂雄, 富野祐里, 大橋菜都子, 葛西健一郎 (2004) 頭部顔面巨大獣皮様母斑の治療経験. 第22回日本頭蓋顎顔面外科学会, 東京
30. 葛西健一郎 (2004) 自由診療をめぐって一留意点・トラブルの回避など一. 第56回日本皮膚科学会西部支部学術集会, 久留米
31. 葛西健一郎 (2004) 単なるシミと誤診してレーザー治療を行っていた lentigo maligna の1. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
32. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 富野祐里, 村岡道徳 (2004) リンパ管静脈吻合を行った左上肢リンパ浮腫 (2報) と蛋白漏出性胃腸症による右上下肢リンパ浮腫の治療方針. 第18回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
33. 日原正勝, 小川 豊, 久徳茂雄, 北澤康秀 (2004) 手部深達熱傷の治療方針と問題点. 第30回日本熱傷学会総会, 東京
34. 川上勝弘, 久徳茂雄 (2004) 頭部外傷の顔面形成術. 第24回日本脳神経外科コンgres, 徳島
35. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 山内康雄, 富野祐里, 黒岡定浩, 河本圭司 (2004) 頭蓋冠拡大術における延長器の minor complications とその改良. 第32回日本小児神経外科学会, 埼玉
36. 久徳茂雄, 富野祐里, 井上唯史 (2004) 頭蓋冠骨延長術における前頭蓋底骨切りについて. 第16回日本頭蓋底外科学会, 横浜
37. 上野正人, 横田順一郎, 久徳茂雄 (2004) 多彩な臨床症状を起こした外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第90回日本救急医学会近畿地方会
38. 井上唯史, 久徳茂雄, 富野祐里, 前川 徹, 斉藤福樹, 永田昌弘 (2004) 顕微鏡下の再建を要したリストカットの1例. 第19回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
39. 三木田直哉, 鳥影達也, 久徳茂雄, 富野祐里, 井上唯史 (2004) 坐骨部褥瘡に合併したフルニエ壊疽の1例. 第6回日本褥瘡学会, 札幌
40. 加藤裕子, 佐藤美香, 久徳茂雄, 富野祐里, 北野らん子, 狩谷佳寛, 小倉幸子, 山中英治 (2004) 院内発生要因から分析した今後の褥瘡予防への課題. 第6回日本褥瘡学会, 札幌
41. 佐藤美香, 加藤裕子, 久徳茂雄, 富野祐里, 北野らん子, 狩谷佳寛, 山中英治, 井上唯史 (2004) 褥瘡対策チーム発足2年目を迎えての現状と課題. 第6回日本褥瘡学会, 札幌
42. 宇野喜代美, 和田 香, 松岡祐子, 小久保香織, 桜井友子, 加藤裕子, 北野らん子, 久徳茂雄, 山中英治 (2004) 術中・術後褥瘡発生の現状と対策. 第6回日本褥瘡学会, 札幌
43. 井上唯史, 久徳茂雄, 富野祐里, 永田昌弘 (2004) 当科における精神疾患患者の体部分切断症例の検討. 第31回日本マイクロサージャリー学会, 熊本
44. 久徳茂雄, 辻 裕之, 富野祐里, 井上唯史, 川上勝弘 (2004) Supraorbital bar を骨切りしない前頭蓋底腫瘍に対する一塊切除法について. 第22回日本頭蓋顔面外科学会, 東京
45. 松島貴志, 小川 豊, 竹本剛司, 王 毅彪, 井上唯史, 井ノ山隆英 (2004) 当科における小児指尖部再接着症例の検討. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
46. 黒岡定浩, 久徳茂雄, 富野祐里, 村岡道徳 (2004) リンパ管静脈吻合を行った左上肢リンパ浮腫 (2報) と蛋白漏出性胃腸症による右上下肢リンパ浮腫の治療方針. 第18回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
47. 伊藤文人, 菅 豊明 (2004) 眉毛外側部へのキシロカインE局注, 18G針での穿刺, ケナコ

- ルト局注の手技により網膜動脈閉塞症を生じた1例. 第31回KC会, 大阪
48. 伊藤文人, 菅 豊明 (2004) 義眼装着患者の健側眼に生じた涙丘部原発扁平上皮癌の1例. 第22回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京
  49. 福田 智, 大西早百合 (2004) 成人発症型青色ゴムまり様母斑症候群の1例. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
  50. 日原正勝, 小川 豊, 岩瀬正顕 (2004) 経眼窩的穿通性頭蓋底損傷の2例. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  51. 山村有美, 葛西健一郎, 酒井めぐみ, 久野文 (2004) 新型レーザー (V-Star) によるポートワイン母斑の治療. 第20回日本臨床皮膚科医学会臨床学術集会, 東京
  52. 酒井めぐみ, 葛西健一郎, 山村有美, 久野文 (2004) 色素性母斑のレーザー治療について. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  53. 酒井めぐみ, 葛西健一郎, 山村有美, 久野文, 井口有子 (2004) 色素レーザー治療における表面冷却の重要性について. 第20回大阪形成外科医会学術講演会シンポジウム, 大阪
  54. 山村有美, 葛西健一郎, 酒井めぐみ, 久野文, 井口有子 (2004) 特殊血管病変のレーザー治療. 第20回大阪形成外科医会学術講演会シンポジウム, 大阪
  55. 斉藤福樹, 津田雅庸, 深見紀彦, 北澤康秀, 久徳茂雄, 黒岡定浩, 富野祐里 (2004) 当院における超早期手術. 第12回日本熱傷学会近畿地方会, 大阪
  56. 松本清乃, 大塚和美, 木岡佳子, 北野らん子, 久徳茂雄 (2004) 疼痛・睡眠・精神状態のケアに苦慮した熱傷患者2例. 第12回日本熱傷学会近畿地方会, 大阪
  57. 松本幸子, 小川 豊 (2004) 眼瞼欠損や眼瞼変形を伴う義眼床再建. 第15回義眼床手術研究会, 岸和田
  58. 松本幸子, 木下慎介, 笹尾卓史, 小川 豊 (2004) 四肢の外傷性難治性潰瘍に対しβ-FGFが奏功したいくつかの症例. 第2回OWH研究会, 大阪
  59. 松本幸子, 竹本剛司, 王 毅彪, 小川 豊 (2004) 切除15年後に再発をきたした眼窩Solitary fibrous tumorの一例. 第22回日本頭蓋顎顔面外科学会, 東京
  60. 下間亜由子, 楠本健司, 小川 豊 (2004) 正面頭部X線規格写真分析に基づく成人正面標準顔貌テンプレートの応用. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
  61. 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子, 小川 豊 (2004) 当科における咽頭弁形成術を行った症例についての検討. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
  62. 田辺敦子, 楠本健司, 小川 豊 (2004) 鼻骨骨折症例を含む鼻変形に対する脂肪注入・移植. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
  63. 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子 (2004) 唇裂例における光学式動作解析システムによる口唇運動記録解析の試み(第2報) 一片側唇裂術後の健側および患側口唇の動きの比較検討一. 第28回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 鹿児島
  64. 楠本健司, 國吉京子, 山本一郎, 小川 豊 (2004) 当科における構音時頭部X線規格撮影を用いた鼻咽腔閉鎖機能の診断について. 第22回頭蓋顎顔面外科学会, 東京
  65. 田辺敦子, 小川 豊, 楠本健司, 王 毅彪, 竹本剛司 (2004) 創傷治癒因子IL6の毛成長への影響について. 第13回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
  66. 高井美穂, 田邊敦子, 三宅省吾, 中島大毅 (2004) 診断・治療に難渋した慢性硬化性下顎骨骨髓炎の1例. 第32回KC会, 大阪
  67. 安井浩司, 松本幸子 (2004) 痔瘻を合併した広範囲臀部膿皮症に対する術式の検討. 第47回日本形成外科学会総会, 東京
  68. 安井浩司, 三宅省吾 (2004) 当院における過去2年間の褥瘡手術の検討. 第6回日本褥瘡学会学術集会, 札幌
  69. 森小夕里, 伊藤洋子, 山川節子, 安井浩司, 三宅省吾 (2004) 当院における褥瘡対策委員会の活動の評価～褥瘡の発生率や程度の比較～. 第6回日本褥瘡学会学術集会, 札幌
  70. 森 雄大, 松島貴志, 福田 智, 日原正勝, 藤森佐和子, 楠本健司, 小川 豊 (2004) 上顎

- 欠損に対する遊離骨付き皮弁による再建症例の検討. 第18回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
71. 森 雄大, 松島貴志, 笹尾卓史, 小川 豊 (2004) 顔面頬部の萎縮が著明な眼球欠損に対する義眼床再建. 第47回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
  72. 辻田 (久徳) 美樹, 段原直行, 垾 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) ヒト乳癌細胞株 (KPL-1) における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解析. 第93回日本病理学会, 札幌
  73. 辻田 (久徳) 美樹, 段原直行, 垾 貴司, 上原範久, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) 共役ドコサヘキサエン酸によるヒト乳癌細胞株 (KPL-1) における増殖抑制効果. 第14回乳癌基礎研究会, 茨城
  74. 清塚康彦, 上原範久, 段原直行, 垾 貴司, 辻田 (久徳) 美樹, 島野直人, 螺良愛郎 (2004) マウス胸腺細胞の dexamethasone 誘発 apoptosis における telomere 長短縮と telomerase RNA の発現亢進. 第93回日本病理学会, 札幌
  75. 上原範久, 清塚康彦, 辻田 (久徳) 美樹, 森口佳映, 四方伸明, 螺良愛郎 (2004) ニコチンアミドによる poly (ADP-ribose) polymerase (PARP)-1 を介したラット視細胞アポトーシスの抑制機序. 第93回日本病理学会, 札幌
  76. 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 垾 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) 共役ドコサヘキサエン酸による MNU 誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果. 第93回日本病理学会, 札幌
  77. 垾 貴司, 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 二階堂泰資, 島野直人, 上原範久, 清塚康彦, 四方伸明, 螺良愛郎 (2004) Zeranol の思春期前暴露における雌 Sprague-Dawley ラットにおよぼす影響. 第93回日本病理学会, 札幌
  78. 島野直人, 段原直行, 垾 貴司, 辻田 (久徳) 美樹, 二階堂泰資, 螺良愛郎 (2004) Indole-3-carbinol の思春期前暴露による MNU 誘発ラット乳癌におよぼす影響. 第93回日本病理学会, 札幌
  79. 垾 貴司, 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 上原範久, 松岡洋一郎, 四方伸明, 螺良愛郎 (2004) Perillyl alcohol のヒト乳癌細胞株に対する増殖抑制効果. 第14回乳癌基礎研究会, 茨城
  80. 吹角善隆, 安達ゆかり, 中田洋子, 竹内 寛 (2004) acne scar の治療. 第97回近畿皮膚科集談会, 大阪
  81. 中田洋子, 安達ゆかり, 竹内 寛, 吹角善隆 (2004) 毛細血管拡張症の治療. 第97回近畿皮膚科集談会, 大阪
  82. 富野祐里, 久徳茂雄, 井上唯史 (2004) Gluteal thigh flap による座骨・大転子部褥瘡の治療について. 第83回形成外科関西支部学術集会, 大阪
  83. 富野祐里, 久徳茂雄, 黒岡定浩 (2004) 拡大縫合切除と骨延長を行った短頭の1例. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  84. 井口有子, 小川 豊, 久徳茂雄, 竹本剛司, 三宅省吾 (2004) 熱傷性外鼻変形に対する再建術. 第30回日本熱傷学会総会, 東京
  85. 菅 豊明, 伊藤文人 (2004) 分層採皮のエーテル使用時に引火によって熱傷を受傷した1例. 第30回KC会, 大阪
  86. 菅 豊明, 伊藤文人 (2004) 前額部に発生した Masson 腫瘍の1例. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  87. 大西早百合, 福田 智 (2004) 化膿性尿管膜管囊腫の1例. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
  88. 笹尾卓史 (2004) 腹部皮膚弛緩症の余剰皮膚切除後, スキンバンクへ登録した1例. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会, 大阪
  89. 國吉京子, 楠本健司, 山本一郎 (2004) 口蓋形成術後の構音指導における [p] 音獲得と異常構音の関係. 第28回日本口蓋裂学会, 鹿児島
  90. 國吉京子, 楠本健司, 山本一郎 (2004) 当科における構音時セファロによる鼻咽腔閉鎖機能の診断と治療について. 第49回日本音声言語医学会, 熊本
  91. 田中義人, 楠本健司, 小川 豊 (2004) von Recklinghausen 氏病の乳房再建. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  92. 三宅省吾, 安井浩司 (2004) 治療に苦慮する成人唇裂患者の鼻変形症例. 第30回KC会, 大阪
  93. 三宅省吾, 安井浩司 (2004) 高周波メスと炭酸ガスレーザーの併用による鼻瘤剥皮術の有

用性. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸

94. 三宅省吾, 安井浩司 (2004) 入院中に仙骨部褥瘡より壊死性筋膜炎を発症し死に到った症例. 第6回日本褥瘡学会学術集会, 札幌
  95. 山本 純, 下間亜由子, 藤森佐和子, 覚道奈津子, 小川 豊 (2004) ステロイド剤の副作用により高度の皮膚弛緩症を来した1例. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会, 神戸
  96. 山本 純 (2004) 食道巨大憩室後に食道狭窄及び胸腔皮膚朗?を生じた1例. 第 回KC会, 大阪
- 著 書
1. 葛西健一郎 (2004) YAG レーザー. レーザー治療最近の進歩 (第2版) (谷野隆三郎編) 55-59頁, 克誠堂, 東京
  2. 葛西健一郎 (2004) 刺青. レーザー治療最近の進歩 (第2版) (谷野隆三郎編) 143-147頁, 克誠堂, 東京
  3. 葛西健一郎 (2004) 皮膚科診療プラクティス17巻 (葛西健一郎ゲスト編集) 頁, 文光堂, 東京
  4. 葛西健一郎 (2004) Rejuvenation医療をこころざす人たちに. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 2-9頁, 文光堂, 東京
  5. 葛西健一郎 (2004) オリエンテーション—何からはじめてどこへ行くのか?—. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 36-40頁, 文光堂, 東京
  6. 葛西健一郎 (2004) いわゆるシミとは何か?—私はこう考える—. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 41-44頁, 文光堂, 東京
  7. 久野 文 (2004) 老人性色素斑および脂漏性角化症. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 67-73頁, 文光堂, 東京
  8. 葛西健一郎 (2004) <ディベート> レーザーやピーリングなどの処置後にサンスクリーンは必要か? 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 126-127頁, 文光堂, 東京
  9. 葛西健一郎 (2004) 眼の下の隈 (くま) の鑑別診断. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 235-236頁, 文光堂, 東京
  10. 葛西健一郎 (2004) 私の rejuvenation 戦略. 皮膚科診療プラクティス17巻 Rejuvenationの実際/皮膚の若返り (葛西健一郎, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 296-303頁, 文光堂, 東京
  11. 葛西健一郎 (2004) 眉毛・睫毛の再建. 毛髪疾患の最新治療 (平山 峻編) 135-146頁, 金原, 東京
  12. 小川 豊 (2004) 自己臭症 (腋臭症) 形成外科から. 皮膚心療内科 (宮地良樹ら編) 213-216頁, 診断と診療社, 東京
  13. 小川 豊 (2004) 母斑・母斑症. 形成外科学第2版 (森口隆彦編) 249-258頁, 南山堂, 東京
  14. 小川 豊 (2004) 鼻骨骨折. 家庭医学大全科, 3073-3074頁, 法研, 東京
  15. 小川 豊 (2004) 口唇・口腔内の損傷. 家庭医学大全科, 3074-3075頁, 法研, 東京
  16. 小川 豊 (2004) 舌の損傷. 家庭医学大全科, 3075-3076頁, 法研, 東京
  17. 小川 豊 (2004) 顔面骨骨折. 家庭医学大全科, 3077-3079頁, 法研, 東京
  18. 小川 豊 (2004) 広範囲皮膚剥脱. 家庭医学大全科, 3132-3133頁, 法研, 東京
  19. 土井秀明 (2004) レーザー脱毛 (1) レーザー脱毛の原理. 形成外科ADVANCEシリーズII-2 レーザー治療最近の進歩 (第2版) (谷野隆三郎編) 178-184頁, 克誠堂, 東京

## 皮膚科学講座

## ＜研究業績＞

原 著

1. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Inhibitory influences of xanthine oxidase inhibitor and angiotensin I-converting enzyme inhibitor on multinucleated giant cell formation from monocytes by downregulation of adhesion molecules and purinergic receptors. *Br J Dermatol* 150: 205–210
2. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Ultraviolet B radiation suppresses endocytosis, subsequent maturation, and migration activity of Langerhans cell-like dendritic cells. *J Invest Dermatol* 122: 300–306
3. Ohe S, Danno K, Sasaki H, Isei T, Okamoto H, Horio T (2004) Treatment of acquired perforating dermatosis with narrowband ultravioletB. *J Am Acad Dermatol* 50: 892–894
4. Yamazaki F, Okamoto H, Miyauchi-Hashimoto H, Matsumura Y, Itoh T, Tanaka K, Kunisada T, Horio T (2004) XPA gene-deficient, SCF-transgenic mice with epidermal melanin are resistant to UV-induced carcinogenesis. *J Invest Dermatol* 123: 220–228
5. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Langerhans-type more than foreign body-type multinucleated giant cells are induced from UVB-irradiated monocytes. *J Dermatol Sci* 35: 227–229
6. Matsumura Y, Matsumura Yu, Nishigori C, Horio T, Miyachi Y (2004) PIG7/ LITAF gene mutation and overexpression of its gene product in extramammary Paget's disease. *Int J Cancer* 111: 218–223
7. Matsumura Y, Moodycliffe AM, Nghiem DX, Ullrich SE, Ananthaswamy HN (2004) Resistance of CD1d<sup>-/-</sup> mice to ultraviolet-induced skin cancer is associated with increased apoptosis. *Am J Pathol* 165: 879–887
8. 中島とう子, 岡本祐之, 堀尾 武 (2004) Basedow 病を伴ったサルコイドーシス. *皮膚臨床* 46: 521–523
9. 村江美保, 河合修三, 堀尾 武 (2004) 陰圧密封療法が奏効した巨大ポケットを有する下

腿潰瘍. *皮膚の科学* 3: 161–165

10. 今井亜紀子, 山崎文和, 杉原 昭, 橋本洋子, 岡本祐之, 堀尾 武 (2004) 外傷を契機に発症した水疱性類天疱瘡の例. *皮膚臨床* 46: 1819–1821
11. 井関宏美, 岡本祐之, 松下匡孝, 仲野俊成, 堀尾 武 (2004) Cowden 病の2例. *皮膚臨床* 46: 1927–1930
12. 杉原 昭, 岡本祐之, 堀尾 武 (2004) ロメフロキサシンおよびオフロキサシン点耳液による播種状紅斑丘疹型薬疹の1例. *日皮アレルギー* 12: 65–69
13. 山本典雅, 大貫雅子, 為政大幾, 堀尾 武 (2004) 血液透析中のアナフィラキシー. *日皮アレルギー* 12: 91–94
14. 阿曾沼由香, 堀尾 武 (2004) ニンジンI型アレルギー, 金属, ラテックスIV型アレルギー, 光アレルギーの合併例. *日皮アレルギー* 12: 95–99
15. 大江秀一, 為政大幾, 河本慶子, 大貫雅子, 堀尾 修, 幾井宣行, 堀尾 武 (2004) 巨大な腫瘍を形成した Bowen 癌の1例. *皮膚の科学* 3: 572–575

総 説

1. Matsumura Y, Ananthaswamy HN (2004) Toxic effects of ultraviolet radiation on the skin. *Toxicol Appl Pharm* 195: 298–308
2. 堀尾 武, 橋本洋子 (2004) 光線過敏症の動物モデル. *アレルギー科* 17: 116–121
3. 堀尾 武, 山中滋木 (2004) 局面状類乾癬. *Visual Dermatology* 3: 366–367
4. 堀尾 武, 太田 馨 (2004) Mucha-Habermann 病. *Visual Dermatology* 3: 378–379
5. 大江秀一, 堀尾 武 (2004) Acquired perforating dermatosis. *Visual Dermatology* 3: 386–387
6. 為政大幾, 二村省三, 堀尾 武 (2004) Photodynamic therapy: PDT. *Visual Dermatology* 3: 396–397
7. 秋友保千代, 堀尾 武 (2004) 皮脂腺および皮脂に及ぼす紫外線 (UVB) の影響. *フレグランス ジャーナル* 32 (3) : 19–25

8. 正木浩哉, 松原弘明, 天野克也, 岩坂寿二, 河合修三, 堀尾 武 (2004) 皮膚難治性潰瘍に適應される骨髓細胞移植を用いた血管新生治療の現状. *MB Derma* 74: 14-18
9. 堀尾 武 (2004) 光皮膚科学IV, 光線療法. *皮膚の科学* 3: 137-139
10. 堀尾 武, 山崎文和, 橋本洋子, 今井重紀子 (2004) 非ステロイド系消炎鎮痛剤による光アレルギーの臨床と動物実験. *新薬と臨床* 53: 702-711
11. 堀尾 武 (2004) 循環器系・免疫系に対する日光の作用. *日本医事新報* 4197: 94-95
12. 堀尾 武 (2004) 小児にみる光線過敏症. *MB Derma* 93: 179-185
13. 杉原 昭, 岡本祐之, 堀尾 武 (2004) 樹状細胞およびランゲルハンス細胞における細胞骨格成分の役割. *皮膚の科学* 3: 449-454
14. 岡本祐之, 水野可魚, 堀尾 武 (2004) ヒト末梢血単球由来の多核巨細胞. *日本ハンセン病学会雑誌* 73: 245-251
15. 岡本祐之 (2004) サルコイドーシス: 新しい病因の話題と診療の基本. *皮膚サルコイドーシス*, *Mebio* 7: 90-94
16. 岡本祐之 (2004) 手許に置きたい診断基準とその解説, サルコイドーシス. *皮膚科の臨床* 46: 1578-1583
6. 岡本祐之, 水野可魚, 杉原 昭, 浜川素子, 堀尾 武 (2004) ランゲルハンス細胞に対する紫外線の影響. 第26回光医学・光生物学会, 大阪
7. 伊藤健人, 橋本洋子, 堀尾 武 (2004) ニューキノロン系抗菌薬とUVAによるCPD型DNA損傷と発癌性. 第26回光医学・光生物学会, 大阪
8. 堀尾 武 (2004) PUVA療法の歴史と応用. 第55回日皮会中部支部学会, 金沢
9. Matsumura Y, Moodycliffe AM, Neghiem DX, Ullrich SE, Ananthaswamy HN (2004) Resistance of CD1d-deficient mice to UV skin carcinogenesis is associated with increased keratinocyte apoptosis. *The 14th International Congress of Photobiology, Jeju, KOREA*
10. 松村康洋 (2004) 適応外使用されている皮膚疾患に有効な薬剤 (教育講演). 第103回日本皮膚科学会総会, 京都

#### 著 書

1. 堀尾 武 (2004) 光アレルギー. *総合アレルギー学* (福田 健編) 597-603頁, 南山堂, 東京
2. 堀尾 武 (2004) PUVAと発癌. *皮膚科診療プラクティス16: 乾癬にせまる* (飯塚 一編) 98-100頁, 文光堂, 東京
3. 堀尾 武 (2004) グルカゴノーマ. *皮膚診断の技法—皮膚を診ると全身が見える* (岩月啓氏, 宮地良樹編) 220-221頁, 診断と治療社, 東京
4. 堀尾 武 (2004) 老徴, 光老化, 皮膚発癌. *最新皮膚科学大系・特別巻1* (玉置邦彦, 飯塚一, 清水宏, 富田 靖, 宮地良樹, 橋本公二, 古江増隆編) 252-259頁, 中山書店, 東京
5. 堀尾 武 (2004) 環状紅斑. *皮膚疾患最新の治療2005-2006* (滝川雅浩, 渡辺晋一編) 39頁, 南江堂, 東京
6. 岡本祐之 (2004) Cobb syndrome, Weber-Christian syndrome, yellow nail syndrome. *最新皮膚科学大系 特別巻2* (玉置邦彦ほか編) 75, 374, 388, 2004頁, 中山書店, 東京
7. 岡本祐之 (2004) 肉芽腫様病変, サルコイドーシス. *皮膚診断の技法* (岩月啓氏, 宮地良樹編) 94-97, 246-247頁, 診断と治療社, 東京

#### 学会発表

1. 堀尾 武, 山崎文和 (2004) 紫外線による免疫抑制と発癌に対する表皮メラノサイトの役割. 第14回太陽紫外線防御研究委員会, 金沢
2. Horio T (2004) DNA damage initiates photobiological reactions. 14th International Congress of Photobiology, Jeju, KOREA
3. Horio T (2004) Photoallergic reactions: Clinical features and pathomechanisms. Honam Regional Meeting of Korean Dermatological Association, Kwangju, KOREA
4. 堀尾 武 (2004) 菌状息肉症の内服 PUVA 療法. 第103回日本皮膚科学会総会, 京都
5. 堀尾 武 (2004) 最近話題の治療: ナローバンドUVB療法. 第20回日本臨床皮膚科医会近畿支部学会, 大阪

## 泌尿器科学講座

## 〈研究業績〉

## 原 著

1. Matsuda T, Nakagawa M, Ohguchi N, Yanishi M, Fukui S, Kawa G, Muguruma K (2004) Retroperitoneoscopic partial nephrectomy with transient occlusion of renal artery for treatment of small renal tumors. *Urology* 64: 26–30
2. Akaza H, Yamaguti A, Matsuda T, Igawa M, Kumon H, Soeda A, Arai Y, Usami M, Naito S, Ohashi Y (2004) Superior Anti-tumor Efficacy of Bicalutamide 80 mg in Combination with a Luteinizing Hormone-(LHRH) Agonist Versus LHRH Agonist Monotherapy as First-line Treatment for Advanced Prostate Cancer: Interim Results of a Randomized Study in Japanese Patients. *Jap J Clin Oncol* 34: 20–28
3. 松田公志, 巽 一啓, 六車光英 (2004) 男性更年期障害患者のQOL: 男性ホルモン補充療法による改善. *Urol View* 2: 100–106
4. 杉 素彦 (2004) 尿路閉塞による敗血症性ショックにエンドトキシン吸着療法を行った2症例. *泌紀* 50: 685–689
5. 日浦義仁, 岡田日佳, 佐藤仁彦, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2004) 腹腔鏡下副腎摘除術. *最新医* 59: 99–105
6. 六車光英, 日浦義仁, 松田公志 (2004) 閉塞性無精子症の診断と治療. *泌紀* 50: 553–557
7. 杉 素彦 (2004) 尿膜管腫瘍と鑑別が困難であった腹壁デスマイドの1例. *泌紀* 50: 489–492
8. 六車光英, 松田公志 (2004) EBM から見た精索静脈瘤手術. *日生殖外会誌* 17: 26–29
9. 松田公志, 河 源, 中川雅之, 福井勝一, 矢西正明, 吉田健志 (2004) 腎動脈遮断による後腹腔鏡下腎部分切除術: 腫瘍部位別手術手技. *VIDEO JOURNAL of JUA*

## 総 説

1. 松田公志, 六車光英 (2004) 精索静脈瘤の治療—妊孕性への効果を中心に. *Urology Today* 11
2. 松田公志, 佐藤仁彦 (2004) 腎癌に対する手

術療法. *Highlights of AUA* 8: 13

3. 松田公志 (2004) 高齢男性におけるアンドロゲン補充療法. *Highlights of AUA* 8: 17
4. 岡田日佳, 川喜多繁誠, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2004) 副腎偶発腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術—泌尿器科の立場から—. *ホルモンと臨* 52: 83–90
5. 松田公志, 六車光英 (2004) 泌尿器科領域における腹痛への対応はどうするの? *臨研プラクティス* 1: 58–67
6. 松田公志, 内藤誠二, 小野佳成 (2004) 泌尿器科における腹腔鏡手術の教育体制. *日内視鏡外会誌* 9: 278–281
7. 松田公志, 六車光英 (2004) 精索静脈瘤手術は有効か. *日生殖外会誌* 17: 46–49

## 学会発表

1. 松田公志 (2004) 男性の更年期を考える. ジェンダーフリー講座, 京都
2. 松田公志 (2004) 男にもある更年期～注意信号を見逃さないために～. 男性のための自己管理講座, 大阪
3. Matsuda T (2004) Laparoscopic Surgical Skill Qualification System: Japanese experience. 13th Annual Scientific Meeting of Hong Kong Society of Minimal Access Surgery, バリ
4. 松田公志 (2004) 更年期を健やかに過ごすために男性更年期障害とは. ライフサイクルとしての更年期 (研修会), 兵庫
5. Matsuda T (2004) Retroperitoneoscopic partial nephrectomy. 7th Asian Congress of Urology, Asian Society of Endourology 13th Scientific Meeting, Pre-congress Endo-Laparoscopic Urology Workshop, 香港
6. 松田公志 (2004) 男性更年期障害治療の現状と課題. 第77回日本内分泌学会学術総会, 京都
7. 松田公志 (2004) 男性更年期障害とED—何がどこまで分かったのか—. 広島市内科医会学術講演会, 広島
8. 松田公志 (2004) ART時代の男性不妊症診療: 泌尿器科の役割. 第7回日本IVF研究会, 大阪
9. 松田公志 (2004) 男性更年期の治療学を考え

- る. 第4回日本Asing Male研究会, 東京
10. Tatsumi M, Danno S, Muguruma K, Matsuda T (2004) Improvement in the quality of life of PADAM patients following testosterone replacement therapy. The 4th world congress on the aging male, プラハ
  11. Matsuda T, Nakagawa M, Nishida T, Yanishi M, Kawa G, Muguruma K (2004) Laparoscopy assisted ileal replacement of the ureter: An initial experience for a patient with ureteral stricture. 15th Video-Urology World Congress, 韓国
  12. Matsuda T, Kawa G, Kinoshita H (2004) Retroperitoneoscopic Partial Nephrectomy: Comparison between Non-Ischemic and Ischemic Methods. Endoscopic And Laparoscopic Surgeons of Asia, バリ
  13. Hiura Y, Kawa G, Kinoshita H, Matsuda T (2004) Laparoscopic Retroperitoneal Pyeloplasty for Ureteropelvic Junction Stenosis. Endoscopic And Laparoscopic Surgeons of Asia, バリ
  14. Matsuda T, Ono Y (2004) Laparoscopic Surgical Skill Qualification system in Urology. Urological Research Society Meeting, 韓国
  15. 佐藤仁彦 (2004) 腹腔鏡下手術における合併症の検討. 第23回泌尿器科手術研究会, 香川
  16. 乾 秀和, 川喜多繁誠, 岡田日佳, 河 源, 松田公志 (2004) 術後14年目に穿孔をきたしたコックパウチの一例. 第186回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
  17. 巽 一啓, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2004) 男性更年期障害患者に対するホルモン補充療法の検討. 第120回関西医科大学学術集談会, 大阪
  18. 巽 一啓, 六車光英, 松田公志 (2004) 男性更年期外来受診患者の気分プロフィール検査POMSによる評価. 第126回日本不妊学会関西支部集談会・第27回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
  19. 中川雅之, 福井勝一, 西田晃久, 巽 一啓, 矢西正明, 田中朋子, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2004) 腎動脈遮断による後腹膜鏡下腎部分切除術. 第119回関西医科大学学術集談会, 大阪
  20. 松田公志 (2004) How to manage complications during laparoscopic renal surgery. 泌尿器科腹腔鏡下手術研究会, 愛知
  21. 河 源, 松田公志 (2004) 腎動脈遮断による鏡視下腎部分切除術. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  22. 河 源, 西田晃久, 日浦義仁, 三島崇生, 吉田健志, 大口尚基, 六車光英, 松田公志 (2004) 馬蹄腎に対する腹腔鏡下半腎摘除術の経験. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  23. 六車光英, 巽 一啓, 檀野祥三, 日浦義仁, 松田公志 (2004) 男性更年期外来受信患者の血中テストステロン値の検討. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  24. 佐藤仁彦, 谷口久哲, 吉田健志, 乾 秀和, 巽 一啓, 西田晃久, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 岡田日佳, 六車光英, 松田公志 (2004) 腹腔鏡下手術における合併症の検討. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  25. 日浦義仁, 河 源, 吉田健志, 谷口久哲, 乾 秀和, 巽 一啓, 西田晃久, 佐藤仁彦, 川喜多繁誠, 大口尚基, 岡田日佳, 六車光英, 松田公志 (2004) 腎癌に対する鏡視下手術の予後の検討. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  26. 大口尚基, 佐藤仁彦, 巽 一啓, 谷口久哲, 福井勝也, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2004) 後腹膜鏡下ドナー腎摘出術の経験. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  27. 松田公志, 河 源, 大口尚基, 岡田日佳, 佐藤仁彦, 西田晃久, 六車光英 (2004) T2腎癌に対する復帰鏡下根治的腎摘除術: 郭清を含めた左側手術. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  28. 川端和史, 駒井資弘, 土井 浩, 大原 孝, 室田卓之, 松田公志 (2004) 関西医科大学附属香里病院におけるESWLの治療成績. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪
  29. 松田公志 (2004) 日本での泌尿器腹腔鏡下手術の技術認定制度. 泌尿器科腹腔鏡下手術研究会, 愛知
  30. 巽 一啓, 檀野祥三, 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2004) 男性更年期患者の包括的健康関連QOL尺度SF-36を指標にした, ホルモン療法の有用性. 第92回日本泌尿器科学会総会, 大阪

31. 松田公志 (2004) 腹腔鏡下副腎摘除術の教育と技術認定制度. 第16回日本内分泌外科学会, 東京
32. 河 源 (2004) 当科における副腎褐色細胞腫に対する腹腔鏡下手術の経験. 第16回日本内分泌外科学会, 東京
33. 西田晃久 (2004) 当科におけるアルドステロン症の予後調査. 第16回日本内分泌外科学会, 東京
34. 河 源, 巽 一啓, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 男性更年期障害に対するホルモン補充療法後のAMS質問紙スコアの変化に関する検討. 第23回日本アンドロロジー学会, 山梨
35. 松田公志, 中谷嘉男, 西川光重, 米田 博, 鏡山博行, (2004) 選択性臨床実習における大学間相互乗り入れ: 関西医科大学と大阪医科大学での試み. 第36回日本医学教育学会大会, 高知
36. 河 源, 巽 一啓, 六車光英, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2004) 男性更年期障害に対するホルモン補充療法後の性機能に関する検討. 第14回日本性機能学会中部総会, 京都
37. 六車光英 (2004) 間質性膀胱炎患者のQOL. 第3回大阪排尿障害研究会, 大阪
38. 六車光英 (2004) 精索静脈瘤. 第49回日本不妊学会学術講演会, 北海道
39. 木下秀文 (2004) 再燃前立腺癌の問題点と治療の現状. 第69回日本泌尿器科学会東部総会, 東京
40. 河 源, 巽 一啓, 六車光英, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2004) 当院における男性更年期外来受診患者の性機能に関する検討. 第15回日本性機能学会学術総会, 徳島
41. 川喜多繁誠, 大口尚基, 巽 一啓, 西田晃久, 河 源, 岡田日佳, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) LH-RH アナログ製剤の変更によるテストステロンへの影響. 第42回日本癌治療学会総会, 京都
42. 木下秀文, 賀本敏行, 清川岳彦, 山本新吾, 高橋 毅, 中村英二郎, 羽瀨友則, 松田公志, 小川 修 (2004) 前立腺特異抗原 (PSA) が高値で生検陰性例の臨床的意味. 第42回日本癌治療学会総会, 京都
43. 岡田日佳, 川喜多繁誠, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 表在性膀胱癌に対する術後pirarubicin (THP) 膀胱内投与 (時間・回数) 方法の比較. 第42回日本癌治療学会総会, 京都
44. 地崎竜介, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 関西医大における性同一性障害患者の診療の流れ. 第29回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
45. 安田鐘樹, 谷口久哲, 巽 一啓, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 経尿道的尿管碎石術 (TUL) の臨床的検討. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
46. 河 源, 巽 一啓, 日浦義仁, 佐藤仁彦, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 腎盂尿管移行部狭窄症に対する後腹膜鏡下腎盂形成術の検討. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
47. 佐藤仁彦, 谷口久哲, 福井勝也, 地崎竜介, 巽 一啓, 日浦義仁, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 上部尿路腫瘍に対する腎尿管全摘除術: 腹腔鏡下手術と開放手術の検討. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
48. 河 源, 巽 一啓, 安田鐘樹, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) Hem-o-lokを用いた腎動脈クリッピング後, 同部の離断をみた一例. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
49. 川喜田睦司, 安田鐘樹, 島田 治, 中川雅之, 大口尚基, 松田公志 (2004) 右腎癌の左横隔膜脚後部リンパ節転移に対する後腹膜鏡下傍大動脈リンパ節郭清術. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
50. 松田公志 (2004) Laparoscopic surgical skill qualification system in urology. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
51. 松田公志 (2004) 泌尿器腹腔鏡技術認定について. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
52. 松田公志 (2004) 技術認定制度委員会報告. 第18回日本Endourology・ESWL学会総会, 岡山
53. 巽 一啓, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 術中異常高血圧により診断に

- 至った褐色細胞腫の1例. 第8回内視鏡下内分泌手術研究会, 神奈川
54. 松田公志, 小野佳成, 寺地敏郎, 内藤誠二, 三木恒治, 馬場志郎 (2004) 泌尿器腹腔鏡技術認定制度が開始されて. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 神奈川
55. 木下秀文, 佐藤仁彦, 地崎竜介, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2004) 腹腔鏡下神経温存膀胱全摘除術および回腸新膀胱造設術の経験. 第17回日本内視鏡外科学会総会, 神奈川
56. 巽 一啓, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 男性更年期患者におけるホルモン補充療法によるBMIの変化の考察. 第4回日本Asing Male研究会, 東京
57. 河 源, 巽 一啓, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2004) 男性更年期障害患者に対するホルモン補充療法有効例の検討. 第4回日本Asing Male研究会, 東京
58. 木下秀文, 賀本敏行, 清川岳彦, 河 源, 六車光英, 松田公志, 小川 修 (2004) 前立腺全摘除術後のPSA再発とPSA nadirについて. 第20回前立腺シンポジウム, 東京
59. 渡辺仁人, 乃美昌司, 杉田良文, 吉野 薫, 谷風三郎 (2004) 経膀胱的手術にドレーンは必要か? 第13回日本小児泌尿器科学会総会, 大阪
60. 谷口久哲, 佐藤仁彦, 巽 一啓, 大口尚基, 河 源, 松田公志, 山崎由紀子, 神崎秀陽, 坂井田紀子 (2004) 卵巣癌膀胱転移の1例. 第186回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
61. 吉田健志, 西田晃久, 日浦義仁, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2004) 腹腔鏡手術で治療した腎杯憩室結石・憩室破裂の1例. 第187回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫
62. 谷口久哲, 佐藤仁彦, 巽 一啓, 大口尚基, 河 源, 松田公志 (2004) 膀胱原発平滑筋肉腫の1例. 第187回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫
63. 三島崇生, 佐藤仁彦, 谷口久哲, 巽 一啓, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志, 坂井田紀子 (2004) 肺扁平上皮癌腎盂転移の1例. 第189回日本泌尿器科学会関西地方会, 京都

#### 著 書

1. 河 源, 松田公志 (2004) 腹腔鏡手術 泌尿器腹腔鏡下手術における周術期管理の特徴. 泌尿器科周術期管理のすべて (荒井陽一, 松田公志編) 98-103頁, メディカルビュー社, 東京
2. 六車光英 (2004) オープンサージャリー 男性不妊症の手術. 泌尿器科周術期管理のすべて (荒井陽一, 松田公志編) 282-290頁, メディカルビュー社, 東京
3. 日浦義仁, 六車光英, 松田公志 (2004) 閉塞性無精子症. 必携 今日の生殖医療 産婦人科治療 Vol. 88 増刊 333-340頁, 永井書店, 東京
4. 松田公志 (2004) 閉塞性無精子症の診断 適切な診断を目指して. 生殖医療のコツと落とし穴 40頁, 中山書店, 東京
5. 松田公志, 川喜田睦司, 室田卓之 (2004) 腹腔鏡下副腎摘除術. 鏡視下手術手技図譜 202-213頁, 永井書店, 東京
6. 川喜田睦司 (2004) 後腹腔鏡下腎摘除術. 鏡視下手術手技図譜 214-219頁, 永井書店, 東京
7. 川喜田睦司 (2004) 腹腔鏡下停留精巣診断と腹腔内精巣固定術. 鏡視下手術手技図譜 220-224頁, 永井書店, 東京

## 眼科学講座

### 〈研究概要〉

#### I 臨床研究

1. 高齢者の視機能をおびやかす加齢黄斑変性症において脈絡膜新生血管が網膜中心窩に発生した時には有効な治療法がなかったが, 最近光線力学療法の治験が終わり, 臨床応用が開始された. 日本人における効果の程度と限界をあきらかにするべく, 多くの治療症例を蓄積して詳細な経過観察を行っている段

階である。さらに、薬剤で脈絡膜新生血管を抑制することを目的に、現在3種類の治験が進行中である。

2. 網膜深層および脈絡膜の病変は通常の診療技術ではとらえにくく、それを補うものとしてフルオレスセインとインドシアニングリーンの蛍光造影剤を用いた蛍光眼底造影による検査所見と遠赤外光を用いた網膜断面観察計 optical coherence tomography (OCT) とにより黄斑部病変の詳細な観察を行う研究に力を注いできた。黄斑変性症の代表である加齢黄斑変性症と、それに似ていて異なる疾患であるポリープ状脈絡膜血管症とを疫学的、臨床的に比較検討し、日本人におけるこの疾患の病態が欧米人とは異なる点が明らかとなってきた。この成果は治療適応やその時期・方法などの検討に重要で臨床に役立つものである。

3. 黄斑上膜、網膜剥離、加齢黄斑変性、緑内障と眼科で手術対象となる疾患は高齢者に多く、同時に白内障も罹患していることが多い。これらの手術治療に際し、超音波による水晶体摘出術、眼内レンズ挿入術を同時に行うことができれば、1回の手術で複数の眼疾患を治療することが出来る。その治療結果は術式の洗練により飛躍的に向上し、むしろ同時手術の方が原疾患の治療成績もよいことがわかってその成績を報告してきたが、さらに精密な視機能を得るべく臨床データの蓄積と解析を行っている。

4. 慢性の緑内障はゆっくりと視野障害が進行し、決定的な治療法に欠けるが、新しい眼圧下降薬と新しい手術術式が登場し、その効果を確認する臨床成績を報告してきた。現在新しい眼圧下降点眼薬の治験を進めている。

## II 実験研究

1. 培養細胞を用いて、緑内障における房水流出抵抗の場である線維柱帯細胞において、NOが保護的作用を持つことがわかってきて緑内障の研究に展開がある。

2. 神経栄養因子であるPigment epithelium derived factor (PEDF)は同時に血管新生抑制作用ももつ。ヒトの硝子体におけるPEDF濃度は、増殖糖尿病網膜症で低く、網膜剥離では高いことがわかった。増殖糖尿病網膜症における新生血管の発生メカニズムにPEDFの低下が関与していることは今後の治療を考えるうえで重要である。

3. 薬剤誘発網膜色素変性症において、網膜の変性が食餌性にある程度コントロールできることがわかってきて、本症への介入に新たな展開を期待したい。

4. 網膜色素上皮は高濃度のオルニチンで傷害されるが、培養網膜色素上皮においては傷害されるタイプとされないタイプの2種類があり、障害はプロリンによってレスキューされ、その傷害のメカニズムにアミノ酸トランスポーターが関与することがわかってきた。網膜変性のメカニズムに新たな視点を加えられている。

## 〈研究業績〉

### 原著

1. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Miyake Y, Matsumura M, Tsubura A (2003) Functional rescue of N-methyl-N-nitrosourea-induced retinopathy by nicotinamide in sprague-Dawley rats. *Current Eye Res* 26: 355–362
2. Nahoko Ogata, Masato Matsuoka, Masahito Imaizumi, Miwa Arichi, Miyo Matsumura (2004) Decrease of Pigment Epithelium-derived Factor in Aqueous Humor With Increasing Age. *Am J Ophthalmol* 137: 935–936
3. Nahoko Ogata, Masato Matsuoka, Masahito Imaizumi, Miwa Arichi, Miyo Matsumura (2004) Decreased Levels of Pigment Epithelium-derived Factor in Eyes With Neuroretinal Dystrophic Diseases. *Am J Ophthalmol* 137: 1129–1130
4. Naotaka Hayashi, Nobuo Jo, Motokuni Aoki, Kunio Matsumoto, Toshikazu Nakamura, Yasufumi Sato, Nahoko Ogata, Toshio Ogihara, Yasufumi Kaneda, Ryuichi Morishita (2004) In vivo evidence of angiogenesis induced by transcription factor Ets-1. Ets-1 is located upstream of angiogenesis cascade. *Circulation* 109: 3035–3041
5. Masato Matsuoka, Nahoko Ogata, Tetsuya Nishi-

- mura, Kanji Takahashi, Miyo Matsumura (2004) Expression of pigment epithelium-derived factor and vascular endothelial growth factor in choroidal neovascular membranes and polypoidal choroidal vasculopathy. *British Journal of Ophthalmology* 88: 809–815
6. Nobuo Jo, Guey-Shuang Wu, and Narsing A. Rao (2004) Upregulation of Chemokine Expression in the Retinal Vasculature in Ischemia-Reperfusion Injury. *Investigative Ophthalmology & Visual Science* 44: 4054–4060
  7. Masahito Imaizumi, Nahoko Ogata, Miwa Arichi (2004) Development of Multiple Sclerosis in a Child Presenting with Acute Bilateral Retrobulbar Optic Neuritis. *Jpn J Ophthalmol* 48: 177–179
  8. Kaei Moriguchi, Katsuhiko Yoshizawa, Nobuaki Shikata, Takashi Yuri, Hideho Takada, Takahiko Hada, Airo Tsubura (2004) Suppression of N-Methyl-N-Nitrosourea-Induced Photoreceptor Apoptosis in Rats by Docosahexaenoic Acid. *Ophthalmic Research* 36: 98–105
  9. Tomita Minoru, Matsubara Takashi, Yamada Haruhiko, Takahashi Kanji, Nishimura Tetsuya, Sho Kenichiro, Uyama Masanobu, Matsumura Miyo (2004) Long term follow up in a case of successfully treated idiopathic retinal vasculitis, aneurysms, and neuroretinitis (IRVAN). *Br J Ophthalmol* 88: 302–303
  10. Tomita Minoru, Yamada Haruhiko, Adachi Y, Cui Y, Yamada Eri, Higuchi Akiko, Minamino Keizou, Suzuki Y, Matsumura Miyo, Ikehara Susumu (2004) Choroidal neovascularization is provided by bone marrow cells. *Stem Cells* 22: 21–26
  11. Hiroyuki Nambu, Rie Nambu, Yuji Oshima, Sean F Hackett, Godwin Okoye, S Wiegand, G Yancopoulos, Donald J Zack and Peter A Campochiaro (2004) Angiopoietin 1 inhibits ocular neovascularization and breakdown of the blood-retinal barrier. *Gene therapy* 11: 865–873
  12. 黒川弘晶, 金 熙乾, 清水 健, 赤井幹夫, 池田耕土, 澤田 敏, 有地美和, 緒方奈保子, 松村美代 (2003) 頭蓋内血管による視神経圧迫のMRI 正常眼圧緑内障による視野障害も含めて. *Japanese Journal of Clinical Radiology* (臨床放射線) 48: 1655–1662
  13. 安藤 彰, 金子志帆, 松村美代 (2004) ブタ培養線維柱帯細胞の増殖に対する細胞増殖因子の効果. *日眼会誌* 108: 549–553
  14. 安藤 彰, 大山奈美, 安田光代, 松村美代 (2004) 視神経乳頭所見と視野との対応が異なる視神経低形成に併発した開放隅角緑内障の2例. *臨床眼科* 58: 315–320
  15. 緒方奈保子, 今泉正仁, 宮代美樹, 生水 晃, 野村昌作, 松村美代 (2004) 糖尿病網膜症と血小板由来マイクロパーティクル. *臨床眼科* 58: 1441–1444
  16. 山田晴彦, 山田英里, 中田知伸 (2004) 網膜静脈分枝閉塞症と裂孔原性網膜剥離を伴った眼トキシカラ症の1例. *臨床眼科* 58: 2159–2164
  17. 二階堂潤, 山田晴彦, 三間由美子, 宮本秀樹, 松村美代 (2004) 未熟児網膜症自然治癒31年後に発症した裂孔原性網膜剥離の1例. *臨床眼科* 58: 2165–2169
  18. 佐々木奈穂, 岡見豊一, 松永裕史, 白数純也, 畑埜浩子, 弓削堅志, 津村晶子, 西信昭子, 岩下憲四郎 (2004) 加齢性内反症に対する下眼瞼牽引筋腱膜短縮による手術成績. *眼科手術* 17: 131–134
  19. 山田晴彦, 山田英里 (2004) 新しい水晶体核処理の提案と Harry Phaco Chopper の有用性の検討. *眼科手術* 17: 591–596
  20. 木内克治, 山田晴彦, 河合江実, 藤関義人, 和田光正, 内田宜子, 樋口暁子, 南野桂三, 松村美代 (2004) 糖尿病網膜症に対する硝子体手術施行症例の僚眼から検討した硝子体手術の施行時期. *眼紀* 55: 96–99
  21. 藤本正流, 有地美和, 緒方奈保子 (2004) Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) に対する治療が奏効した眼内炎の1例. *眼紀* 55: 218–221
  22. 南野桂三, 山田晴彦, 河合江実, 藤関義人, 和田光正, 木内克治, 内田宜子, 樋口暁子, 松村美代 (2004) Optical Coherence Tomography 3 (OCT3) による糖尿病網膜症に伴う硬性白斑の局在. *眼紀* 55: 187–191
  23. 有馬由里子, 河原澄枝, 松岡雅人, 尾辻 剛, 高橋寛二, 松村美代 (2004) 著明な乳頭浮腫

を伴った小児の強膜炎. 眼紀 55: 465-470

24. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 宇山昌延, 松村美代 (2004) ポリープ状脈絡膜血管症の自然消退例のインドシアニンググリーン造影所見. 眼紀 55: 529-535
25. 山崎有加里, 河原澄枝, 木本高志, 埴本 慎, 松岡雅人, 松村美代, 神本英徳 (2004) 副腎皮質ステロイド薬の全身投与を行わずに自然軽快した原田病. 眼紀 55: 691-696
26. 永井由巳, 岸本直子, 高橋寛二, 宇山昌延 (2004) ポリープ状脈絡膜血管症の臨床的特徴. 眼臨 98: 795-798
27. 緒方奈保子, 松岡雅人, 今泉正仁, 有地美和, 松村美代 (2004) Pigment Epithelium Derived Factor (PEDF) 濃度の加齢による影響. 眼臨 98: 995-997
28. 尾辻 剛, 安藤 彰, 福井智恵子, 桑原敦子, 松村美代 (2004) ラタノプロスト,  $\beta$ 遮断薬併用例における塩酸ブナゾシン併用時の眼圧下降効果の検討. あたらしい眼科 21: 955-956

## 総 説

1. 松村美代 (2004) 眼科の魅力と研修制度. 日眼 108: 496
2. 松村美代 (2004) 臨床研究に思う. Ophthalmic Surgeons 4: 31
3. 松村美代 (2004) 若手医師への手術教育. 日本の眼科 75: 1219-1222
4. 西村哲哉 (2004) スポーツで網膜剥離になった患者さんのケア. 眼科ケア 6: 728-734
5. 福島伊知郎 (2004) 特集『糖尿病網膜症—最近の進歩 II. 病態研究の進歩』糖尿病脈絡膜症の病態と脈絡膜循環. Diabetes Frontier 15(3): 293-296
6. 高橋寛二, 津村晶子, 正健一郎, 福地俊雄 (2004) OCT3000. 眼科手術 17: 57-59
7. 高橋寛二 (2004) 脈絡膜新生血管の読影—JAT Study—. 眼紀 55: 513-519
8. 高橋寛二 (2004) 加齢黄斑変性に対する光線力学療法の適応. あたらしい眼科 21: 1303-1311
9. 高橋寛二 (2004) II. 硝子体疾患 2. 加齢変化. 眼科 46: 1657-1661
10. 正健一郎 (2004) ロービジョンケア〜残され

た視力をどう生かすか〜 黄斑部手術後のロービジョンケア. 眼科ケア 6(6) (通巻 56号) : 89-94

11. 山田晴彦, 松村美代 (2004) 糖尿病網膜症とRAS. Angiotensin Research 1(4): 346-350
12. 高橋寛二 (2004) 高齢者に増加している加齢黄斑変性. 読売新聞記事 10月7日

## 学会発表

1. Miyo Matsumura (2004) Vitrectomy for diabetic retinopathy. Diabetic Retinopathy Forum, 中国 (北京)
2. Kanji Takahashi (2004) Diabetic macular edema. Diabetic Retinopathy Forum, 中国 (北京)
3. Kanji Takahashi (2004) Polypoidal choroidal Vasculopathy. Diabetic Retinopathy Forum, 中国 (北京)
4. N. Ogata, M. Matsuoka, M. Imaizumi, M. Arichi, M. Matsumura (2004) DECREASED LEVELS OF PIGMENT EPITHELIUM-DERIVED FACOTR (PEDF) IN EYES WITH NEURORETINAL DYSTROPHIC DISEASES. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
5. A. Ando, Y. Yamazaki, S. Kaneko, M. Matsumura. (2004) DOWN REGULATION OF APOPTOSIS RELATED GENE EXPRESSION AND ACTIVATION OF NF- $\kappa$ B BY NIPRADILOL DURING SERUM DEPRIVATION ?INDUCED APOPTOSIS IN PC12 CELLS. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
6. H. Yamada, A. Higuchi, E. Yamada, M. Matsu-mura. (2004) Effect of Anti-hyperlipidemia drug against retinal neovascularization. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
7. A. Higuchi, H. Yamada, E. Yamada, M. Matsu-mura. (2004) Inhibitory Effect of St. John's wort and Hypericin on Retinal and Choroidal Neovascularization. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
8. M. Matsuoka, N. Ogata, T. Otsuji, M. Matsumura.

- (2004) Expression Of Pigment Epithelium-derived Factor And Vascular Endothelial Growth Factor In Eyes Of Type 2 Diabetes Mellitus Model In Rats. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
9. K. Minamino, Y. Adachi, H. Yamada, A. Higuchi, Y. Suzuki, M. Iwasaki, Y. Zhang, M. Matsumura, S. Ikehara. (2004) A new strategy for transplantation of bone marrow stem cells into the retina. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
  10. 木本高志, 西村哲哉, 松原 孝, 寺井実知子, 福井智恵子, 松村美代 (2004) 網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫に対する硝子体手術の光干渉断層装置 (OCT) による評価. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  11. 松原 孝, 埜本 慎, 松山加耶子, 河合江実, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 後部硝子体剥離のない裂孔原性網膜剥離の硝子体手術成績. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  12. 安藤 彰, 福井智恵子, 尾辻 剛, 桑原敦子, 金子志帆, 竹内正光, 松村美代 (2004) Advanced NPT 単独と白内障同時手術の成績. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  13. 尾辻 剛, 加賀郁子, 安藤 彰, 福井智恵子, 桑原敦子, 松村美代 (2004) 開放隅角緑内障に対するビスコカナロストミーとトラベクトミーの効果の比較. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  14. 福井智恵子, 安藤 彰, 尾辻 剛, 桑原敦子, 竹内正光, 松村美代 (2004) トラベクトミー術後経過 (結膜切開法の比較). 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  15. 埜本 慎, 松原 孝, 松山加耶子, 河合江実, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 裂孔原性網膜剥離に対するトリウムシノロンを用いた硝子体手術の視力予後. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  16. 福井智恵子, 安藤 彰, 松村美代 (2004) ヒーロンVを用いた白内障併用隅角癒着解離術. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  17. 松村美代 (2004) 教育セミナー 緑内障一代表的な術式の適応と基本手技— トラベクトミー2. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  18. 福島伊知郎 (2004) 教育セミナー バックリング手術 ジアテルミー凝固を用いたエクソプラント. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  19. 高橋寛二 (2004) 教育セミナー 光力学療法. 第27回日本眼科手術学会総会, 東京
  20. 和田光正 (2004) 教育講演 検査—眼科糖尿病診療の基本的検査法について. 第10回日本糖尿病眼学会総会, 福岡
  21. 和田光正, 河合江実, 南野桂三, 樋口暁子, 平本裕盛, 緒方奈保子, 松村美代 (2004) 糖尿病黄斑症に対するトリウムシノロン後部テノン嚢下投与の効果. 第10回日本糖尿病眼学会総会, 福岡
  22. 山田晴彦, 山田英里, 樋口暁子, 松村美代 (2004) SDT ラットにおける眼内血管新生の発生について. 第10回日本糖尿病眼学会総会, 福岡
  23. 緒方奈保子, 松岡雅人, 今泉正仁, 松村美代 (2004) 視神経・網膜萎縮性疾患の眼内 Pigment epithelium derived factor (PEDF) 濃度. 第108回日本眼科学会総会, 東京
  24. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 松村美代 (2004) 悪性ポリープ状脈絡膜血管症の臨床的特徴. 第108回日本眼科学会総会, 東京
  25. 安藤 彰, 金子志帆, 松村美代 (2004) 線維柱帯細胞の増殖に対する細胞増殖因子の効果. 第108回日本眼科学会総会, 東京
  26. 西川真生, 高橋寛二, 永井由巳, 尾辻 剛, 和田光正, 福地俊雄, 正健一郎, 山崎有加里, 津村晶子, 松村美代 (2004) Retinal angiomatous proliferation の長期経過. 第108回日本眼科学会総会, 東京
  27. 山田晴彦, 樋口暁子, 山田英里, 松村美代 (2004) 抗高脂血症薬の網膜新生血管に対する効果. 第108回日本眼科学会総会, 東京
  28. 安藤 彰, 萩原実早子, 寺井実知子, 安田光代, 後藤昌久, 徳田愛子, 仲村永江, 中村千香子, 蔵重知帆, 伏見智雅子, 篠畑佳世子, 宮田律子, 松村美代 (2004) 不同視弱視の弱視眼と僚眼における黄斑部形態の定量的検討. 第29回小児眼科学会総会, 第60回斜視弱視学

会総会合同学会, 沖繩

29. 松本泰明, 三間由美子, 河原澄枝, 松村美代 (2004) 緑膿菌性壊死性強膜炎の1例. スリーサム・イン札幌, 第41回日本目感染症学会総会, 札幌
30. 山崎有加里, 河原澄枝, 木本高志, 松岡雅人, 松村美代 (2004) 長期経過後に他眼に再発した桐沢型ぶどう膜炎の2例. スリーサム・イン札幌, 第41回日本目感染症学会総会, 札幌
31. 桑田満喜, 南部裕之, 安藤 彰, 尾辻 剛, 松村美代 (2004) 下方から行ったトラベクロトミー+シヌソトミーの術後3年の成績. 第110回京都眼科学会, 京都
32. 高橋寛二 (2004) シンポジウム 光線力学的療法 (PDT) の適応. 第21回日本眼循環学会, 旭川
33. 緒方奈保子, 今泉正仁, 有地美和, 生水 晃, 野村昌作, 松村美代 (2004) マイクロパーティクルと糖尿病網膜症の微小循環. 第21回日本眼循環学会, 旭川
34. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 津村晶子, 尾辻 剛, 和田光正, 有澤章子, 松村美代 (2004) びまん性網膜色素上皮症 (DRPE) の蛍光眼底造影所見. 第21回日本眼循環学会, 旭川
35. 正健一郎, 高橋寛二, 永井由巳, 津村晶子, 有澤章子, 尾辻 剛, 和田光正, 松村美代 (2004) 経瞳孔温熱療法後に classic CNV 様に転化したポリープ状脈絡膜血管症. 第21回日本眼循環学会, 旭川
36. 木本高志, 西村哲哉, 松本泰明, 国富 薫, 松村美代 (2004) 網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する内境界膜剥離併用硝子体手術成績. 第21回日本眼循環学会, 旭川
37. 松村美代 (2004) シンポジウム「問題点からみた緑内障手術の評価」. 第15回日本緑内障学会, 新潟
38. 南部裕之 (2004) シンポジウム「問題点からみた緑内障手術の評価」問題点からみた緑内障手術 Advanced-NPT. 第15回日本緑内障学会, 新潟
39. 松原敬忠, 竹内正光, 南部裕之, 松村美代 (2004) Advanced Non-penetrating trabeculectomy (ad-NPT) 術後のUBM所見. 第15回日本緑内障学会, 新潟
40. 安藤 彰, 南部裕之, 桑原敦子, 竹内正光, 粉川弥栄子, 松村美代 (2004) 正常眼圧緑内障に対するラタノプロストの眼圧下降効果—2年の経過. 第15回日本緑内障学会, 新潟
41. 湖崎 淳, 郡山昌敬, 寺内博夫, 松村美代 (2004) GDXアクセスVCCの有効性—GPとの比較. 第15回日本緑内障学会, 新潟
42. 中内正志, 亀田隆範, 松村美代, 石郷岡均 (2004) トラベクロトミー単独手術の術後長期成績. 第15回日本緑内障学会, 新潟
43. 山田晴彦, 樋口暁子, 松村美代 (2004) ACE阻害薬リシノプリルによる網膜新生血管抑制効果. 第24回日本眼薬理学会, 八王子
44. 今泉正仁, 黒川弘晶, 緒方奈保子, 松村美代 (2004) 内頸動脈による圧迫性視神経症例の視野異常. 第42回日本神経眼科学会総会, 名古屋
45. 松村美代 (2004) シンポジウム「手術の最先端と限界—ロービジョンケアとの関わり—」緑内障とロービジョン. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
46. 松村美代 (2004) シンポジウム「訴訟に至らない手術を目指して」安全確実な手術教育. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
47. 中内正志, 亀田隆範, 石郷岡均 (2004) 術後10年以上の経過観察における線維柱帯切開術単独手術の長期成績. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
48. 南部裕之, 桑田満喜, 安藤 彰, 松原敬忠, 竹内正光, 松村美代 (2004) 隅角癒着解離術の術後成績. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
49. 木本高志, 西村哲哉, 松本泰明, 国富 薫, 松村美代 (2004) 網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するトリアムシノロン併用硝子体手術成績. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
50. 正健一郎, 高橋寛二, 永井由巳, 津村晶子, 有澤章子, 尾辻 剛, 和田光正, 松原 孝, 松村美代 (2004) ポリープ状脈絡膜血管症に対する経瞳孔温熱療法の治療成績. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
51. 有澤章子, 埜本 慎, 松原 孝, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 巨大裂孔網膜剥離に対する手術成績. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
52. 安藤 彰, 宮崎秀行, 福井智恵子, 南部裕之, 松村美代 (2004) 炭酸脱水酵素阻害剤点眼後

- に不可逆的な角膜浮腫を来した1例. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
53. 高橋寛二 (2004) ランチョンセミナー「加齢黄斑変性の新しい治療法—眼科光線力学的療法—」ビスデザインによる光線力学的療法の治療適応. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
  54. 高橋寛二 (2004) 専門別研究会「レーザー眼科学」滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
  55. 加藤 聡, 池田誠宏, 緒方奈保子, 安藤伸明, 松橋英昭 (2004) インストラクションコース これだけは知っておきたい網膜光凝固術の実際. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
  56. 永井由巳, 高橋寛二, 沢 美喜, 五味 文, 喜田照代, 張野正誉 (2004) インストラクションコース 上方流・黄斑塾. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
  57. 松村美代 (2004) 教育セミナー 医学教育. 第70回日本中部眼科学会, 大阪
  58. 松原 孝 (2004) 教育セミナー 手術教育. 第70回日本中部眼科学会, 大阪
  59. 三木克朗, 高橋寛二, 有澤章子, 西村哲哉, 松村美代, 植田美幸, 植村芳子 (2004) 複数回手術後に発症した交感性眼炎の起交感眼の病理組織像. 第70回日本中部眼科学会, 大阪
  60. 松村美代 (2004) ランチョンセミナー Back to the Basic! NTG診療の基本を考える. 第70回日本中部眼科学会, 大阪
  61. 有澤章子, 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 松村美代 (2004) 光線力学療法後, 早期に視力低下した症例の検討. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  62. 緒方奈保子, 宮代美樹, 松岡雅人, 安藤 彰, 松村美代 (2004) 高度近視眼のPigment Epithelium Derived Factor (PEDF) の発現. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  63. 郡山昌敬, 松原 孝, 埴本 慎, 福島伊知郎, 高橋寛二, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 裂孔原性網膜剥離に対する強膜内陥術と硝子体手術のprospective studyの長期成績. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  64. 埴本 慎, 松原 孝, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離に対する硝子体手術後経過の検討. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  65. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 和田光正, 尾辻 剛, 松村美代 (2004) 滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法の早期治療成績. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  66. 和田光正, 緒方奈保子, 南野桂三, 郡山昌敬, 中内正志, 樋口暁子, 松村美代 (2004) 硝子体手術後の糖尿病黄斑症に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
  67. 松村美代 (2004) 増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の成果. 眼手術セミナー, 大阪
  68. 高橋寛二 (2004) 摘出脈絡膜新生血管の病理. 眼手術セミナー, 大阪
  69. 安藤 彰, 安田光代, 萩原実早子, 寺井実知子, 徳田愛子, 仲村永江, 中村千香子, 伏見智雅子, 篠畑佳世子, 松村美代 (2004) 不同視弱視における黄斑部形態の左右差の検討. 第339回大阪眼科集談会, 大阪
  70. 山崎有加里, 河原澄枝, 木本高志, 松岡雅人, 松村美代 (2004) 長期経過後に他眼に再発した桐沢型ぶどう膜炎の2例. 第340回大阪眼科集談会, 大阪
  71. 小林 敦, 正健一郎, 緒方奈保子, 松原敬忠, 寺井実知子, 上原雅美, 松村美代 (2004) 多数の網膜血管腫と滲出性網膜剥離がみられたvon Hippel-Lindau病の一例. 第341回大阪眼科集談会, 大阪
  72. 国富 薫, 木本高志, 西村哲哉, 松本泰明, 松村美代 (2004) 網膜静脈分枝閉塞症に対するトリアムシノロン併用硝子体手術を行った3症例. 第341回大阪眼科集談会, 大阪
  73. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2004) 関西医大病院眼科における光線力学療法. 第342回大阪眼科集談会, 大阪
  74. 新井英子, 安藤 彰, 秋岡真砂子, 河合江実, 北川誠彦, 松井淑江, 松村美代 (2004) 神経梅毒の5症例. 第343回大阪眼科集談会, 大阪
  75. 国富 薫, 埴本 慎, 松原 孝, 松原敬忠, 有澤章子, 松山加耶子, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 網膜剥離の硝子体手術後に生じた黄斑円孔の2症例. 第343回大阪眼科集談会, 大阪

76. 南部裕之 (2004) 緑内障手術 適応と基本手術手技 当科におけるトラベクトミー. 第31回大阪眼科手術の会, 大阪
77. 高橋奈津子, 下妻晃二郎, 鈴嶋よしみ, 森田智視, 藤田京子, 高橋寛二, 湯沢美都子, 福原俊一 (2004) 「加齢黄斑症の読書困難に対するロービジョンケア前後のQOL評価」におけるレスポンスシフト (Response shift) 研究. 厚生労働省科学研究 難治性疾患克服研究事業「特定疾患アウトカム研究: QOL, 介護負担, 経済評価」班 平成15年度研究発表会 (主任研究者 福原俊一), 東京
78. 下妻晃二郎, 湯沢美都子, 藤田京子, 高橋寛二, 鈴嶋よしみ, 山口拓洋, 大橋靖雄, 福原俊一 (2004) 加齢黄斑症 (ARM) の読書困難に対するロービジョンケア前後のQOL. 厚生労働省科学研究 難治性疾患克服研究事業「特定疾患アウトカム研究: QOL, 介護負担, 経済評価」班 平成15年度研究発表会 (主任研究者 福原俊一), 東京
79. 松村美代 (2004) 『プライマリィ・ケア・シリーズ36 内眼手術の術後管理』緑内障. 日本眼科学会第40回専門医制度講習会, 東京
80. 松村美代 (2004) 解放隅角緑内障の治療戦略. 第60回東京医大臨床懇話会, 東京
81. 南部裕之 (2004) 症例検討会 (5) 手術の適応に迷う症例. 第4回近畿眼科オープン症例検討会, 大阪
82. 南部裕之 (2004) 症例報告「症例の検討」. 第9回大阪緑内障研究会 (在阪5大学緑内障研究会), 大阪
83. 松村美代 (2004) 目は情報の源. 関西医科大学高校生公開講座, 大阪
84. 松村美代 (2004) BRVO後の血管増殖は虚血だけが原因だろうか. 第6回Japan Macula Club総会, 蒲郡
85. 松村美代 (2004) 緑内障の病診連携に望むもの一病院の立場から一. 鴨川緑内障勉強会, 京都
86. 松村美代 (2004) 糖尿病網膜症の手術治療—10年の歩み. 倉敷眼科懇話会, 倉敷
87. 松村美代 (2004) 高齢化に伴う眼疾患. 第134回加多乃会勉強会, 大阪
88. 緒方奈保子 (2004) 加齢黄斑変性の病態と臨床. 第24回金沢医大眼科勉強会, 金沢
89. 松村美代 (2004) 糖尿病網膜症に対する硝子体手術の成果. 大分眼科集談会, 大分
90. 高橋寛二 (2004) ポリープ状脈絡膜血管症の診断と治療. 第2回上方黄斑研究会, 大阪
91. 高橋寛二 (2004) 加齢黄斑変性に対する光線力学療法の実際. 伊吹眼科研究会, 彦根
92. 高橋寛二 (2004) 滲出型加齢黄斑変性の診断と新しい治療. 倉敷眼科懇話会, 倉敷
93. 白神史雄, 湯沢美都子, 高橋寛二 (2004) ランチョンセミナー みんなでお勉強～ICG蛍光造影part3～. 第21回日本眼循環学会, 旭川
94. 高橋寛二 (2004) Retinal angiomatous proliferation (RAP) の光学的干涉断層計所見. 第6回Japan Macula Club総会, 蒲郡
95. 高橋寛二 (2004) 働き盛りを襲う中心性網膜炎. NHK ラジオ「関西ラジオワイド・季節の健康」, 大阪
96. 高橋寛二 (2004) 高齢者の視力低下の原因「加齢黄斑変性」. NHK ラジオ「関西ラジオワイド・季節の健康」, 大阪
97. 高橋寛二 (2004) 黄斑疾患の診断. 第59回香川大学眼科研究会, 高松
98. 高橋寛二 (2004) 加齢黄斑変性に対する光線力学的治療 (PDT), 治療適応と実際の手技. 第70回日本中部眼科学会, 大阪
99. 高橋寛二 (2004) 加齢黄斑変性に対する新しいレーザー治療～適応と限界～「光線力学療法」. 第73回網膜病変談話会, 東京
100. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第1回講習会, 東京
101. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第2回講習会, 東京
102. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第3回講習会, 大阪
103. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第4回講習会, 東京
104. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第5回講習会, 東京
105. 高橋寛二 (2004) 治療部位の確定. 眼科 PDT講習会 第6回講習会, 旭川
106. 樋口暁子, 山田晴彦, 山田英里, 松村美代 (2004) セントジョーンズワートとヒペリシンによる眼内血管新生抑制効果. 第108回日本眼

科学会総会, 東京

107. 松岡雅人, 河原澄枝, 木本高志, 山崎有加里, 松村美代 (関西医大), 濱田恒一 (ハマダ眼科) (2004) 梅毒性ぶどう膜炎の2症例. スリーサム・イン札幌, 第41回日本目感染症学会総会, 札幌
108. 南野桂三, 和田光正, 河合江実, 郡山昌敬, 樋口暁子, 平本裕盛, 緒方奈保子, 松村美代 (関西医大) (2004) 糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシロン後部テノン嚢下投与の効果 3ヶ月以上の経過. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
109. 南野桂三, 和田光正, 河合江実, 樋口暁子, 平本裕盛, 緒方奈保子, 松村美代 (関西医大) (2004) 糖尿病黄斑症に対するトリアムシロン後部テノン嚢下投与の効果. 第338回大阪眼科集談会, 大阪
110. 松岡雅人, 緒方奈保子, 尾辻 剛, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 眼内における pigment epithelium-derived factor (PEDF). 第8回眼科分子生物学研究会
111. 松岡雅人, 緒方奈保子, 南野桂三, 尾辻 剛, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 糖尿病増殖性線維性血管膜組織における PEDF と VEGF. 第10回日本糖尿病眼学会総会, 福岡
112. 松岡雅人, 緒方奈保子, 尾辻 剛, 松村美代 (2004) 2型糖尿病モデルラットにおける PEDF と VEGF. 第108回日本眼科学会総会, 東京
113. 松山加耶子, 正健一郎, 松原 孝, 松村美代 (2004) 外傷性黄斑円孔から裂孔原性網膜剥離を来した1例. 第110回京都眼科学会, 京都
114. 久保木香織, 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 松村美代 (2004) 出血性網膜色素上皮剥離に色素上皮裂孔が合併した2症例. 第110回京都眼科学会, 京都
115. 吉川匡宣, 緒方奈保子, 高橋寛二, 南部裕之, 松村美代, 森真一郎, 植村芳子 (2004) 眼球突出を初発症状とし両眼窩腫瘍を形成した成人T細胞白血病 (リンパ腫型) の1例. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
116. 津村晶子, 高橋寛二, 正健一郎, 尾辻 剛, 永井由巳, 福地俊雄, 松村美代 (2004) 自然経過観察中に classic CNV の所見を示したポリープ状脈絡膜血管症の検討. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
117. 久保木香織, 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 松村美代 (2004) 出血性網膜色素上皮剥離に網膜色素上皮裂孔が合併した2症例. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
118. 館野寛子, 高橋寛二, 福地俊雄, 永井由巳, 山崎有加里, 正健一郎, 松村美代 (2004) 近視眼の視神経乳頭周囲にみられる脈絡膜分離の OCT3 所見. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
119. 松原敬忠, 福地俊雄, 埜本 慎, 竹内正光, 松村美代 (2004) 外傷性毛様体解離と毛様体脈絡膜剥離の UBM (ultrasound biomicroscope) 所見の検討. 第58回日本臨床眼科学会, 東京
120. 久保木香織, 松山加耶子, 埜本 慎, 山崎有加里, 松原 孝, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 2種アクリル製眼内レンズを使用した白内障硝子体同時手術後屈折誤差の検討. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
121. 松山加耶子, 埜本 慎, 松原 孝, 大山奈美, 西村哲哉, 松村美代 (2004) 化学療法により続発性網膜剥離が消失した転移性脈絡膜腫瘍の1例. 第43回日本網膜硝子体学会総会, 前橋市
122. 吉川匡宣, 緒方奈保子, 高橋寛二, 松村美代, 森真一郎 (2004) 眼窩内腫瘍を形成した成人T細胞白血病の1例. 第338回大阪眼科集談会, 大阪
123. 館野寛子, 高橋寛二, 福地俊雄, 正健一郎, 山崎有加里, 松村美代 (2004) 高度近視にみられる乳頭周囲脈絡膜分離の OCT3 所見. 第338回大阪眼科集談会, 大阪
124. 桑田満喜, 南部裕之, 安藤 彰, 尾辻 剛, 萩原実早子, 松村美代 (2004) 下方から行ったトラベクロトミー+シヌソトミーの術後3年の成績. 第339回大阪眼科集談会, 大阪
125. 久保木香織, 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 松村美代 (2004) 出血性網膜色素上皮剥離に網膜色素上皮裂孔が合併した2症例. 第340回大阪眼科集談会, 大阪
126. 桑田満喜, 郡山昌敬, 南部裕之, 松村美代 (2004) 高血圧が関与したと思われる NLFD の2症例. 第342回大阪眼科集談会, 大阪
127. 松山加耶子, 埜本 慎 (2004) 経時的な病巣の移動が観察された眼トキシカラの1例. 第3

## 回OCULAR INFECTION FORUM, 大阪

128. 桑田満喜, 南部裕之, 安藤 彰, 尾辻 剛, 萩原実早子, 松村美代 (2004) 下方から行ったトラベクロトミー+シヌソトミーの術後3年の成績. 第110回京都眼科学会, 京都

## 著 書

1. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」中心性漿液性網膜剥離脈絡膜症. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 381頁, 文光堂, 東京
2. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」網膜色素上皮剥離, 網膜色素上皮裂孔. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 382-383頁, 文光堂, 東京
3. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」網膜色素上皮症. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 384頁, 文光堂, 東京
4. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」急性後部多発性斑状色素上皮症. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 385頁, 文光堂, 東京
5. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」多発性後極部網膜色素上皮症, 胞状網膜剥離. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 386頁, 文光堂, 東京
6. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」急性網膜色素上皮炎. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 387頁, 文光堂, 東京
7. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」多発性一過性白点症候群. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 388頁, 文光堂, 東京
8. 岸本直子 (2004) 「黄斑疾患」散弾状脈絡網膜症. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 389頁, 文光堂, 東京
9. 松村美代 (2004) 「原発緑内障」原発開放隅角緑内障・正常眼圧緑内障. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 484-485頁, 文光堂, 東京
10. 松村美代 (2004) 「原発緑内障」高眼圧症. 眼科診療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 486頁, 文光堂, 東京
11. 松村美代 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「緑内障」Schwartz 症候群. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 101頁, 文光堂, 東京
12. 河原澄枝 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「ぶどう膜」水晶体起因性ぶどう膜炎. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 143頁, 文光堂, 東京
13. 河原澄枝 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「ぶどう膜」リウマチ性疾患に伴うぶどう膜炎. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 143頁, 文光堂, 東京
14. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「ぶどう膜」地図状脈絡膜症. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 144-145頁, 文光堂, 東京
15. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「網膜」中心性漿液性脈絡網膜症. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 160-161頁, 文光堂, 東京
16. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「網膜」, 網膜色素上皮症. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 162頁, 文光堂, 東京
17. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「網膜」, 急性後極部多発性斑状網膜色素上皮症. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔土, 臼井正彦, 田野保雄編) 162頁, 文光堂, 東京
18. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別: 薬の使い方』「網膜」, 多発性後極部網膜色素上皮症. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員

- (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 163-164頁, 文光堂, 東京
19. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「網膜」, 急性網膜色素上皮炎. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 165頁, 文光堂, 東京
  20. 高橋寛二 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「網膜」, 多発性消失性白点症候群. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 166頁, 文光堂, 東京
  21. 河原澄枝 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎—眼トキソカラ症—. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 146頁, 文光堂, 東京
  22. 河原澄枝 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎—オンコセルカ症 (回旋系状虫症) —. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 147頁, 文光堂, 東京
  23. 河原澄枝 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎—顎口虫症—. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 147頁, 文光堂, 東京
  24. 松村美代 (2004) 『I 疾患別:薬の使い方』「網膜」続発性網膜剥離. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 174-175頁, 文光堂, 東京
  25. 松村美代 (2004) 『II 作用別:薬の基礎知識』眼科手術:手術補助薬. 眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 400-404頁, 文光堂, 東京
  26. 高橋寛二 (2004) フルオレセイン蛍光眼底造影. 眼科検査ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 600-605頁, 文光堂, 東京
  27. 西村哲哉 (2004) III, 眼所見から見た疾患の鑑別と治療, 8白色瞳孔. 眼科当直医・救急ガイド 眼科診療プラクティス編集委員 (丸尾敏夫, 本田孔士, 臼井正彦, 田野保雄編) 166-168頁, 文光堂, 東京

## 耳鼻咽喉科学講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Keiji Takemura, Mototane Komeda, Masao Yagi, Chiemi Himeno, Masahiko Izumikawa, Tadashi Doi, Hiromichi Kuriyama, Josef M. Miller, Toshi Yamashita (2004) Direct inner ear infusion of dexamethasone attenuates noise-induced trauma in guinea pig. *Hear Res* 196: 58-68
2. Shu-Ping Cai, Tadashi Doi, Shen jing, Toshihiko Kaneko, Shi-Ming Yang, Mikiya Asako, Ayumi Matsumoto-Ono, Nobuhiko Waka, Toshio Yamashita (2004) Optical Mapping of Neural Responses and their gannma-Aminobutyric Acid-ergic Inhibitory Effects in the Auditory Brainstem of Early Postnatal Mice. *Acta Otolaryngol (Suppl)* 553: 43-49
3. T. Enomoto, S. Onishi, H. Sogo, Y. Dake, H. Ikeda, H. Funakoshi, A. Shibano, T. Sakoda (2004) Japanese cedar pollen in floating indoor house dust after a pollinating season. *Allergology International* 53: 279-285
4. Yuko Saitoh, Takema Sakoda, Akira Shibano, Hiroko Funakoshi, Hiroki Ikeda, Shinji Yajin, Shigetoshi Yoda, Yoshihiro Dake, Tadao Enomoto (2004) Granular Cell Tumor of the Head and Neck: Immunohistochemical Study. *和医医誌* 22: 49-54
5. Iwai H, Lee S, Baba S, Tomoda K, Inaba M, Ikehara T, Yamashita T (2004) Bone marrow cells as an origin of immune-mediated hearing loss. *Acta Otolaryngol* 124: 8-12
6. Nakaizumi, T., Kawamoto, K., Minoda, R., Raphael, Y (2004) Adenovirus-mediated expres-

- sion of brain-derived neurotrophic factor protects spiral ganglion neurons from ototoxic damage. *Audiol Neurootol* 9: 135–143
7. Minoda, R., Izumikawa, M., Kawamoto, K., Raphael, Y (2004) Strategies for replacing lost cochlear hair cells. *Neuroreport* 15: 1089–1092
  8. Le Prell, C.G., Yagi, M., Kawamoto, K., Beyer, L.A., Atkin, G., Raphael, Y., Dolan, D.F., Bledsoe, S.C., Jr., Moody, D.B (2004) Chronic excitotoxicity in the guinea pig cochlea induces temporary functional deficits without disrupting otoacoustic emissions. *J Acoust Soc Am* 116: 1044–1056
  9. Kawamoto, K., Sha, S.H., Minoda, R., Izumikawa, M., Kuriyama, H., Schacht, J., Raphael, Y (2004) Antioxidant gene therapy can protect hearing and hair cells from ototoxicity. *Mol Ther* 9: 173–181
  10. Izumikawa, M., Minoda, R., Kawamoto, K., Abrashkin, K.A., Swiderski, D.L., Dolan, D.F., Brough, D.E., Raphael, Y (2004) Auditory hair cell replacement and hearing improvement by Atoh1 gene therapy in deaf mammals. *Nat Med* 11: 271–276
  11. Munemoto Y, Houtani T, Kase M, Sakuma S, Baba K, Yamashita T, Sugimoto T (2004) Mouse homolog of KIAA0143 protein: hearing deficit induces specific changes of expression in auditory brainstem neurons. *Brain Res Mol Brain Res* 128: 131–140
  12. 南野雅之, 辻 裕之, 大岡久司, 湯川尚哉, 永田基樹, 矢野純也, 井上俊哉, 大西純夫, 山下敏夫 (2004) 当科における縦隔気管孔症例の検討. *頭頸部外科* 14: 151–153
  13. 和歌信彦, 土井 直, 岩井 大, 川崎英子, 馬場 奨, 中江 香, 山下敏夫 (2004) 上咽頭原発悪性黒色腫例. *耳鼻臨床* 97: 307–312
  14. 竹村景司, 土井 直, 米田元胤, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫, 恵田敏信 (2004) 中耳カルチノイドの1例. *耳鼻と臨床* 50: 285–290
  15. 土井 直, 白石修悟, 中澤浩子, 米田元胤, 池田浩己, 金子敏彦, 足立真理, 北尻雅則, 山下敏夫 (2004) 稀な単独アブミ骨奇形の一症例 アブミ骨筋腱が正常でアブミ骨と錐体隆起の骨性固着. *耳科学会会報* 14: 244–247
  16. 池田浩己, 中澤浩子, 河本光平, 山下敏夫, 圓藤陽子, 芝埜 彰, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) 光触媒装置により軽快を認めたシックハウス症候群の1例. *アレルギーの臨床* 24: 478–481
  17. 榎本雅夫, 程 雷, 池田浩己 (2004) 花粉症はどのように発症するか. *からだの科学* 235: 39–44
  18. 榎本雅夫, 池田浩己, 嶽 良博, 程 雷 (2004) アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎季節性アレルギー性鼻炎 (花粉症). *アレルギー・免疫* 11: 22–27
  19. 榎本雅夫, 池田浩己, 嶽 良博, 芝埜 彰, 船越宏子, 與田茂利, 夜陣真司, 山下哲次, 有岡広紀, 白柳 謙, 島津伸一郎 (2004) 全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的IgE抗体検査について. *医学と薬学* 51: 931–937
  20. 榎本雅夫, 奥野吉昭, 上田和義, 鈴木正伸, 坂口幸作, 加藤 寛, 垣内 弘, 藤木嘉明, 川堀真一, 井畑孝敏, 吉内光男, 雪谷茂子, 岩松裕子, 十河英世, 船越宏子, 池田浩己, 芝埜 彰, 畠田猛真, 嶽 良博 (2004) 和歌山県・大阪府何部における飛散スギ花粉及びヒノキ花粉の長期観測. *和歌山医学* 55: 78–84
  21. 角谷千恵子, 荻野 敏, 入船盛弘, 菊森 寛, 瀬尾 律, 竹田真理子, 玉城晶子, 馬場謙治, 嶽 良博, 池田浩己, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症におけるアウトカム研究 (第1報). *アレルギー* 53: 589–595
  22. 角谷千恵子, 荻野 敏, 嶽 良博, 池田浩己, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症におけるアウトカム研究 (第2報). *アレルギー* 53: 669–675
  23. 土井 直, 白石修悟, 中澤浩子, 米田元胤, 池田浩己, 金子敏彦, 足立真理, 北尻雅則, 山下敏夫 (2004) 稀な単独アブミ骨奇形の一症例. *Otol Jpn* 14: 244–247
  24. 榎本雅夫, 大西成雄, 嶽 良博, 池田浩己, 芝埜 彰, 夜陣真司, 與田茂利, 畠田猛真, 山名敏之 (2004) 飛散終了後の室内塵中のスギ花粉. *和医誌* 22: 11–17
  25. 牧 典彦, 能味堂郎, 嶋田貴志, 夜陣真司, 與田茂利, 池田浩己, 榎本雅夫 (2004) *Enterococcus faecalis* FK-23 株加熱殺菌粉末の摂取によるC型肝炎血清トランスアミナーゼ値の改善. 和

医医誌 22: 19-24

26. 榎本雅夫, 大西成雄, 嶽 良博, 池田浩己, 芝 埜 彰, 興田茂利, 夜陣真司, 畠田猛真, 山名敏之 (2004) 室内換気システムと室内チリダニ量について. 耳展 47: 417-423
27. 岩井 大 (2004) 下咽頭輪状後部癌. 口腔・咽頭・喉頭領域. 手術範囲と術式. JOHNS 20: 1378-1381
28. 岩井 大, 山下敏夫 (2004) 耳下腺良性腫瘍に対する手術法. 口咽科 16: 251-255
29. 岩井 大, 大前麻理子, 池田耕土, 馬場 奨, 和歌信彦, 清水 健, 山下敏夫 (2004) 耳下腺内神経鞘腫の検討. 口咽科 16: 1-7
30. 和歌信彦, 土井 直, 岩井 大, 川崎英子, 馬場 奨, 中江 香, 山下敏夫 (2004) 上咽頭原発悪性黒色腫例. 耳鼻臨床 97: 307-312
31. 島野卓史, 岩井 大, 南野雅之, 宮本 真, 馬場 奨, 和歌信彦, 辻 裕之, 山下敏夫 (2004) 甲状腺扁平上皮癌の検討. 頭頸部外科 14: 267-272
32. 蓑田涼生, 河本光平, 泉川雅彦, 湯本英二 (2004) Math1 と Skp2 over-expression による内耳有毛細胞の新生. Otology Japan 14: 292
33. 大隅泰則, 古川昌幸, 吉永和仁, 山下敏夫, 河本光平, 中村晶彦, 笠井治文, 山内康雄, 河本圭司 (2004) 内視鏡支援下垂体手術の経験. 日本耳鼻咽喉科学会会報 108: 101
34. 古川昌幸, 大隅泰則, 中村晶彦, 山下敏夫, 河本光平, 姫野千恵美, 栗山博道, 柿本晋吾 (2004) 当科におけるナビゲーションサージェリーの現状. 日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 603
35. 吉永和仁, 古川昌幸, 大隅泰則, 竹村博一, 栗山博道, 百溪明代, 河本光平, 久保伸夫, 山下敏夫 (2004) 前頭洞病変に対するナビゲーションサージェリー. 日本鼻科学会誌 43: 284
36. 柿本晋吾, 古川昌幸, 河本光平, 宮本 真, 吉永和仁, 山下敏夫 (2004) 鼓膜切開後に生じた外リンパ瘻例. 耳鼻咽喉科臨床 97: 957-961
37. 河本光平, 古川昌幸, 柿本晋吾, 姫野千恵美, 栗山博道, 吉永和仁, 大隅泰則, 山下敏夫 (2004) 当科におけるナビゲーションシステム
- の有用性についての検討. 耳鼻咽喉科展望 47: 380-382
38. 河本光平, 姫野千恵美, 栗山博道, 古川昌幸, 八木正夫, 大隅泰則, 山下敏夫, 柿本晋吾 (2004) 鼻副鼻腔ナビゲーションシステム Insta TrakTMの有用性についての検討. 日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 916
39. 河本光平, 姫野千恵美, 栗山博道, 古川昌幸, 大隅泰則, 山下敏夫, 柿本晋吾 (2004) 当科におけるナビゲーションシステムの有用性についての検討. 日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 824

#### 学会発表

1. Shimano T, Iwai H, Yagi M, Furukawa M, Yamashita T (2004) Surgical procedure for Warthin's tumor. In: 21th Congress of Pan-Pacific Surgical Association, Australia
2. Iwai H, Lee S, Yukawa H, Horiguchi A, Miyamoto S, Adachi M, Waka N, Shimano K, Tomoda K, Yamasita T (2004) Early acquisition of oesophageal phonation by shunt phonation. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
3. Lee S, Iwai H, Adachi M, Mioyamoto S, Yukawa H, Yamamoto K (2004) Front-loading technique and simple secondary shunt procedure of Groningen voice prosthesis for alarngneal patients. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
4. Horiguchi A, Oda M, Iwai H, Tomoda K (2004) Evidence of Provox 2 for TE and TJ shunt in Kanazawa Medical University. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
5. Kazuyasu Baba, Sebahattin Cureoglu, Patricia A. Schachern, Takeshi Kusunoki, Andre L.L. Sampaio, Michael M. Paparella, Toshio Yamashita (2004) Temporal Bone Anomalies Associated with Congenital Heart Disease. TWENTY-SEVENTH ANNUAL MIDWINTER RESEARCH MEETING OF THE Association for Research in Otolaryngology, Daytona Beach, Florida, USA
6. Mariko Omac, Masao Yagi, Hisaya Yukawa, Masayuki Furukawa, Hiroyuki Tuji, Tosio Yama-

- sita (2004) SCHWANNOMA OF THE MASTICATOR SPACE. PPSA, Australia
7. 大谷真喜子, 金 義慶, 山下敏夫 (2004) 特発性顔面神経麻痺における抗リン脂質抗体について. 第105回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 広島
  8. 宗本由美, 土井 直, 古川昌幸, 栗山博道, 金子明弘, 米田元胤, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2004) 軟骨付き軟骨膜を用いた接着法の聴力成績一皮下結合織と比較. 第14回日本耳科学会総会, 京都
  9. 古川昌幸, 栗山博道, 土井 直, 金子明弘, 米田元胤, 宗本由美, 金子敏彦, 北尻雅則, 山下敏夫, 細田泰男 (2004) 5年以上経過観察できた真珠腫性中耳炎手術症例についての検討. 第14回日本耳科学会総会, 京都
  10. 土井 直 (2004) パネルディスカッション—中耳換気能改善への手術アプローチ3, 鼓室の喚気. 第14回日本耳科学会総会, 京都
  11. 宗本由美, 土井 直, 古川昌幸, 北尻雅則, 山下敏夫 (2004) 鼓膜形成術(湯浅法)の術後聴力について. 第291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 大阪
  12. 姫野千恵美, 中澤浩子, 池田浩己, 北尻雅則, 山下敏夫 (2004) めまい外来患者における不安心理の検討—第2報—. 第63回めまい平衡医学会, 高崎
  13. 池田浩己, 榎本雅夫, 嶽 良博, 芝埜 彰, 船越宏子, 與田茂利, 山下哲次 (2004) 全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的 IgE 抗体検査. 289回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  14. 池田浩己, 中澤浩子, 圓藤陽子, 榎本雅夫, 山下敏夫 (2004) アレルギー外来からみたシックハウス症候群及び化学物質過敏症. 第13回日本臨床環境医学会総会, 旭川
  15. 池田浩己, 榎本雅夫, 嶽 良博, 芝埜 彰, 船越宏子, 與田茂利, 山下哲次, 有岡広紀, 白柳 譲, 島津伸一郎 (2004) 全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的 IgE 抗体検査について. 第54回日本アレルギー学会総会, 横浜
  16. 池田浩己, 中澤浩子, 圓藤陽子, 河本光平, 大谷智子, 榎本雅夫, 山下敏夫 (2004) アレルギー外来からみたシックハウス症候群及び化学物質過敏症. 第54回日本アレルギー学会総会, 横浜
  17. 池田浩己, 與田茂利, 夜陣真司, 芝埜 彰, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) 粘膜下鼻甲介骨切除術の治療法と経過. 第77回日耳鼻学会和歌山地方部会, 和歌山
  18. 嶽 良博, 十河英世, 芝埜 彰, 池田浩己, 船越宏子, 藤木嘉明, 加藤 寛, 榎本雅夫 (2004) 咽喉頭異常感症と胃酸逆流症 (第4報). 288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  19. 芝埜 彰, 十河英世, 船越宏子, 池田浩己, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) 睡眠時無呼吸症候群の診断についての考察 (第3報). 288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  20. 榎本雅夫, 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 十河英世, 船越宏子, 山下哲次, 嶋田貴史 (2004) 腸内細菌とアレルギー (第3報)—抗生剤内服による腸内細菌の変動—. 288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  21. 角谷千恵子, 荻野 敏, 池田浩己, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症初期療法効果への服薬状況の影響. 第53回臨床アレルギー研究会 (関西), 大阪
  22. 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 船越宏子, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉抗原による鼻誘発試験に対する塩酸レボカバステンの効果. 第53回臨床アレルギー研究会 (関西), 大阪
  23. 芝埜 彰, 嶽 良博, 榎本雅夫, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世 (2004) スギ花粉抗原による鼻誘発試験に対する塩酸レボカバステンの効果. 第16回日本アレルギー学会春期臨床大会, 前橋
  24. 榎本雅夫, 池田浩己, 嶽 良博, 芝埜 彰, 船越宏子, 十河英人, 大西成雄, 山名俊之 (2004) 室内換気システムと室内チリダニの量について. 第16回日本アレルギー学会春期臨床大会, 前橋
  25. 角谷千恵子, 荻野 敏, 池田浩己, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症における Outcome 研究 (第2報) 初期療法の実態と QOL の地域間比較. 第16回日本アレルギー学会春期臨床大会, 前橋
  26. 角谷千恵子, 荻野 敏, 池田浩己, 嶽 良博,

- 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症における Outcome 研究 (第3報) 初スギ花粉症症状の日常生活への影響. 第16回日本アレルギー学会春期臨床大会, 前橋
27. 嶽 良博, 榎本雅夫, 國本 優, 坂口幸作, 奥野吉昭, 垣内 弘, 中西 弘, 加藤 寛, 藤木嘉明, 芝埜 彰, 池田浩己, 船越宏子, 十河英世, 斎藤優子 (2004) 咽喉頭症状に対するプロトンポンプ阻害薬の効果. 第105回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 広島
  28. 新井昇治, 久保伸夫, 山下敏夫, 池田浩己, 原田成信, 中村晶彦 (2004) LPS, TNF- $\alpha$  により誘導された鼻粘膜微少血管内皮細胞のアポトーシス—誘導型 NOS の関与について—. 289 回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  29. 榎本雅夫, 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 船越宏子, 與田茂利, 横須賀通夫, 伴 武 (2004) 室内各所へのスギ花粉進入量について. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  30. 芝埜 彰, 夜陣真司, 與田茂利, 池田浩己, 嶽良博, 榎本雅夫 (2004) 室内換気システムとチリダニ量. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  31. 與田茂利, 榎本雅夫, 嶽 良博, 池田浩己, 芝埜 彰, 夜陣真司, 大西成雄, 山名俊之 (2004) 睡眠時無呼吸症候群のQOL. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  32. 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 夜陣真司, 與田茂利, 加藤 寛, 榎本雅夫 (2004) 胃食道逆流症と咳嗽. 49回日本聴覚医学会総会, 福岡
  33. 與田茂利, 間三千夫, 碓田猛真, 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 夜陣真司, 河野 淳, 榎本雅夫, 原田 保, 北野博也 (2004) 各機種ごとに推奨された Fitting 理論に基づいたデジタル補聴器による装用未経験者の聞き取り成績について. 49回日本聴覚医学会総会, 福岡
  34. 間三千夫, 碓田猛真, 與田茂利, 嶽 良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 夜陣真司, 河野 淳, 榎本雅夫, 原田 保, 北野博也 (2004) 高度難聴乳児の聴力検査法と補聴器の装用法とその言語発達について. 第54回日本アレルギー学会総会, 横浜
  35. 荻野 敏, 角谷千恵子, 池田浩己, 嶽 良博, 榎本雅夫 (2004) スギ花粉症初期療法としてのロラタジン+吸入ステロイド併用療法の有効性. 第54回日本アレルギー学会総会, 横浜
  36. 榎本雅夫, 池田浩己, 嶽 良博, 芝埜 彰, 船越宏子, 大西成雄, 山名俊之 (2004) 室内換気システムとチリダニの量について. 第63回日本めまい平衡神経学会総会, 群馬
  37. 嶽 良博, 榎本雅夫, 池田浩己, 芝埜 彰, 夜陣真司, 與田茂利, 奥野吉昭, 加藤 寛 (2004) 腸内細菌とアレルギー (第4報) —スギ花粉症とビフィズス菌. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  38. 芝埜 彰, 嶽 良博, 池田浩己, 夜陣真司, 與田茂利, 榎本雅夫 (2004) 睡眠時無呼吸症候群のQOL (第2報). 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  39. 夜陣真司, 嶽 良博, 與田茂利, 芝埜 彰, 池田浩己, 榎本雅夫, 能味堂郎, 嶋田貴志 (2004) Enterococcus faecalis FK-23 標品の経口投与による5-FUの副作用の防御効果. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  40. 嶽 良博, 池田浩己, 芝埜 彰, 榎本雅夫, 木村廣行, 松井和夫, 岩橋大介, 岸本和也, 與田順一, 垣内 弘, 藤木嘉明, 川堀真一, 池田昌生, 打越 進, 坂口幸作, 斎藤 啓, 中西 弘, 榎本多津子, 木村貴昭 (2004) 和歌山県におけるスギ花粉症に対するアンケート調査. 第77回日耳鼻学会和歌山地方部会, 和歌山
  41. 芝埜 彰, 夜陣真司, 與田茂利, 池田浩己, 嶽良博, 榎本雅夫 (2004) 睡眠時無呼吸症候群における肥満の関与—血液データに基づく解析—. 第77回日耳鼻学会和歌山地方部会, 和歌山
  42. 濱田聡子, 朝子幹也, 久保伸夫, 井上俊哉, 山下敏夫 (2004) 咽頭へ発育した巨大正中頸のう胞の1例. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  43. 宮本 真, 井上俊哉, 柿本晋吾, 堀口 誠, 山下敏夫 (2004) 扁桃摘術後, 反射性交感神経性ジストロフィー (RSD) をきたした1症例. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  44. 辻 裕之, 永田基樹, 南野雅之, 湯川尚哉, 山下敏夫, 小椋 学, 井上俊哉 (2004) Facial

- Degloving法による拡大上顎全摘. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
45. 永田基樹, 辻 裕之, 南野雅之, 湯川尚哉, 山下敏夫, 小椋 学, 井上俊哉 (2004) 上顎癌に対する皮切の工夫—眼窩内容を温存する上顎全摘術に対して—. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  46. 岩井 大, 川崎英子, 和歌信彦, 永田基樹, 湯川尚哉, 南野雅之, 大西純夫, 辻 裕之, 山下敏夫 (2004) 耳下腺ワルチン腫瘍の手術法の検討. 第14回日本頭頸部外科学会, 東京
  47. 島野卓史, 岩井 大, 南野雅之, 湯川尚哉, 李進隆, 矢野純也, 山下敏夫 (2004) 当科で経験した甲状腺扁平上皮癌の4例. 第14回日本頭頸部外科学会, 東京
  48. 馬場 奨, 岩井 大, 稲葉宗夫, 山下敏夫, 池原 進 (2004) SAMP1 マウス骨髄の同種移植による早期老人性難聴の発現. 老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会. 第19回研究発表会, 大阪
  49. 島野卓史, 岩井 大, 和歌信彦, 井上 功, 湯川尚哉, 堤 俊之, 足立真理, 辻 裕之, 山下敏夫 (2004) 気管食道シャント発声による食道発声早期獲得効果. 第66回耳鼻咽喉科臨床, 青森
  50. 八木正夫, 永田基樹, 湯川尚哉, 大岡久司, 島野卓史, 和歌信彦, 辻 裕之, 岩井 大, 山下敏夫 (2004) 当科における耳下腺腺房細胞癌症例の検討. 第105回日本耳鼻咽喉科学会, 広島
  51. 岩井 大, 大西純夫, 南野雅之, 湯川尚哉, 永田基樹, 吉永和仁, 宗本由美, 中江 香, 大隅泰則, 辻 裕之, 山下敏夫 (2004) 腺癌系悪性腫瘍に対する化学療法, 放射線療法の検討. 第17回日本口腔・咽頭科学会, 神戸
  52. 馬場 奨, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 平 充, 福井淳一, 郭 可泉, 岩井 大, 山下敏夫, 池原 進 (2004) 骨髄内骨髄移植後のマウス造血前駆細胞および樹状細胞サブセットの動態解析. 日本免疫学会, 札幌
  53. 馬場 奨, 岩井 大, 稲葉宗夫, 池原 進, 山下敏夫 (2004) 異常骨髄細胞に起因する早期老人性難聴の検討. 第14回日本耳科学会, 京都
  54. 河本光平, 古川昌幸, 吉永和仁, 大隅泰則, 近野哲史, 山下敏夫 (2004) 難治性アレルギー性鼻炎に対する当科の取り組み. 第43回日本鼻科学会, 東京
  55. 吉永和仁, 古川昌幸, 大隅泰則, 竹村博一, 栗山博道, 百溪明代, 河本光平, 久保伸夫, 山下敏夫 (2004) 前頭洞病変に対するナビゲーションサージェリー. 第43回日本鼻科学会, 東京
  56. 河本光平, ラファエル・ヨアッシュ, 泉川雅彦, 栗山博道, 山下敏夫 (2004) マウス前庭有毛細胞の自己再生能についての検討. 第105回日本耳鼻咽喉科学会, 広島
  57. 大前麻理子, 湯川尚哉, 八木正夫, 小椋 学, 中江 香, 玉岡久幸, 辻 裕之, 山下敏夫 (2004) 咀嚼筋間隙に発生した神経鞘腫の1例. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会, 大阪
  58. 大前麻理子, 岩井 大, 池野耕士, 八木正夫, 馬場 奨, 金子敏彦, 島野卓史, 山下敏夫 (2004) 耳下腺多形腺腫におけるMRI画像と病理所見. 口腔咽頭科学会, 神戸
- 著 書
1. Inaba M, Iwai H, Ikehara S (2004) Prevention and treatment of age-related disease in SAM by bone marrow transplantation with or without thymus grafts. The Senescence-Accelerated Mouse (SAM). An Animal Model of Science (Yasuyuki N, Takeda T, Okuma Y ed) pp 117-121, Elsevier, Amsterdam, The Netherland
  2. 土井 直 (2004) 特集 鼓膜—膨隆・陥凹・損傷・肉芽 中耳蜂巢からのガス交換. JOHNS (JOHNS 編集委員会編) 1631-1635頁, 東京医学社, 東京
  3. 土井 直, 丸笹直子 (2004) hyperacusis と phonophobia について. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド Part 4 (野村恭也, 本庄巖, 小松崎篤編) 105-107頁, 中山書店, 東京
  4. 土井 直, 細田泰男, 大隅泰則, 馬場 奨, 宗本由美, 金子明弘, 米田元胤, 古川昌幸, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2004) The hearing results of our operative method using a cartilage connecting hydroxyapatite prosthesis with a spear-head. Proceedings Of The 3rd Symposium on Middle Ear Mechanics In Research And Otology

- (Kiyofumi Gyo, Hiroshi Wada ed) pp 227-233, World Scientific Publishing Co. Ltd. Matsuyama, Ehime
5. 池田浩己 (2004) シックハウス特集 シックハウス/医師の立場から. hiroba (大阪府建築士会編) pp 40-41, 学芸出版社
  6. 池田浩己 (2004) 医学的見地からみるシックハウス症候群. シックハウスがわかる本 (第3章) (大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部編) 46-58頁, 学芸出版社
  7. 岩井 大 (2004) CT, MRIの有用性と限界. 耳下腺腫瘍臨床の最前線-Q&A (山下敏夫編) 44-48頁, 金原出版, 東京
  8. 岩井 大 (2004) CT, MRIの有用性と限界. 耳下腺腫瘍臨床の最前線-Q&A (山下敏夫編) 52-54頁, 金原出版, 東京
  9. 岩井 大 (2004) ワルチン腫瘍. 最良の手術法 (治療法). 耳下腺腫瘍臨床の最前線-Q&A (山下敏夫編) 97-99頁, 金原出版, 東京
  10. 岩井 大 (2004) 審美面を考慮した皮切. 耳下腺腫瘍臨床の最前線-Q&A (山下敏夫編) 142-144頁, 金原出版, 東京
  11. 岩井 大 (2004) 大耳介神経後枝温存とその意義. 耳下腺腫瘍臨床の最前線-Q&A (山下敏夫編) 145-147頁, 金原出版, 東京

## 放射線科学講座

### 〈研究概要〉

放射線科での主な研究は次の如くである.

### 基礎医学

- (A) 腫瘍の放射線・温熱感受性とアポトーシスの関連および関連遺伝子発現との相関
- (B) 実験腫瘍の抗 Fas 抗体とフローサイトメトリーを用いた照射後の細胞死動態の解析
- (C) 実験腫瘍における放射線増感剤, 防護剤のラジカル生成への影響と抗腫瘍効果との関連
- (D) 血管新生阻害剤による温熱効果増強
- (E) メタリックステントの物理特性と生体適合性
- (F) IVRにおける新しいデバイスの開発
- (G) 肝癌塞栓術の新しい展開
- (H) 高周波誘導加温による解離性動脈瘤の治療
- (I) 移植腫瘍における動注化学療法の効果
- (J) 膜電位指示蛍光試薬を用いた腫瘍細胞膜電位測定による温熱効果及び薬剤増感の機序究明

### 臨床放射線治療学

- (A) 進行癌の予後因子の分子生物学的アプローチ: 癌遺伝子 bax/bCl-2 比との関連
- (B) 温熱放射線療法患者における癌遺伝子産物の発現と抗腫瘍効果及び生存率についての検討
- (C) 高線量率小線源治療と局所腔内加熱同時併用による食道粘膜の障害と治療効果比の検討
- (D) 肺癌に対する高線量率と小線源治療の効果判定
- (E) X-ナイフによる治療成績の検討

### 血管造影・IVR

- (A) メタリックステントを用いた終末期医療の臨床成績
- (B) 各種薬剤による動注化学療法の効果
- (C) 肺癌治療における新しい展開

**核医学**

- (A) 肝細胞増殖因子の抗肝実質細胞障害作用発現とアジアロ糖蛋白受容活性との関連
- (B) RI標識アジアロ糖蛋白受容体を用いた肝障害の評価方法の確立
- (C) IVR, 放射線治療後の機能評価

**MR部門**

- (A) 新しい撮像法を用いた腫瘍検出法の確立
- (B) 疾患別MR診断理論の確立

**その他**

- (A) 3次元画像診断システムの作成
- (B) PACSの構築とその運用理論の確立

**〈研究業績〉**

## 原 著

1. Y. Harima, A. Togashi, K. Horikoshi, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada, T. Tsunoda, Y. Nakamura, T. Katagiri (2004) Prediction of outcome of advanced cervical cancers to thermoradiotherapy according to expression profiles of 35 genes selected by cDNA microarray analysis. *Int J Radiation Oncology Biol Phys* 60: 237–248
2. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) Hypoxia Inducible Factor 1A (HIF1A) Related to Thermoradioresistance of Advanced Cervical Cancers. *Jpn J Hyperthermia* 20: 69–77
3. N. Tanigawa, S. Sawada, S. Kariya, H. Kojima, A. Komemushi, M. Sougawa, S. Sato, Y. Takai, Y. Kamiyama (2004) Stenting of the superior mesenteric artery as a preoperative treatment for total pancreatectomy. *Cardiovasc Intervent Radiol* 27: 533–535
4. N. Tanigawa, S. Kariya, A. Komemushi, H. Kojima, S. Sawada (2004) Usefulness of CT during Renal Arteriography: A Case of Percutaneous Radiofrequency Ablation for Renal Cell Carcinoma. *Cardiovasc Intervent Radiol* 27: 669–670
5. N. Tanigawa, A. Komemushi, H. Kojima, S. Kariya, S. Sawada (2004) Three-dimensional Angiography Using Rotational Digital Subtraction Angiography: Usefulness in Transarterial Embolization of Hepatic Tumors. *Acta Radiologica* 45: 602–607
6. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, M. Sougawa, T. Shiraishi, S. Kimura, H. Miyao, T. Kawanaka, S. Sawada (2004) Percutaneous shunt creation for hemodialysis using uncovered metallic stents. *Cardiovasc Intervent Radiol* 27: 409–411
7. M. Kaibori, N. Tanigawa, Y. Matsui, AH Kwon, S. Sawada, Y. Kamiyama (2004) Preoperative chemolipiodolization of whole liver for hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res* 24: 1929–1933
8. K. Nakai, K. Tajima, N. Tanigawa, N. Matsumoto, K. Zen, S. Nomura, M. Fujimoto, Y. Kishimoto, R. Amakawa, S. Fukuhara (2004) Intra-arterial steroid-injection therapy for steroid-refractory acute graft-versus-host disease with the evaluation of angiography. *Bone marrow transplantation* 33: 1231–1233
9. S. Sawada, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura (2004) Percutaneous vertebroplasty. *Syllabus 6th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology (APCCVIR)* 160–163
10. T. Nagata, K. Ikeda, N. Ohmura, S. Sawada (2004) Peripheral vascular coil for peripheral MR angiography: Phantom-based comparison with body coil by SNR, CNR, and visual evaluation. *Radiation Medicine* 22: 310–315
11. K. Nobuhara, G. Okugawa, T. Minami, K. Takase, T. Yoshida, T. Yagyū, A. Tajika, T. Sugimoto, C. Tamagaki, K. Ikeda, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Effects of electroconvulsive therapy on

- frontal white matter in late-life depression: a diffusion tensor imaging study. *Neuropsychobiology* 50: 48–53
12. G. Okugawa, K. Nobuhara, T. Minami, C. Tamagaki, K. Takase, T. Sugimoto, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Subtle disruption of the middle cerebellar peduncles in patients with schizophrenia. *Neuropsychobiology* 50: 119–123
  13. K. Takase, C. Tamagaki, G. Okugawa, K. Nobuhara, T. Minami, T. Sugimoto, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Reduced white matter volume of the caudate nucleus in patients with schizophrenia. *Neuropsychobiology* 50: 296–300
  14. K. Kouda, H. Nakamura, H. Kohno, SK. Ha-Kawa, R. Tokunaga, S. Sawada (2004) Dietary restriction: effects of short-term fasting on protein uptake and cell death/proliferation in the rat liver. *Mech Ageing Dev* 125: 375–380
  15. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, Y. Shomura, Y. Ueno, T. Shiraishi, S. Sawada (2005) Radiofrequency ablation combined with CO<sub>2</sub> injection for treatment of retroperitoneal tumor: Protecting surrounding organs against thermal injury. *AJR* 185: 890–893
  16. H. Kojima, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, S. Sawada (2004) CT perfusion of the liver: Assessment of pure portal blood flow studied with CT perfusion during superior mesenteric arterial portography. *Acta Radiologica* 45: 709–715
  17. A. Komemushi, N. Tanigawa, H. Kojima, S. Kariya, Y. Shomura, S. Sawada (2005) Percutaneous Vertebroplasty for Compression Fracture: Analysis of Vertebral Body Volume by CT Volumetry. *Acta Radiologica* 46: 276–279
  18. K. Shimizu, H. Iwai, K. Ikeda, N. Sakaida, S. Sawada (2005) Intraparotid facial nerve schwannoma: A report of five cases and an analysis of magnetic resonance imaging results. *American Journal of Neuroradiology* 26: 1328–1330
  19. K. Ikeda, M. Kuroda, N. Sakaida, M. Maehara, N. Ohmura, S. Sawada (2005) Cellular leiomyoma of the nasal cavity: Findings of CT and MRI. *American Journal of Neuroradiology* 26: 1336–1338
  20. N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, S. Sawada (2005) Intraosseous venography with carbon dioxide contrast agent in percutaneous vertebroplasty. *AJR* 184: 567–570
  21. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, T. Shiraishi, S. Sawada (2005) Residual stenoses after conventional balloon angioplasty for hemodialysis shunt failure: treatment with metallic stent placement and post-dilation. *Radiation Medicine* 23: 51–55
  22. M. Maehara, K. Ikeda, N. Ohmura, T. Sugimoto, K. Harima, C. Ino, S. Sawada (2005) Multislice computed tomography of pneumoparotid: A case report. *Radiation Medicine* 23: 147–150
  23. 今村正浩, 澤田 敏, 寒川光治, 播磨洋子, 狩谷秀治, 山口和之 (2004) 乳癌術後照射後に発症し自然寛解したBOOP様肺炎の1例. *呼吸* 23: 659–663
  24. 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 狩谷秀治, 庄村裕三, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 椎体腫瘍に対するIVR. *IVR会誌* 19: 371–376
  25. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 炭酸ガスを用いたシャントPTAの成績. *腎と透析* 57: 79–84
  26. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 透析シャントPTAの残存狭窄への対策. *カッティングバルーンPTA及びステント併用バルーンPTA. 臨床放射線* 49: 527–534
  27. 狩谷秀治, 谷川 昇, 白石友邦, 木村伸悟, 宮尾洋志, 江崎和芳, 川中俊明, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 透析シャント非血栓性閉塞に対するPTAの術前MRI画像診断の有用性. *ブラッドアクセスインターベンション治療研究会誌* 5: 1–5
  28. 狩谷秀治, 谷川 昇, 白石友邦, 木村伸悟, 宮尾洋志, 江崎和芳, 川中俊明, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) Peripheral Cutting Balloon PTAの初期使用経験: Conventional Balloon PTAでくびれが残存した症例に対する. *ブラッドアクセスインターベンション治療研究会誌* 5: 27–32

29. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 江崎和芳, 渡邊美博, 川中俊明, 澤田 敏 (2004) 透析内シャント狭窄に対するメタリックステント留置: バルーンPTA 単独症例との開存率の比較. IVR 会誌 (Jpn Intervent Radiol Supple.) 19: 36-37
30. 岩井 大, 大前麻理子, 池田耕士, 馬場 奨, 和歌信彦, 清水 健, 山下敏夫 (2004) 耳下腺内顔面神経鞘腫の検討. 日本口腔・咽頭科学会誌 16: 337-343
31. 清水 洋, 宇田光伸, 吉本佳子, 上西幹夫, 尾野光市, 岡澤 崇, 澤田 敏 (2004) 上腸間膜動脈瘤の一例—MDCTによる三次元画像での描出—. 臨床放射線 49: 430-433
32. 藤田 剛, 藤原仁史, 竹中 完, 松井佐織, 叶多篤史, 嵯峨一行, 芝垣広太郎, 尾阪将人, 北村静信, 高木浩一, 吉村 寛, 益澤 明, 渡辺明彦, 板垣 康, 渡辺直也, 向井秀一 (2004) 腹部超音波検診における脂肪肝と生活習慣病. 消化器科 38: 385-390
33. 播磨敬三, 志賀淑子, 権 昭則, 久保田祐一, 平田靖裕, 山本寛之, 水野正善, 前原 稔, 澤田 敏 (2004) 悪性腫瘍 Follow Up CT における高コード容量造影剤投与法の検討. 映像情報 36: 802-806
34. 新貝欣久, 夏住茂夫, 松本掲典, 金塚安弘, 播磨敬三 (2004) RIS 照射録データベースにおける JJ1017 コード採用に関する考察. 日本放射線技術学会誌 60: 842-851
35. 宮内元史, 狩谷秀治, 大原晋吾, 川口康夫, 財前裕子, 石井秀一, 川中俊明, 唐内員正, 白石友邦 (2004) 炭酸ガス造影による透析内シャントの診断. 腎と透析 別冊「アクセス2004」57: 63-66
36. 河 相吉, 吉田常孝, 柳生隆視, 谷万喜子, 鈴木俊明, 澤田 敏 (2004) ジストニアの鍼治療と局所脳血流—eZIS・3DSRT を用いた評価—. 映像情報 Medical 36: 1380-1384
37. 河 相吉 (2004) 心房内腫瘍塞栓の診断 67Ga SPECT が有用であった肝細胞癌の一例. 腫瘍核医学フォーラム症例File 22
38. 河 相吉 (2004) 骨シンチグラフィのプラナー像では指摘しえず SPECT が有用であった腰椎骨転移の一例. 腫瘍核医学フォーラム症例File 36
39. 池本裕実子, 河 相吉, 寺口正之, 萩野廣太郎, 小林陽之助 (2004) 先天性心疾患を伴う Down 症候群の肺病変—肺CT所見を検討した5症例の報告—. 心臓 36: 285-289
40. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) [ブラッドアクセストラブルの対応] (2) PTA の適応と限界. 大阪透析研究会会誌 22: 15-21
41. 播磨洋子 (2004) 「温熱ストレスの健康への応用—共通認識を踏まえた提言—」印象記. Jpn J Hyperthermia 20: 189-190
42. 谷川 昇, 澤田 敏 (2004) 気道ステント. CLINICIAN 51: 1039-1044
43. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 澤田 敏 (2004) [3D画像医学の進歩 画像診断に基づく治療戦略] 3D画像医学の現状と課題. 日本臨床 62: 627-638

#### 総 説

1. 池田耕士, 前原 稔, 澤田 敏 (2004) 頭頸部画像診断に不可欠な臨床・画像解剖 (2) 「耳下腺」. 画像診断 24: 1428-1435

#### 学会発表

1. S. Sawada, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura (2004) Percutaneous Vertebroplasty. 6th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology, India
2. 播磨洋子 (2004) 遺伝子情報と放射線治療効果. 大分最小侵襲治療法研究会, 別府
3. Y. Harima, S. Sawada, M. Imamura, M. Sougawa (2004) Overview of Clinical Thermal radiotherapy—Prediction of sensitivity or resistance of Advanced Cervical Cancers to Thermoradiotherapy using cDNA Microarray Analysis—. 9th International Congress of Hyperthermic Oncology, St. Louis, Missouri
4. 谷川 昇 (2004) 骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的形成術. 第5回関西Radiology Update 講演会, 大阪
5. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) A randomized clinical trial of radiotherapy

- and hyperthermia, radiotherapy and chemotherapy, and radiotherapy combined with hyperthermia and chemotherapy for locally advanced cervical carcinomas. The Kadota Fund International Forum 2004 —Application of thermal stress for the improvement of health: consensus and proposals—, Awajishima
6. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) Prediction of Outcome of advanced cervical cancers to thermoradiotherapy according to expression profiles of 35 genes selected by cDNA microarray analysis. 23th European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO), Amsterdam
  7. N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, S. Sawada (2004) Mid-term results of percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fractures. Cardiovascular and interventional radiological society of Europe (CIRSE), Spain
  8. N. Tanigawa, S. Kariya, A. Komemushi, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Cerebral microembolization during radiofrequency ablation of lung tumors: Detection by carotid duplex ultrasound and brain diffusion-weighted MR imaging. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  9. N. Tanigawa, A. Komemushi, H. Kojima, S. Kariya, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous Vertebroplasty: Relationship between Bone Marrow Edema of Vertebral Body on MRI and the clinical Response. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  10. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, T. Shiraiishi, S. Sawada (2004) Selection of a cutting balloon PTA or high pressure balloon PTA based on the primary patency rates with respect to the stenotic site for hemodialysis fistula. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  11. A. Komemushi, N. Tanigawa, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous vertebroplasty for compression fracture under IVR-CT system guidance: Indications, Technique, Results, and Complications presenting an interactive CD-ROM in HTML format. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  12. A. Komemushi, N. Tanigawa, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture: multivariate study of predictors of new vertebral fracture. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  13. K. Ikeda, N. Ohmura, M. Maehara, T. Sugimoto, A. Komemushi, S. Sawada (2004) Contrast of signal intensity on T2-weighted images and pathological findings in parotid pleomorphic adenoma. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  14. N. Ohmura, N. Tanigawa, K. Ikeda, T. Sugimoto, M. Maehara, S. Sawada, S. Kariya, H. Kojima, A. Komemushi (2004) Changes of signal intensity of vertebral bone marrow on MRI before and after percutaneous vertebroplasty. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  15. M. Maehara, N. Inami, K. Ikeda, K. Harima, S. Nomura, S. Sawada (2004) Relation between contrast media and expression of the selectin family (P-selectin & E-selectin). RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
  16. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 温熱放射線治療を施行した進行期子宮頸癌の予後予測因子として cDNA マイクロアレイ解析により抽出された35遺伝子. 第47回日本放射線影響学会, 長崎
  17. 播磨洋子, 今田 肇, 桜井英幸, 平木嘉幸, 辻孝, 田中正博, 寺嶋廣美 (2004) 子宮頸癌に対する抗がん剤併用放射線治療, 温熱放射線治療, 抗がん剤併用温熱放射線治療の無作為比較試験. 第21回日本ハイパーサーミア学会, 京都
  18. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性における遺伝子発現プロファイル. 第6回癌治療増感研究シンポジウム, 奈良
  19. 今村正浩, 澤田 敏, 寒川光治, 播磨洋子, 谷口正美 (2004) 乳癌術後照射後に発症した自然寛解を呈した BOOP 様肺炎. 第23回日本画像医学会, 東京

20. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性における遺伝子発現プロファイル. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
21. 播磨洋子, 澤田 敏 (2004) 進行期子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性に関する遺伝子発現. 第8回がん分子標的治療研究会, 鹿児島
22. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) 温熱放射線抵抗性子宮頸癌のゲノム解析. 第43回医学放射線学会生物部会, 京都
23. 播磨洋子, 澤田 敏, 片桐豊雅, 中村祐輔 (2004) 放射線治療後進行期子宮頸癌の遠隔転移に関するマイクロアレイ解析. 第63回日本癌学会, 福岡
24. 播磨洋子, 今村正浩, 寒川光治, 澤田 敏 (2004) ゲノム解析で放射線抵抗性子宮頸癌に高発現した遺伝子についての考察. 第17回日本放射線腫瘍学会, 千葉
25. 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術の臨床成績. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
26. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 澤田 敏 (2004) 透析シャント狭窄に対する通常バルーンPTAとカッピングバルーンPTAの初期成功率及び開存率. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
27. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術:CT Volumetryによる椎体体積の評価. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
28. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術の初期成績. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
29. 大村直人, 谷川 昇, 池田耕士, 赤井幹夫, 小島博之, 米虫 敦, 杉本達哉, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術に伴う椎体のMR信号変化. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
30. 谷川 昇, 米虫 敦, 狩谷秀治, 小島博之, 澤田 敏 (2004) 骨粗鬆症に対する経皮的椎体形成術の臨床成績. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
31. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 狭窄部位別一次開存率に基づいた透析シャントPTAのカッピングバルーンと通常バルーンを選択法. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
32. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術:CT Volumetryによる椎体体積の評価. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
33. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) シャントPTAにおけるカッピングバルーンと通常バルーンの狭窄部位別一次開存率に基づいた選択方法. 第49回日本透析医学会学術集会・総会, 東京
34. 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術における炭酸ガスによる椎体静脈造影. 第23回日本画像医学会, 東京
35. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 有痛性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術(RFA)の初期成績. 第23回日本画像医学会, 東京
36. 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 庄村裕三, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術における治療椎体内Bone Marrow Edema(BME)と治療効果との関係. 日本血管造影・Interventional Radiology学会 第16回関西地方会, 奈良
37. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏 (2004) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術. 日本血管造影・Interventional Radiology学会 第16回関西地方会, 奈良
38. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 上埜泰寛, 白石友邦, 澤田 敏 (2004) 炭酸ガス注入併用ラジオ波凝固療法. 日本血管造影・Interventional Radiology学会 第16回関西地方会, 奈良
39. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術における術者被爆. 日本血管造影・Interventional Radiology学会 第16回関西地方会, 奈良
40. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄

- 村裕三, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術後の再骨折発生の危険因子. 日本血管造影・Interventional Radiology学会 第16回関西地方会, 奈良
41. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 澤田 敏, 新井永達, 横田芳郎 (2004) 多発性肺転移を伴ったHCCの自然退縮をみた一例. 第276回日本医学放射線学会関西地方会
  42. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 寒川光治, 今村正浩, 澤田 敏 (2004) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術. 第5回肺RFA談話会, 大阪
  43. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2004) 腎・副腎腫瘍に対する炭酸ガス注入併用RFA. 第5回肺RFA談話会, 大阪
  44. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 炭酸ガスを使用した血管造影法によるシャントPTA. 第63回大阪透析研究会, 大阪
  45. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 炭酸ガス造影によるシャントPTAの成績. 第2回大阪アクセスケア研究会, 大阪
  46. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) グラフトシャントの血栓性閉塞に対する術前ウロキナーゼ併用バルーンPTA. 第3回大阪アクセス研究会, 大阪
  47. 池田耕士, 谷川 昇, 杉本達哉, 大村直人, 前原 稔, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 澤田 敏 (2004) Line scan DWIを用いた経皮的椎体形成術前後における脊椎圧迫骨折の検討. 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 滋賀
  48. 前原 稔, 谷川 昇, 池田耕士, 大村直人, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 杉本達哉, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術後の造影MRIの有用性—隣接椎体圧迫骨折の早期診断—. 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 滋賀
  49. 大村直人, 谷川 昇, 池田耕士, 前原 稔, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 杉本達哉, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術に伴う椎体のMR信号変化. 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 滋賀
  50. 谷川 昇 (2004) ワークショップIII:「非血管系のIVR:骨粗鬆症」骨粗鬆症に対する経皮的椎体形成術の成績. 第23回日本画像医学会, 東京
  51. 谷川 昇 (2004) モーニングレクチャー:「骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術」. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
  52. 谷川 昇 (2004) シンポジウム:ステント治療のエビデンス「気道ステント」. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
  53. 小島博之 (2004) シンポジウム:RFAの適応拡大(骨)有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術の初期成績. 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
  54. 狩谷秀治 (2004) カットングバルーンと通常バルーンによる透析シャントPTAの狭窄部位別一次開存率の比較. 第9回ブラッドアクセスインターベンション治療(BAIVT)研究会, 東京
  55. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 白石友邦, 成田敬介, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子, 澤田 敏 (2004) 透析シャント狭窄に対するステント留置とバルーンPTA単独症例との開存率の比較. 第9回ブラッドアクセスインターベンション治療(BAIVT)研究会, 東京
  56. 前原 稔, 播磨敬三, 志賀淑子, 池田耕士, 大村直人, 杉本達哉, 澤田 敏, 稲見則仁, 野村昌作 (2004) 造影剤(イオメプロール)による凝固系, 内皮障害についての検討. 第276回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
  57. 池田耕士, 大村直人, 河相吉, 澤田 敏 (2004) 耳下腺多形腺腫におけるT2強調像の信号強度と病理像の対比. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
  58. 前原 稔, 稲見則仁, 播磨敬三, 志賀淑子, 高橋延行, 津田信幸, 野村昌作, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2004) 造影剤(イオメプロール)による凝固系, 内皮障害についての検討. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜

59. 前原 稔, 池田耕士, 大村直人, 杉本達哉, 澤田 敏, 播磨敬三, 志賀淑子, 井野千代徳 (2004) 耳下腺気腫症の一例. 第277回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
60. 前原 稔, 谷川 昇, 池田耕士, 大村直人, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 杉本達哉, 澤田 敏 (2004) 経皮的椎体形成術後の造影MRIの有用性. 第278回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
61. 河 相吉, 青木良純, 澤田 敏 (2004) 99mTc-MAA下肢ペングラフィが有用であった腸骨静脈閉塞の一例. 第101回核医学症例検討会
62. 河 相吉, 吉田常孝, 澤田 敏 (2004) ジストニアへの鍼治療が局所脳血流に及ぼす影響. 第23回日本画像医学会, 東京
63. 河 相吉, 吉田常孝, 柳生隆視, 谷万喜子, 鈴木俊明, 澤田 敏 (2004) ジストニアの鍼治療と局所脳血流—eZIS・3DSRTを用いた評価—. 第42回核医学定量診断研究会
64. 河 相吉 (2004) 画像診断の最先端: FDG-PETによるがん診断. 寝屋川市医師会と関西医科大学付属病院・医師会との懇談会
65. 河 相吉, 谷川 昇, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 澤田 敏 (2004) 脊椎圧迫骨折の骨SPECTによる検討. 第33回断層映像研究会
66. 河 相吉, 小島博之, 米虫 敦, 狩谷秀治, 谷川 昇, 澤田 敏 (2004) 椎体形成術施行前の脊椎骨SPECT所見. 第37回日本核医学会近畿地方会
67. 杉本達哉, 池田耕士, 谷川 昇, 大村直人, 赤井幹夫, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏, 木下利彦 (2004) 拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の検討. 第63回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
68. 杉本達哉, 谷川 昇, 池田耕士, 大村直人, 前原 稔, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 澤田 敏 (2004) 拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の再発骨折についての検討. 第32回日本磁気共鳴医学会大会, 滋賀
69. 荒井保明, 松井 修, 中島康雄, 吉岡哲也, 齋藤博哉, 佐竹光夫, 小林 健, 松岡利幸, 谷川 昇, 曾根美雪, 稲葉吉隆, 穴井 洋, 新槇 剛 (2004) クロージングセッション がん治療における IVR の多施設共同研究: JIVROSG (Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group). 第33回日本血管造影・IVR学会総会, 東京
70. 金 乾熙, 黒川弘晶, 宮代美樹, 池田耕士, 澤田 敏, 今泉正仁, 緒方奈保子, 松村美代 (2004) MRIを用いた多視神経圧迫の評価: 正常眼圧緑内障における血管による視神経圧迫の可能性. 第277回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
71. 宮崎由貴, 白石友邦, 前原 稔, 杉本達哉, 大村直人, 池田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子, 植村芳子 (2004) 癌化を伴った鼻腔内反性乳頭腫の一例. 第277回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
72. 藤田 剛, 藤原仁史, 板垣 康, 清水みどり, 藤木由美子, 茶村陽子, 杉原麻子, 向井秀一, 渡辺直也 (2004) 腹部超音波検診における脂肪肝と生活習慣病. 第32回日本総合健診医学会, 東京
73. 板垣 康, 渡辺直也, 大園達郎, 茶村陽子, 中西美知江, 関口福生, 椋棒正昌 (2004) 「生活習慣病教室」による運動能力の改善. 第32回日本総合健診医学会, 東京
74. 黒川弘晶, 金 乾熙, 今泉正仁, 宮代美樹 (2004) 視神経圧迫のMRI: 正常眼圧緑内障との関わりについて. 第23回日本画像医学会, 東京
75. 夏住茂夫, 松本掲典, 新貝久久, 久保田祐一, 水野正善, 播磨敬三, 金塚安弘, 仲野俊成, 渡辺 淳, 木原 裕 (2004) オープンソースを目指した PACS / 医療情報統合システム “KPECK” の開発. 日本医療情報学会第8回春季学術大会
76. 宮内元史, 大原晋吾, 川口康夫, 唐内員正, 川中俊明, 白石友邦, 狩谷秀治 (2004) 透析シャントにおける炭酸ガス造影とヨード造影の狭窄率の比較. 日本放射線技術学会第60回総会学術大会
77. 石井秀一, 宮内元史, 川中俊明, 狩谷秀治, 白石友邦, 唐内員正 (2004) ステッピング・デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィによるシャント造影の有用性. 第63回大阪透視研究会
78. 宮内元史, 狩谷秀治, 石井秀一, 財前裕子, 大

- 原晋吾, 川口康夫, 唐内員正, 川中俊明, 白石友邦 (2004) シャント造影におけるステッピング・デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィと通常デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィの比較. 第8回アクセス研究会
79. 金 乾熙, 黒川弘晶, 尾辻 剛, 畑埜浩子, 宮代美樹, 池田耕士, 大村直人, 澤田 敏, 緒

方奈保子 (2004) 視神経のMRI: 視神経陥凹の程度と信号強度の比較検討. 第278回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪

#### 著 書

1. 池田耕士 (2004) 唾液腺. 画像診断リファレンス 眼窩・耳鼻咽喉・口腔領域のMRI (小玉隆男編) 184-203頁, メジカルビュー社, 東京

## 産科学・婦人科学講座

### 〈研究業績〉

#### 原 著

- Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) Interleukin-1 inhibits interleukin-15 production by progesterone during in vitro decidualization in human. *Journal of Reproductive Immunology*. *J Reprod Immunol* 61: 3-12
- 石野陽代, 山口昌美, 生田明子, 江川真人, 依岡寛和, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 産褥期に急激な腹水貯留と血清 CA125 の上昇を認め悪性腫瘍と偽診された結核性腹膜炎の1症例. *産婦の進歩* 56: 5-9
- 松山幸子, 山崎由紀子, 松尾 泉, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 当科における更年期障害患者の診断と治療. *産婦の進歩* 56: 12-14
- 溝上友美, 斉藤淳子, 石野陽代, 永田文江, 生田明子, 松尾 泉, 堀越順彦, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 子宮頸部悪性腺腫4症例におけるHIK1083抗体についての検討. *産婦の進歩* 56: 155-157
- 神崎秀陽, 安田勝彦, 安原正浩 (2004) 子宮筋収縮に対する喫煙の影響. *喫煙科学研究財団研究年報* 627-631
- 北田光美 (2004) 子宮頸癌に対するchemoradiation療法. *産婦の進歩* 56: 194-200
- 原田 省, 神崎秀陽 (2004) 子宮内膜症合併不妊の取り扱い. *日産婦誌* 56: N624-N628
- 神崎秀陽 (2004) ホルモンQ&A 子宮内膜症に対して広く行われているエストロゲンを抑制する長期薬物療法には発癌のリスクはないのか? *HORMONE FRONTIER IN GYNE-*

COLOGY 11: 188-189

- 神崎秀陽 (2004) ホルモンQ&A GnRHa投与中の更年期様症状が重い場合の対処法は? *HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY* 11: 187-188
- 福田博恵, 福田愛作, 金谷裕之, 樽井幸与, 富仲正丈, 永田文江, 奥 裕嗣, 中岡義晴, 森本義晴, 神崎秀陽 (2004) 塩酸メトホルミン製剤 (グリコラン) を使用した未熟卵体受精胚移植法 (IVM-IVF). *日本受精着床学会誌* 21: 108-111
- 西原卓志, 中岡義晴, 下井貴司, 村田泰隆, 永田文江, 奥 裕嗣, 福田愛作, 森本義晴, 神崎秀陽 (2004) 同一症例で比較した3種類のSequential Mediumの有効性に関する検討. *日本受精着床学会誌* 21: 95-100
- 大垣 彩, 奥 裕嗣, 原納究, 赤松芳恵, 小野浩子, 朴木和美, 富仲正丈, 永田文江, 中岡義晴, 福田愛作, 森本義晴, 神崎秀陽 (2004) 凍結融解胚移植周期における前核期胚形態評価法の有用性の検討. *日本受精着床学会誌* 21: 91-94

#### 学会発表

- 安田勝彦 (2004) 子宮内膜症の病態と治療. 持田製薬 社員教育講演, 大阪
- 安田勝彦 (2004) 子宮内膜症 薬物療法と手術療法どちらが患者にとってメリットがあるか? 京阪産婦人科勉強会, 守口市
- 神崎秀陽 (2004) 生殖医療と倫理. 関西医大・門真市医師会学術講演会, 守口市
- 神崎秀陽 (2004) 生殖補助医療と倫理—最近

- の問題点一. 平成16年度日本産科婦人科学会  
富山地方部会, 富山市
5. Nakamoto T, Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) The Expression and Effect of Fibulin-1 during Decidualization in Human Endometrial Stromal Cell Induced by Progesterone. 第9回国際生殖免疫学会京都シンポジウム, 京都
  6. Nakamoto T, Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) The expression and effect of fibulin-1 during decidualization in human endometrial stromal cell induced by progesterone. 第19回日本生殖免疫学会学術集会(第9回国際生殖免疫学会(2004年10月12-15日, 神奈川県, 箱根)と併会), 箱根
  7. 奥野茜子, 吉田桃子, 堤 明裕, 依岡寛和, 安田勝彦, 神崎秀陽, 山原崇弘, 稲垣隆介(2004) 妊娠33週で診断された胎児脳室内出血の1症例. 第110回近畿産科婦人科学会, 京都市
  8. 浅野雅美, 吉田桃子, 堤 明裕, 依岡寛和, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 子宮頸管縫縮術術後に前期破水となり妊娠24週にて帝王切開術施行し生児を得た1症例. 第110回近畿産科婦人科学会, 京都市
  9. 吉田桃子, 奥野茜子, 山崎由紀子, 堤 明裕, 中嶋達也, 齊藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 卵巣癌初回手術後2年を経て転移性直腸腫瘍として再発した1症例. 第111回近畿産科婦人科学会, 京都市
  10. 小野淑子, 中元章恵, 浅野雅美, 中嶋達也, 齊藤淳子, 北田光美, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 子宮頸部adenosarcomaの一例. 第111回近畿産科婦人科学会, 京都市
  11. 金谷裕之, 福田博恵, 岡崎光男, 村田泰隆, 奥裕嗣, 森本義晴, 福田愛作, 樽井幸与, 永田文江, 中岡義晴, 神崎秀陽(2004) PCOS患者に対し塩酸メトフォルミン製剤(グリコラン)を使用した未熟卵体外受精胚移植法(IVM-IVF). 第49回日本不妊学会
  12. 浅野雅美, 松山幸子, 依岡寛和, 大崎 尚, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) Romano-Ward症候群合併妊娠の1例. 第110回近畿産科婦人科学会, 京都市
  13. 山崎由紀子, 吉田桃子, 山口昌美, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽, 谷口久哲, 佐藤仁彦(2004) 卵巣癌初回治療後10年を経て膀胱粘膜への再発を認めた1例. 第110回近畿産科婦人科学会
  14. 角玄一郎, 山崎由紀子, 内田陽子, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 術後病理組織診にて明細胞腺癌を認めた子宮内膜症の一例. 第110回近畿産科婦人科学会, 京都市
  15. 浅野雅美, 中嶋達也, 齊藤淳子, 堤 明裕, 北田光美, 松尾 泉, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 子宮及び付属器に浸潤を認めた急性リンパ性白血病の1例. 第56回日本産科婦人科学会, 東京都
  16. 安田勝彦, 安原正浩, 中元 剛, 吉村智雄, 生田明子, 谷奥範江, 松山幸子, 浅野雅美, 山崎由紀子, 塚 貴司, 依岡寛和, 神崎秀陽(2004) 子宮筋収縮に対する喫煙の影響. 第56回日本産科婦人科学会, 東京都
  17. 中嶋達也, 吉村智雄, 塚 貴司, 安原正浩, 中元 剛, 岡田英孝, 中嶋真由美, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 子宮内膜における20 $\alpha$ -ヒドロキシステロイド脱水素酵素(HSD)の発現. 第56回日本産科婦人科学会, 東京都
  18. 吉村智雄, 安田勝彦, 安原正浩, 中元 剛, 中嶋達也, 松岡 進, 松尾 泉, 生田明子, 依岡寛和, 松山幸子, 谷奥範江, 神崎秀陽(2004) 卵巣癌におけるリゾホスホリパーゼA1 $\alpha$ の発現について. 第56回日本産科婦人科学会, 東京都
  19. 生田明子, 齊藤淳子, 中嶋真由美, 辻 哲朗, 松尾 泉, 梅峯圭吾, 杉本久秀, 榎木 晋, 堀越順彦, 安田勝彦, 神崎秀陽(2004) 婦人科癌におけるTAEによる血管新生因子の影響について. 第56回日本産科婦人科学会, 東京都
  20. 植田政嗣, 寺井義人, 安田勝彦, 齊藤淳子, 布引 治, 野田 定, 植木 實(2004) 子宮頸癌発生とglutathione-S-transferase及びp53遺伝子多型. 第36回日本婦人科腫瘍学会
  21. 植田政嗣, 寺井義人, 齊藤淳子, 布引 治, 野田 定, 植木 實(2004) 子宮頸部擦過細胞診検体におけるglutathione-S-transferase及びp53遺伝子多型の解析. 第45回日本臨床細胞学会
  22. 中元章恵, 小野淑子, 奥野茜子, 吉田桃子, 中

- 元 剛, 山崎由紀子, 浅野雅美, 堤 明裕, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) GnRHアナログが子宮筋腫核出術に与える効果の検討. 第15回近畿エンドメトリオーシス・GnRH研究会, 大阪市
23. 奥野茜子, 浅野雅美, 松山幸子, 依岡寛和, 安田勝彦 (2004) ロマノ・ワード症候群合併妊娠の1例. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪市
24. 吉田桃子, 山崎由紀子, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 卵巣癌初回治療後12年を経て膀胱粘膜への再発を認めた一例. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪市
25. 垓 貴司, 生田明子, 中元 剛, 安原正浩, 吉村智雄, 清塚康彦, 螺良愛郎, 神崎秀陽 (2004) 思春期前雌 Sprague-Dawley ラットに対する Zeranol の内分泌かく乱作用. 第56回日本産科婦人科学会, 東京
26. 溝上友美, 斉藤淳子, 中元 剛, 安原正浩, 生田明子, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 子宮悪性腺腫における免疫組織学的染色の診断的意義について. 第56回日本産科婦人科学会, 東京
27. 安原正浩, 安田勝彦, 中元 剛, 吉村智雄, 生田明子, 堤 明裕, 中嶋達也, 松尾 泉, 松岡 進, 大崎 尚, 北田光美, 神崎秀陽 (2004) 妊娠時のヒト子宮筋βアドレナリンレセプター-mRNA サブタイプの変化. 第56回日本産科婦人科学会, 東京
28. 中元 剛, 安原正浩, 吉村智雄, 浅野雅美, 山崎由紀子, 垓 貴司, 堤 明裕, 大崎 尚, 北田光美, 斉藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) 卵巣癌におけるリゾフォスファチジン酸受容体 EDG7 の発現について. 第56回日本産科婦人科学会, 東京
29. 中元 剛, 岡田英孝, 安原正浩, 吉村智雄, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2004) ヒト子宮内膜間質細胞におけるプロゲステロンに制御される遺伝子の DNA チップによる解析～fibulin-1 遺伝子について～. 第126回日本不妊学会関西支部集談会/第28回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪

#### 著 書

1. 安田勝彦 (2004) 高プロラクチン血症, 乳漏症. 婦人科内分泌外来ベストプラクティス 誰もが迷う99例の診療指針 (神崎秀陽編) 115-121頁, 医学書院, 東京

### 麻酔科学講座

#### 〈研究業績〉

原 著

1. Asai T, Shingu K, Taniguchi S, Fujise K (2004) Can patients tell where epidural catheters go? *Anaesthesia* 59: 407
2. Asai T, Shingu K (2004) Use of the laryngeal tube during emergence from anaesthesia in a patient with an unstable neck. *Anaesthesia* 59: 300-301
3. Asai T, Marfin AG, Thompson J, Popat M, Shingu K (2004) Ease of insertion of the laryngeal tube during manual-in-line neck stabilization. *Anaesthesia* 59: 1163-1166
4. Asai T, Shingu K (2004) Airway management of a patient with tracheal stenosis for surgery in the prone position. *Can J Aneasth* 51: 733-736
5. Asai T, Latto P (2004) Training in airway management. *Anaesthesia* 59: 90-91
6. Asai T (2004) Disposable laryngoscopes are not always inferior to non-disposable laryngoscopes. *Anaesthesia* 59: 93
7. Asai T, Kawachi S (2004) Insertion of the laryngeal tube by paramedical staff *Anaesthesia* 59: 408-409
8. Asai T, Shingu K (2004) Use of the videolaryngoscope *Anaesthesia* 59: 513-514
9. Asai T, Shingu K (2004) Time-related cuff pressures of the laryngeal tube: with and without the use of nitrous oxide *Anesth Analg* 98: 1803-1806
10. Asai T, Murao K, Umegaki T, Shingu K (2004) Use of the laryngeal mask airway in nasally intubated patients *Anaesthesia* 59: 726-727
11. Asai T, Shingu K (2004) Increased carbon dioxide during anaesthesia in patients with pheochromocytoma *Anaesthesia* 59: 830-831

12. Asai T, Latto IP, Muthuswamy D, Kiyama S (2004) Equipment list for difficult airway management *Anaesthesia* 59: 922
  13. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004) Propofol and midazolam inhibit gastric emptying and gastrointestinal transit in mice *Anesth Analg* 99: 1102–1106
  14. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004) A new method using flow cytometry to measure the effects of drugs on gastric emptying and gastrointestinal transit in mice *Arzneim-Forsch/Drug Res* 54: 557–562
  15. Inada T, Yamanouchi Y, Johmura S, Sakamoto S, Takahashi M, Kambara T, Shingu K (2004) Effect of propofol and isoflurane anaesthesia on the immune response to surgery *Anaesthesia* 59: 954–959
  16. Miyamoto E, Nakao S, Tomimoto H, Wakita H, Yamada M, Masuzawa M, Takahira K, Sakamoto S, Shingu K (2004) Ketamine attenuates hypocapnia-induced neuronal damage in the caudoputamen in a rat model of chronic cerebral hypoperfusion *Neurosci Lett* 354: 26–29
  17. Takabuchi S, Hirota K, Nishi K, Oda S, Oda T, Shingu K, Takabayashi A, Adachi T, Semenza GL, Fukuda K (2004) The intravenous anesthetic propofol inhibits hypoxia-inducible factor 1 activity in an oxygen tension-dependent manner *FEBS Lett* 577: 434–438
  18. Takabuchi S, Hirota K, Nishi K, Oda S, Oda T, Shingu K, Takabayashi A, Adachi T, Semenza GL, Fukuda K (2004) The inhibitory effect of sodium nitroprusside on HIF-1 activation is not dependent on nitric oxide-soluble guanylyl cyclase pathway *Biochem Biophys Res Commun* 324: 417–423
  19. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Uchiyama Y, Imamura H, Shingu K (2004) Adenosine and a nitric oxide donor enhances cardioprotection by preconditioning with isoflurane through mitochondrial adenosine triphosphate-sensitive K<sup>+</sup> channel -dependent and-independent mechanisms *Anesthesiology* 100: 515–524
  20. 梅垣岳志, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮 興 (2004) 全静脈麻酔で管理した筋萎縮性側索硬化症患者の1症例. *臨床麻酔* 28: 947–948
  21. 久保古寿江, 村尾浩平, 竹安晶子, 大橋 敦, 中尾慎一, 新宮 興 (2004) 胎児の鎮静を目的にプロポフォルとフェンタニルを用いた帝王切開の麻酔. *麻酔* 53: 302–305
  22. 久保古寿江, 村尾浩平, 増澤宗洋, 小島研太郎, 中尾慎一, 新宮 興 (2004) 気管切開孔から気管支ブロッカーを用いた一側肺換気中に換気困難となった1症例. *麻酔* 53: 1170–1172
  23. 佐登宣仁, 新宮 興 (2004) 質疑応答: 自家骨髄細胞移植時の麻酔. *日本醫事新報* 4158: 142
  24. 益子進也, 西前博司, 高橋麻由 (2004) 漏斗胸手術 (Nuss法) の麻酔術中、不整脈/気胸を生じた症例: TIVA + 硬膜外フェンタニルと局所麻酔薬を併用して呼吸管理. *Lisa* 11: 952–954
  25. 浅井 隆 (2004) ビジュアル基本手技1 必ずうまくいく! 気管挿管—カラー写真とイラストでわかる手技とコツ. *麻酔* 53: 1222
  26. 大石敬子, 田口仁士, 木本倫代, 叶多知子, 稲田武文, 松本英夫, 中尾みどり, 新宮 興 (2004) 関西医科大学付属病院麻酔科ペインクリニック外来. *ペインクリニック* 25: 379–382
- 総 説
1. Asai T (2004) Who is at increased risk of pulmonary aspiration? *Br J Anaesth* 93: 497–500
  2. Asai T, Shingu K (2004) Difficulty in advancing a tracheal tube over a fiberoptic bronchoscope: incidence, causes and solutions. *Br J Anaesth* 92: 870–881
  3. 中尾慎一, 新宮 興 (2004) 脳血流の自動調節と麻酔薬. *臨床麻酔* 28: 1464–1470
  4. 新宮 興 (2004) これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ: プランナー. *整形外科看護* 9: 908–951
  5. 浅井 隆 (2004) これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ: 気道確保. *整形外科看護* 9: 929–935
  6. 中尾慎一, 新宮 興 (2004) これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ: 最近

の全身麻酔法—麻酔法と麻酔関連薬—. 整形  
外科看護 9: 908-916

7. 廣瀬卓治 (2004) これだけは知っておきたい  
整形外科の麻酔基礎のキソ: 硬膜外麻酔と脊  
髄くも膜下麻酔. 整形外科看護 9: 917-928

#### 学会発表

1. 浅井 隆 (2004) Controlled ventilation during  
anaesthesia: which mode and which interface? 13th  
World Congress of Anaesthesiologists, Paris,  
France
2. 浅井 隆 (2004) 統計—厄介な代物? それと  
も?—信頼区間の有用性—. 第37回埼玉麻酔  
科専門医会, 埼玉
3. 浅井 隆 (2004) 教育講演: 不安定頸椎症例  
における気道確保法—旧法の再検討と新法へ  
の展望. 第44回東京・関東甲信越支部会学術  
集会, 茨城
4. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004)  
Propofol and midazolam inhibit gastric emptying  
and gastrointestinal transit in mice. 13th World  
Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
5. Nakao S, Masuzawa M, Sakamoto S, Yamada M,  
Takahashi-Wakeno M (2004) Nitrous oxide  
increases, but xenon does not increase dopamine  
release in the rat nucleus accumbens. Annual  
Meeting of American Society of Anesthesiologist,  
Las Vegas, USA
6. Oishi K, Taguchi H, Kimoto M, Kanouda T, Mat-  
sumoto H, Nakao S, Yamazaki E, Takahashi M,  
Yamada M, Shingu K (2004) Change in cere-  
brospinal fluid (CSF) glutamate concentrations  
after intrathecal injection of betamethasone for  
intractable cancer pain. 11th International Pain  
Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo,  
Japan
7. Taguchi H, Oishi K, Kimoto M, Kanouda T,  
Mastsumoto H, Inada T, Shingu K (2004) Improve-  
ment of quality of life in the patients with cancer  
pain by intrathecal injection of batamethasone.  
11th International Pain Clinic World Society of  
Pain Clinicians, Tokyo, Japan
8. Nishi K, Takabuchi S, Oda S, Hirota K, Adachi T,  
Fukuda K, Shingu K (2004) Hypoxia-inducible  
factor 1-mediated hypoxic signaling pathway  
cross-talks with glucose metabolism in Hep3B  
cells. The 4th Joint Congress of Japanese-Korean  
Intensivists, Fukuoka, Japan
9. Nishi K, Hirota K, Takabutchi S, Adachi T, Shingu  
K (2004) The effects of local anesthetics on the  
cellular hypoxia-induced gene responses mediated  
by hypoxia-inducible factor1. Annual Meeting of  
American Society of Anesthesiologist, Las Vegas,  
USA
10. Sakamoto S, Murao K, Yamada M, Nakao S,  
Shingu K (2004) Minimum convulsive serum of  
bupivacaine, levobupivacaine, dextrobupivacaine  
and ropivacaine. 13th World Congress of Anaes-  
thesiologists, Paris, France
11. Takahashi M, Inada T, Matsumoto H, Yamada M,  
Johmura S, Taguchi H, Shingu K (2004) Efficacy  
of caudal block for relief of pain caused by peri-  
pheral blood stem cell transplantation in ischemic  
legs. 13th World Congress of Anaesthesiologists,  
Paris, France
12. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura  
H, Shingu K (2004) The optimal dose, the time  
window, and the mechanism of delayed cardio-  
protection by isoflurane. Annual Meeting of  
American Society of Anesthesiologist, Las Vegas,  
USA
13. Yamada M, Nakao S, Kanbara S, Sakamoto S,  
Masuzawa M, Murao K, Inada T, Shingu K (2004)  
Effects of propofol and droperidol on sigma 1  
receptors in rat brain. 13th World Congress of Ana-  
esthesiologists, Paris, France
14. Johmura S, Inada T, Sakamoto S, Takahashi M,  
Shingu K (2004) Effects of total intravenous anaes-  
thesia vs. volatile anaesthesia on the Th1/Th2 ratio  
after craniotomy. 13th World Congress of Anaes-  
thesiologists, Paris, France
15. 浅井 隆 (2004) 気道確保困難な症例におけ  
るラリンジアルマスクの役割と限界. 第51回  
日本麻酔科学会総会, 愛知
16. 梅垣岳志, 橋本明子, 岩井鉄平, 小島研太郎,  
呉本善聡, 村尾浩平, 田口仁士, 新宮 興  
(2004) 脊椎くも膜下麻酔におけるペンシルポ  
イント針刺入用短ガイド針の有用性. 第24回

日本臨床麻酔学会総会, 大阪

17. 梅垣岳志, 村尾浩平, 浅井 隆, 新宮 興 (2004) Treacher-Collins 症候群患者における経鼻-経口挿管交換. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
18. 稲田武文, 浅井 隆, 山田麻起子, 新宮 興 (2004) マウスにおける非放射性元素を用いた, モルヒネおよびデクスメドミディンの腸管運動に及ぼす影響に関する研究. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
19. 木本倫代, 田口仁士, 大石敬子, 叶多知子, 稲田武文 (2004) 初診時の診察とX線写真により診断した脊椎転移による癌性疼痛の3症例. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
20. 木本倫代, 田口仁士, 大石敬子, 叶多知子, 佐登宣仁, 松本英夫, 新宮 興 (2004) クモ膜下ベタメタゾンにより脊椎転移に伴う下肢の知覚・運動麻痺が改善した3症例. 第38回日本ペインクリニック学会総会, 東京
21. 木本倫代, 田口仁士, 大石敬子, 中尾みどり, 叶多知子, 松本英夫 (2004) X線写真により診断した脊椎転移の4症例. 第9回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
22. 木本倫代, 田口仁士, 大石敬子, 山崎悦子, 中尾みどり, 松本英夫 (2004) ペインクリニックにおける慢性肛門痛の治療. 第3回難治性疼痛研究会, 大阪
23. 小島研太郎, 浅井 隆, 梅垣岳志, 橋本明子, 新宮 興 (2004) 頭頸部水平固定下のラリンジアルマスクチューブ挿入の容易度の検討. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
24. 坂井貴子, 木本倫代, 中村久美子, 池田栄浩, 新宮 興 (2004) セボフルラン麻酔下乳房切除術における亜酸化窒素術後悪心・嘔吐発生率への影響. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
25. 住吉直秀, 中澤 直 (2004) ボトックス注100の使用経験. 第8回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
26. 住吉直秀, 中澤 直, 田口仁士, 新宮 興 (2004) 小児セボフルラン麻酔中, 悪性高熱症が疑われた1例. 第50回日本麻酔科学会関西地方会, 大阪
27. 住吉直秀, 中澤 直, 田口仁士, 新宮 興 (2004) 小児セボフルラン麻酔中, 悪性高熱症が疑われた1例. 第26回悪性高熱研究会, 大阪
28. 田口仁士 (2004) 下腹部術後痛に対する硬膜外鎮痛一術後痛7次研究発表一. 第14回術後痛研究会, 大阪
29. 中尾慎一, 池田栄浩, 村尾浩平, 久保古寿江, 新宮 興 (2004) 経食道エコープローベにより気道閉塞を起こした胸部上行・弓部解離性大動脈瘤の一症例. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
30. 橋本明子, 梅垣岳志, 浅井 隆, 新宮 興 (2004) 喘息による抜管困難な症例での覚醒時ラリンジアルマスクの使用. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
31. 濱野宣行, 山田 功, 廣瀬卓治 (2004) 頸動脈遮断に対して低体温による脳保護を行った1症例. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
32. 濱野宣行, 山田 功, 廣瀬卓治 (2004) 術中に発生した2例の致死的肺血栓塞栓症一院内血栓予防ガイドラインの作成一. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
33. 福中いづみ (2004) 最近の症例から①SGB後ノイロトロピン特号3cc静注し血圧低下をきたした症例②SGB後眼瞼下垂が蔓延した1例③その他. 第9回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
34. 増澤宗洋, 中尾慎一, 阪本幸世, 山田麻起子, 梅垣岳志, 新宮 興 (2004) ラット脳側坐核におけるドバミン放出に対するキセノンと笑気の影響. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
35. 松本早苗, 浅井 隆, 加藤 晶, 森山 享, 新宮 興 (2004) 小児横隔膜疾患に対する胸腔鏡手術の麻酔管理経験. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
36. 松本早苗, 加藤 晶, 浅井 隆, 新宮 興 (2004) Edward症候群の全身麻酔管理経験. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
37. 村尾浩平, 増澤宗洋, 新宮 興 (2004) プロポフォールによる麻酔は悪性高熱を発症しないのか?. 第26回悪性高熱研究会, 大阪
38. 山崎悦子, 田口仁士, 大石敬子, 木本倫代, 叶多知子, 松本英夫, 中尾みどり, 新宮 興 (2004) 再発を繰り返す乳癌患者に対して多数の診療科で治療を行った一例. 第34回日本ペ

インククリニック学会関西地方会, 大阪

39. 叶多知子, 大石敬子, 木本倫代, 松本英夫, 中尾みどり, 田口仁士, 新宮 興 (2004) 上胸部領域の難治性帯状疱疹後神経痛にクモ膜下ベタメタゾン投与が有効であった2症例. 第38回日本ペインクリニック学会総会, 東京
40. 叶多知子, 大石敬子, 中尾みどり, 佐登宣仁, 松本英夫, 田口仁士 (2004) 硬膜外カテーテル挿入に伴うトラブル3症例の検討. 第8回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
41. 阪本幸世, 村尾浩平, 山田麻起子, 中尾慎一, 坂井貴子, 新宮 興 (2004) ロピバカインの痙攣誘発量. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
42. 高橋麻由, 中尾慎一, 内山祐佳, 新宮 興 (2004) 心筋プレコンディショニングにおけるミトコンドリアATP感受性K<sup>+</sup>チャンネルの役割. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
43. 西憲一郎, 広田喜一, 高淵聡史, 尾田聖子, 足立健彦, 新宮 興 (2004) 種々の細胞における局所麻酔薬の低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす影響. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
44. 西憲一郎, 広田喜一, 高淵聡史, 尾田聖子, 足立健彦, 福田和彦, 新宮 興 (2004) 神経細胞における局所麻酔薬の低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす影響. 第17回日本局所麻酔学会, 大阪
45. 西憲一郎, 広田喜一, 高淵聡史, 尾田聖子, 福田和彦, 新宮 興, 足立健彦 (2004) 低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼすグルコース代謝の影響. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 福岡
46. 山田麻起子, 中尾慎一, 高森康晴, 小田紀子, 片岡洋祐, 山田久夫, 新宮 興 (2004) 各種静脈麻酔薬のシグマ1受容体に対する作用. 第27回日本神経科学学会大会・第47回日本神経化学学会大会合同大会, 大阪
47. 山田麻起子, 中尾慎一, 阪本幸世, 増澤宗洋, 高橋麻由, 新宮 興 (2004) 各種静脈麻酔薬のシグマ1受容体に対する作用. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
48. 奥田平治 (2004) 在宅で診ている肺癌末期患者の1例. 第8回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
49. 尾田聖子, 広田喜一, 高淵聡史, 西憲一郎, 福田和彦, 足立健彦 (2004) 低酸素性遺伝子応答にMIFが及ぼす影響の検討. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
50. 金子 愛, 葛西麻由, 白根温子, 茂山泰樹, 小川 肇, 橋本圭司 (2004) アルブミン-TM5%によると思われる重篤なアナフィラキシー様反応をきたした1症例. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
51. 久保古寿江, 村尾浩平, 叶多知子, 中尾慎一, 岩井鉄平, 新宮 興 (2004) ランジオロールでの管理が有効であったRomano-Ward症候群合併妊婦の帝王切開術の麻酔経験. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
52. 高淵聡史, 広田喜一, 西憲一郎, 尾田聖子, 福田和彦, 足立健彦 (2004) ニトロプルシドは一酸化窒素(NO)を介さずに低酸素誘導性遺伝子発現を阻害する. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
53. 高淵聡史, 広田喜一, 西憲一郎, 尾田聖子, 足立健彦, 福田和彦 (2004) プロポフォールは酸素濃度依存的に低酸素誘導性遺伝子発現を阻害する. 第11回日本静脈麻酔・Infusion Technology研究会, 大阪
54. 谷口昌子, 浅井 隆, 藤瀬久美子, 新宮 興 (2004) 褐色細胞腫摘出術時の代謝変化の検討. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知
55. 中澤 直, 住吉直秀, 浅井 隆, 新宮 興 (2004) ラリンジアルチューブを使用した経鼻挿管の検討. 第24回日本臨床麻酔学会総会, 大阪
56. 三木智章, 檜高育宏, 酒井明彦, 叶多知子, 河内正治 (2004) 鎖骨下静脈カニューレシオンにおけるカテーテル先位置の検討. 第51回日本麻酔科学会総会, 愛知

#### 著 書

1. Mori K, Shingu K, Nakao S (2004) Brain Death. Miller's Anesthesia sixth edition (Miller RD) pp 2955-2970, Churchill Livingstone, Philadelphia
2. 新宮 興 (2004) 編集: 麻酔科学スタンダードIII基礎, 麻酔科学スタンダードIII基礎(小川節郎, 新宮 興, 武田純三, 西野 卓編), 克誠堂出版, 東京
3. 新宮 興 (2004) 編集: 麻酔科学スタンダード

- ドIV関連領域. 麻酔科学スタンダードIV関連領域 (小川節郎, 新宮 興, 武田純三, 西野卓編), 克誠堂出版, 東京
4. 稲田武文 (2004) 免疫. 麻酔科学スタンダードIII基礎 (小川節郎, 武田純三, 新宮 興, 西野 卓編) 189-197頁, 克誠堂出版, 東京
  5. 上村幸子, 黒崎知博 (2004) B細胞のシグナル伝達—アダプター分子, Grb2・BLNKによるVavのラフトへの移行制御. 免疫研究のフロンティア 実験医学 増刊, 72-78頁, 羊土社, 東京
  6. 新宮 興 (2004) 麻酔覚醒の質. 麻酔科学レビュー2004 (天羽敬祐監修) 200-203頁, 総合医学社, 東京
  7. 新宮 興, 山田麻起子 (2004) 催眠鎮静薬および鎮痛薬—トリアゾラム—. 医薬品等適正使用推進施行事業—麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン—改訂第2版 (社団法人日本麻酔科学会) 3-5頁, 東京
  8. 佐登宣仁 (2004) 手術・麻酔による免疫系への影響. 麻酔科学スタンダードIII基礎 (小川節郎, 武田純三, 新宮 興, 西野 卓編) 198-203頁, 克誠堂出版, 東京
  9. 中尾慎一 (2004) シナプス, 伝達物質放出, 神経-筋情報伝達. 麻酔科学スタンダードIII基礎 (小川節郎, 武田純三, 新宮 興, 西野 卓編) 123-133頁, 克誠堂出版, 東京
  10. 新宮 興 (2004) 麻酔科研修医ポケット手帳. 総監修 関西医科大学麻酔科学 新宮 興, 提供 アストラゼネカ(株). (製作 メディックネット(株): 東京)
  11. 新宮 興 (2004) 麻酔科研修医基本手技 CD-ROM. 監修 関西医科大学麻酔科学 新宮 興, 提供 アストラゼネカ(株)

## 臨床検査医学講座

### 〈研究概要〉

平成16年は, 特筆すべきイベントとして9月17日~18日に高血圧自然発症ラット (SHR) 学会を主催した程度で大きな催しはなかった。

研究は, 従来とほぼ同じ方向のもので, 生活習慣病の診断法, 免疫関連の指標が中心である。高血圧や循環器疾患との関連が示唆されている内因性ジギタリスについては, telocinobufaginの血中濃度が極めて高く, 活性値と高いので, 病態生理的役割があるものと考えて, 特異的な抗体を作成して測定系を開発している。現在のところでは, 測定系は確立したが, 特異性に高い抗体ではないので, 引き続き検討中である。セロトニンの病態診断における役割の研究では, 動脈硬化症の診断指標として東ソー (株) と共同で米国での特許を取得した。さらに, 喫煙時の指標, あるいは糖尿病での診断指標として特許を申請しつつある。

### 〈研究業績〉

原著

1. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kimura T, Sonomura K, Umemura S, Kishimoto N, Nose A, Tokoro T, Kijima Y, Yamahara H, Nagata T, Masaki H, Umeda Y, Okazaki K, Iwasaka T (2004) Acute tubulointerstitial nephritis associated with auto-immune-relatedpancreatitis. Am J Kidney Dis. 43: 18-25
2. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kishimoto N, Nose A, Kijima Y, Nagata T, Umeda Y, Masaki H, Matsubara H, Iwasaka T (2004) Membranous glomerulonephritis associated with hepatitis C virus infection: case report and literature review. Clin Nephrol. 61: 144-150
3. Kosaki A, Hasegawa T, Kimura T, Iida K, Hitomi J, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Toyoda N, Masaki H, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Increased plasma S100A12 (EN-RAGE) levels in patients with type 2 diabetes. J Clin Endocrinol Metab. 89: 5423-5428
4. Masaki H, Nishikawa M (2004) Sexual dysfunction in ESRD patients. Nippon Rinsho 62Suppl 6: 549-552

5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuada T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahashi H (2004) Association between cardiovascular autonomic neuropathy and left ventricular hypertrophy in diabetic haemodialysis patients. *Nephrol. Dial. Transplant.* 19: 2532–2538
6. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Fujita H, Inoue N, Nishimura T, Ono T (2004) Myocardial scintigraphy using a fatty acid analogue detects coronary artery disease in hemodialysis patients. *Kidney Int.* 66: 811–819
7. Tsuji H, Nishino N, Kimura Y, Yamada K, Nukui M, Yamamoto S, Iwasaka T, Takahashi H (2004) Haemoglobin level influences plasma brain natriuretic peptide concentration. *Acta Cardiol.* 59: 527–531
8. Takiuchi S, Kamide K, Miwa Y, Tomiyama M, Yoshii M, Matayoshi T, Horio T, Kawano Y (2004) Diagnostic value of carotid intima-media thickness and plaque score for predicting target organ damage in patients with essential hypertension. *J Hum Hypertens* 18: 17–23
9. Kamide K, Rakugi H, Nagai M, Hori MT, Takiuchi S, Matsukawa N, Higaki J, Barrett JD, Eggens P, Kawano Y, Ogihara T, Tuck ML (2004) Insulin-mediated regulation of the endothelial renin-angiotensin system and vascular cell growth. *J. Hypertens.* 22: 121–127
10. Miwa Y, Tsushima M, Arima H, Kawano Y, Sasaguri T (2004) Pulse pressure is an independent predictor of the progression of atherosclerotic calcification in patients with controlled hyperlipidemia. *Hypertension* 43: 536–540
11. Suzuki Y, Horio T, Hayashi T, Nonogi H, Kitamura K, Eto T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Plasma adrenomedullin concentration is increased in patients with peripheral arterial occlusive disease associated with vascular inflammation. *Regul. Pept.* 118: 99–104
12. Kawano Y, Abe H, Kojima S, Takishita S, Matsuoka H (2004) Effects of repeated alcohol intake on blood pressure and sodium balance in Japanese males with hypertension. *Hypertens. Res.* 27: 167–172
13. Shioji K, Nishioka J, Naraba H, Kokubo Y, Mannami T, Inamoto N, Kamide K, Takiuchi S, Yoshii M, Miwa Y, Kawano Y, Miyata T, Miyazaki S, Goto Y, Nonogi H, Tago N, Iwai N (2004) A promoter variant of the ATP-binding cassette transporter A1 gene alters the HDL cholesterol level in the general Japanese population. *J. Hum. Genet.* 49: 141–147
14. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, Goto R, Sada M, Kawano Y, Moriyama T, Yazawa T, Ichimaru N, Takihara S, Kangawa K (2004) Mycophenolate mofetil prevents autoimmune glomerulonephritis and alterations of intrarenal adrenomedullin in rats. *Eur. J. Pharmacol.* 489: 127–133
15. Takiuchi S, Mannami T, Miyata T, Kamide K, Tanaka C, Kokubo Y, Koyama Y, Inamoto N, Katsuya T, Iwai N, Kawano Y, Ogihara T, Tomoike H (2004) Identification of 21 single nucleotide polymorphisms in human hepatocyte growth factor gene and association with blood pressure and carotid atherosclerosis in the Japanese population. *Atherosclerosis* 173: 301–305
16. Kamide K, Takiuchi S, Tanaka C, Miwa Y, Yoshii M, Horio T, Mannami T, Kokubo Y, Tomoike H, Kawano Y, Miyata T (2004) Three novel missense mutations of WNK4, a kinase mutated in inherited hypertension, in Japanese hypertensives: implication of clinical phenotypes. *Am. J. Hypertens.* 17: 446–449
17. Kamide K, Tanaka C, Takiuchi S, Miwa Y, Yoshii M, Horio T, Kawano Y, Miyata T (2004) Six missense mutations of the epithelial sodium channel  $\beta$ - and  $\gamma$ - subunits in Japanese hypertensives. *Hypertens. Res.* 27: 333–338
18. Tanaka C, Kamide K, Takiuchi S, Kawano Y, Miyata T (2004) Evolution of two genetic polymorphisms in the endothelin-1 gene, Lys 198A Asn and -134 del A polymorphisms. *Hypertens. Res.* 27: 367–371
19. Tokudome T, Horio T, Soeki T, Mori K, Kishimoto I, Suga S, Yoshihara F, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Inhibitory effect of C-type

- natriuretic peptide (CNP) on cultured cardiac myocyte hypertrophy: interference between CNP and endothelin-1 signaling pathways. *Endocrinology* 145: 2131–2140
20. Tokudome T, Horio T, Fukunaga M, Okumura H, Hino J, Mori K, Yoshihara F, Suga S, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Ventricular non-myocytes inhibit doxorubicin-induced myocyte apoptosis: involvement of endogenous endothelin-1 as a paracrine factor. *Endocrinology* 145: 2458–2466
  21. Tokudome T, Horio T, Yoshihara F, Suga S, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Different effects of high glucose and insulin on cultured cardiac myocyte hypertrophy and fibroblast proliferation. *Metab.* 53: 710–715
  22. Takami Y, Horio T, Iwashima Y, Takiuchi S, Kamide K, Yoshihara F, Nakamura S, Nakahama H, Inenaga T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Diagnostic and prognostic value of plasma brain natriuretic peptide in non-dialysis-dependent CRF. *Am. J. Kidney Disease* 44: 420–428
  23. Kokubo Y, Kamide K, Inamoto N, Tanaka C, Banno M, Takiuchi S, Kawano Y, Tomoike H, Miyata T (2004) Identification of 108 SNPs in TSC, WNK1 and WNK4 and their associations with hypertension in a Japanese general population. *J. Hum. Genet.* 49: 507–515
  24. Takiuchi S, Fujii H, Kamide K, Horio T, Nakatani S, Hiuge A, Rakugi H, Ogihara T, Kawano Y (2004) Plasma asymmetric dimethylarginine and coronary and peripheral endothelial dysfunction in hypertensive patients. *Am. J. Hypertens.* 17: 802–808
  25. Miwa Y, Takiuchi S, Kamide K, Yoshii M, Horio T, Tanaka C, Banno M, Miyata T, Sasaguri T, Kawano Y (2004) Identification of gene polymorphism in lipocalin-type prostaglandin D synthases and its association with carotid atherosclerosis in Japanese hypertensive patients. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 322: 422–428
  26. Suzuki Y, Horio T, Nonogi H, Hayashi T, Kitamura K, Eto T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Adrenomedullin as a sensitive marker for coronary and peripheral arterial Complications in patients with atherosclerotic risks. *Peptides* 25: 1321–1326
  27. Kokubo Y, Inamoto N, Tomoike H, Kamide K, Takiuchi S, Kawano Y, Tanaka C, Katanosaka Y, Wakabayashi S, Shigekawa M, Hishikawa O, Miyata T (2004) Association of genetic polymorphisms of sodium-calcium exchanger-1, NCX-1, with hypertension in a Japanese general population. *Hypertens. Res.* 27: 697–702
  28. Matayoshi T, Kamide K, Takiuchi S, Yoshii Y, Miwa Y, Takami Y, Tanaka C, Banno M, Horio T, Nakamura S, Nakahama H, Yoshihara F, Inenaga T, Miyata T, Kawano Y (2004) Thiazide-sensitive  $\text{Na}^+\text{-Cl}^-$  cotransporter gene, C1784T, and adrenergic receptor  $\beta_3$  gene, T727C, may be gene polymorphisms susceptible to the antihypertensive effect of thiazide diuretics. *Hypertens. Res.* 27: 821–833
  29. Dong XH, komiyama Y, Nishimura N, Masuda M, Takahashi T (2004) Nanomolar level of ouabain increases intracellular calcium to produce nitric oxide in rat aortic endothelial cells. *Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.* 31: 276–283
  30. Hirowatari Y, Hara K, Kamihata H, Iwasaka T, Takahashi H (2004) High-performance liquid chromatographic method with column-switching and post-column reaction for determination of serotonin levels in platelet-poor plasma. *Clin Biochem* 37: 191–197
  31. Hara K, Hirowatari Y, Yoshika M, Komiyama Y, Tsuka Y, Takahashi H (2004) The ratio of plasma to Whole-blood serotonin may be a novel marker of atherosclerotic cardiovascular disease. *J. Lab. Clin. Med.* 144: 31–37
  32. Yuri T, Danbara N, Shikata N, Fujimoto S, Nakano T, Sakaida N, Uemura Y, Tubura A (2004) Malignant rhabdoid tumor of the liver: Case report and literature review. *Pathology International* 54: 623–629
  33. A-Hon Kwon, Matsui Y, Uemura Y (2004) Surgical procedures and histopathologic findings for patients with xanthogranulomatous cholecystitis. *J Am Coll Surg* 199: 204–210
  34. 横井 崇, 森真一郎, 杉本博是, 小宮山豊, 植

- 村芳子, 谷尻 力, 中井邦久, 松本憲明, 全勝弘, 尼川龍一, 岸本裕司, 家子正裕, 高橋伯夫, 福原資郎 (2004) 抗リン脂質抗体を伴った脾辺縁帯 B 細胞リンパ腫. 臨血 45(10): 1095-1099
35. 出浦照國, 宮崎三宏, 内田健三, 阪口勝彦, 河野雄平 (2004) 腎実質性高血圧症入院患者における Nitrendipine の血圧日内変動に及ぼす影響: 携帯式自動血圧計による検討. 日腎会誌 46: 434-441
36. 西村真人, 武中利幸, 鳴坂淳一, 和田良二, 橋本哲也, 小林裕之, 福田豊史, 沖野功次, 山本則之, 宮崎浩志, 藤田 博, 井上直人, 西村恒彦, 小野利彦 (2004) 慢性血液透析患者の冠動脈疾患における 123I-BMIPP SPECT の有用性. 日透析医学会誌 37: 1299-1310
37. 山本則之, 西村真人, 橋本哲也, 小林裕之, 福田豊史, 沖野功次, 小野利彦 (2004) 二肢切断にて救命し得たブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 (Staphylococcal scalded skin syndrome) の 1 例. 腎不全外科 57: 66-67
38. 中村竜也, 内田幸子, 田中敬一郎, 佐野みゆき, 中田千代, 平城 均, 高橋伯夫 (2004) 基質試薬 HMRZ-86 を用いた  $\beta$ -ラクタマーゼ検出試薬による Extended-spectrum  $\beta$ -Lactamase および Metallo- $\beta$ -lactamase の検出に関する検討. JARMAM 15: 15-20
39. 中村竜也, 高橋伯夫 (2004) 血液培養から分離されたコアグラゼ陰性ブドウ球菌の薬剤感受性と teicoplanin 耐性について. 感染症誌 78: 46-53
40. 山本大悟, 為政大幾, 岡本真由美, 山田正法, 坂井田紀子, 植村芳子, 奥川帆麻, 田中完児 (2004) 乳頭部にできた皮膚原発 Adenoid cystic carcinoma の 1 例. 乳癌の臨 19: 358-362
41. 大重英行, 稲垣隆介, 吉村晋一, 我妻敬一, 笠井治文, 今堀 巧, 山内康雄, 河本 圭司, 中野崇秀, 藤本幸子, 植村芳子 (2004) 新生児未熟型奇形腫の 1 例. 小児の脳神 29: 355-359
42. 中村竜也, 高橋伯夫 (2004) 血液培養から分離されたコアグラゼ陰性ブドウ球菌の薬剤感受性と teicoplanin 耐性について. 感染症誌 78: 46-53
43. 畑 嘉高, 岩本慈能, 米倉康博, 森田美佳, 吉岡和彦, 坂井田紀子 (2004) 直腸原発巨大 GIST の 1 例. 日本大腸肛門病会誌 57: 198-203
44. 原 克子, 小宮山豊, 高橋伯夫, 吉賀正亨, 岩坂壽二, 木村 穰, 廣渡祐史 (2004) 喫煙者における血中コチニン濃度と全血および血漿セロトニン (5-hydroxytryptamine:5-HT) 濃度の関係. セロトニン (5-HT<sub>2</sub>) 研究会報告 33-34

## 総 説

1. Kamide K, Takiuchi S, Miyata T, Hanai S, Kawano Y, Tomoike H (2004) Single nucleotide polymorphisms analysis of hypertension relating to the effect of antihypertensive drugs. Jpn Heart J 45(Suppl.): S69-S93
2. 高橋伯夫 (2004) Mechanism 早朝高血圧の発症には、交感神経が重要な役割を果たす. 医事新報 No. 4158
3. 高橋伯夫 (2004) ACE 阻害薬とアンジオテンシン II (Ang II) 受容体ブロッカー (ARB) の心筋梗塞後予後に及ぼす作用 (VALIANT 試験). 臨高血圧 10(1): 54-55
4. 高橋伯夫 (2004) 本態性高血圧患者では交感神経活動の亢進が重要な役割を果たす. 臨高血圧 10(1): 56-57
5. 高橋伯夫 (2004) 睡眠時無呼吸症候群と高血圧. 臨高血圧 10(1): 58-59
6. 高橋伯夫 (2004) CRP と白血球数の乖離. 医事新報 4171: 90-91
7. 高橋伯夫 (2004) 特集 Common Disease の診断・治療の新しい常識 [ガイドラインをふまえた日常診療]. 高血圧症 JIM 14(8): 670-673
8. 高橋伯夫 (2004) 高血圧研究で何が問われているか—中枢神経系を忘れてはならない—. 血圧 11(8): 126
9. 高橋伯夫 (2004) アルドステロンの作用機構と病態における新たな役割の解明と最新の治療. 臨化 33(1): 45-54
10. 高橋伯夫 (2004) 特集 血圧異常と内分泌因子 内分泌性高血圧症における最近のトピックス 偶発腫瘍として発見される褐色細胞腫. ホルモンと臨 52(5): 61-69
11. 高橋伯夫 (2004) 特集 迅速簡易検査の現状と将来 心筋マーカーの POCT. 医器学 74(5): 254-259

12. 高橋伯夫 (2004) 代替医療と臨床検査—西洋医学と東洋医学の融合 (1) 司会のことば. 臨病理 52(5): 438–439
13. 高橋伯夫 (2004) 特集 透析患者と高血圧 高血圧の病態と特徴—慢性腎不全患者の血圧日内変動と降圧療法—. 血圧 11(10): 47–53
14. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧と脳・心血管系疾患の予防と管理: 早朝高血圧における交感神経系の関与と選択薬剤の根拠をみる. 血圧 11(12): 1355–1358
15. 小宮山豊, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2004) 特集 イオンチャンネルと循環器疾患  $\text{Na}^+$ ,  $\text{K}^+$ -ATPase と循環器疾患. 臨化 33: 119–125
16. 小宮山豊, 堀 寧, 奈女良昭, 黒木由美子 (2004) 分析が有用な中毒起因物質の実用的分析法 バルビタール系薬物. 中毒研究 17: 79–84
17. 小宮山豊, 吉賀正亨, 佐々木美幸, 浅野 博 (2004) 初級技術: 採血技術と事故防止 初心者のための採血技術と事故防止講座. 採血手技の基本と注意点?. 医療と検機器・試薬 27: 245–252
18. 小宮山豊, 吉賀正亨, 吉岡貞子 (2004) トピックス 初心者に必要な採血方の知識. 検と技 32: 1051–1054
19. 正木浩哉, 松原弘明, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2004) 輸血医療の進歩と課題 細胞療法 血管再生・新生療法. 日内会誌 93: 1398–1403
20. 辰巳哲也, 松原弘明, 高橋知三郎, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2004) 末梢血管疾患 最近の展開 血管再生医療の現状と将来 末梢性血管から心臓病へ. 循環器 56: 77–83
21. 松原弘明, 王 英正, 辰巳哲也, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2004) 血管研究の最先端と治療への展開 血管新生・血管病態の分子メカニズムから現実となった新時代の臨床応用まで 治療への展開 細胞移植による血管再生医療 末梢性血管病から心臓病まで. 実験医 22: 1182–1187
22. 松原弘明, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2004) 体性幹細胞移植と再生医療 末梢血管病から心臓病へ. 関西医大誌 55: 155–161
23. 辰巳哲也, 松原弘明, 王 英正, 正木浩哉, 神島 宏, 岩坂壽二 (2004) 再生医療による心臓病治療の最前線 基礎と臨床 血管新生 心臓 細胞移植再生医療による心臓病治療. Cardiovasc Med-Surg 6: 295–301
24. 河野雄平 (2004) 大多数の高血圧患者に食塩 7g 以下を指導すべきか?—肯定的立場から. Medicina 41: 106–107
25. 中村敏子, 河野雄平 (2004) 家庭血圧と 24 時間血圧の日常診療での生かしかた. Med Pract 21: 190–194
26. 鈴木ちぐれ, 滝内 伸, 河野雄平 (2004) アルコール制限. 血圧 11: 151–155
27. 河野雄平 (2004) 降圧薬の多剤併用療法. 治療学 38: 167–170
28. 稲永 隆, 河野雄平 (2004) 腎動脈狭窄に対する Intervention (State of the Art). 臨高血圧 10: 16–28
29. 吉原史樹, 河野雄平 (2004) 高血圧治療における利尿薬の再評価. 循環器 55: 251–257
30. 河野雄平 (2004) 高血圧の個別管理と集団管理. 日循環器予防誌 39: 132–138
31. 河野雄平 (2004) 第2JATE: 高齢者高血圧に対する降圧薬治療の効果に関する調査研究II. 循環器 55: 460–462
32. 堀尾武史, 河野雄平 (2004) 仮面高血圧 逆白衣現象の機序と特徴. 血圧 11: 798–801
33. 神出 計, 河野雄平, 宮田敏行 (2004) 高血圧の薬剤ゲノム学研究. Bio Clin 19: 810–815
34. 佐々木修, 服部憲明, 井上典子, 中浜 肇, 澤田 徹, 河野雄平 (2004) 腎性貧血改善と脳循環 代謝に対する功罪: オピニオン2. 臨透析 20: 940–943
35. 中浜 肇, 河野雄平 (2004) 腎性高血圧の診療. 医事新報 4195: 37–41
36. 神出 計, 河野雄平, 宮田敏行 (2004) 高血圧に対する SNP 解析: 高血圧感受性遺伝子の同定とテーラーメイド医療への応用. 循環器医 12: 251–256
37. 神出 計, 滝内 伸, 河野雄平 (2004) 腎動脈検査の意義. Innervision 19(12): 70–74
38. 河野雄平 (2004) 若・中年者高血圧: 診断 治療のポイント. With the Compass 2(2): 2–5
39. 董 顕輝, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2004) 臨床検査技師は世界にいる 中国臨床検査技師制度の現状. Med Technol 32(2): 165–167

40. 角坂芳彦, 高橋伯夫 (2004) 初心者のための尿沈渣検査のコツ 第3回赤血球の見かた. 検と技 32(5): 409-414
41. 高橋伯夫 (2004) 降圧目標を達成するための降圧薬の上手な使い方 一次選択薬使用のノウハウ- $\alpha$ 1 遮断薬による降圧療法の特徴. *medicina* 41(1): 64-66
42. 小林幸司, 稲垣孝司, 阿部佳子, 栗山 澄, 西村典子, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2004) LPS 刺激による TNF- $\alpha$  産生能の新しい簡便測定法. 臨床検査 48(5): 593-597
43. 松原弘明, 辰巳哲也, 高橋知三郎, 神島 宏, 正木浩哉, 岩坂壽二 (2004) 骨髓細胞移植による虚血性心臓病の再生治療. 治療学 38: 932-935
44. 廣渡裕史, 原 克子, 高橋伯夫 (2004) けんさアラカルト 血漿中セロトニン測定. 検と技 33(2): 152-153
45. 廣渡裕史, 原 克子, 高橋伯夫 (2004) 新しい循環器のマーカー (5) セロトニン. 臨病理 52(8): 693-703
46. 河本圭司, 稲垣隆介, 塚崎裕司, 龍 堯志, 植村芳子, 南健一郎, 坂井田紀子, 中嶋安彬 (2004) 骨腫, 良性骨芽細胞腫・骨肉腫. 脳神経外科 32(5): 549-556

## 学会発表

1. Masuda M, Amano K, Nishimura N, Masaki H, Komiyama Y, Takahashi H (2004) Measurement of soluble Fc $\gamma$ RIIIaM $\phi$  in plasma as a novel marker for atherosclerosis. The 12th International Congress of Immunology and 4th Annual Conference of FOCIS, Montreal, Canada
2. Imada T, Masaki H et. al. (2004) Peritoneal Membrane Regeneration By Autologus Bone Marrow Mononuclear Cell Implataion. XLI 欧州腎臓病学会, Portugal
3. Imada T, Masaki H et. al. (2004) Peritoneal Mesothelial Cell Regeneration by autologus Mononuclear cells Implantation in a peritoneal dialysis Model of Rats. アメリカ腎臓病学会 (Renal week 2004), ST. Louis, USA
4. Yamahara H, Mori Y, Kishimoto N, Uchiyama-Tanaka Y, Tokoro T, Masaki H et. al. (2004) TGF- $\beta$  Up Regulates Connective Tissue Growth Factor in Peritoneal Mesothelial cells. アメリカ腎臓病学会 (Renal week 2004), ST. Louis, USA
5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Fujita H, Inoue N, Ono T (2004) Iodine-123-BMIPP imaging in maintenance hemodialysis patients: A guide for interventional strategy. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
6. Nishimura M, Ono T, Takahashi H (2004) Association of FMRFamide-activated brain sodium channel with salt-sensitive hypertension through the renin-angiotensin system in the brain and kidney. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
7. Nishimura M, Ushiyama M, Nishida M (2004) Usefulness of serum hepatocyte growth factor concentration for evaluation of the clinical state of Henoch-schonlein purpura. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
8. Nishimura M, Hirai O, Kishishita T, Fujimoto C, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Ono T (2004) Low-energy shock wave may rescue the inschismic lower limbs of chronic hemodialysis patients. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
9. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahashi H, Ono T (2004) Association of impaired parasympathetic activity with left ventricular hypertrophy in diabetic hemodialysis patients: possible involvement of the renin-angiotensin system. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
10. Masusa M, Takahashi H (2004) 動脈硬化症における可溶性 Fc $\gamma$ RIIIaM $\phi$  の測定. 中日臨床検査医学フォーラム, 大連
11. Inoue-Shibata M, Kosaki A, Baba T, Kawata K, Sato S, Hasegawa T, Nishikawa M, Iwasaka T

- (2004) Personality Predictors of Glycemic Control in Patients with Type 2 Diabetes. The 64th American Diabetes Association, オーストラリア
12. 植村芳子 (2004) T-cell rich B-cell lymphoma. 第44回日本リンパ網内系学会学術総会, 京都市
  13. 横井 崇, 松本憲明, 中井邦久, 森眞一郎, 全勝浩, 植村芳子, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) リツキシマブ投与後にCD20が陽性となった瀰散性リンパ腫. 第44回日本リンパ網内系学会学術総会, 京都市
  14. 森眞一郎, 植村芳子, 谷尻 力, 松本憲明, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) 早期再発甲状腺MALTリンパ腫における樹状細胞分布の検討. 第44回日本リンパ網内系学会学術総会, 京都市
  15. 小宮山豊, 吉賀正亨, 寺内里恵, 寺岡安津子, 原 克子, 宗像眞智子, 大津弥生, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 急性心筋梗塞治療時に発症したヘパリン起因性血小板減少症の1例. 第5回日本検査血液学会学術集会, 札幌
  16. 榊田 緑, 西村典子, 小宮山豊, 高橋伯夫, 西部隆宏, 田中 巧, 小島伸三 (2004) FcγRIIIa 特異的モノクロナル抗体を用いた可溶性FcγRIIIaの測定. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
  17. 榊田 緑, 高橋伯夫 (2004) 若年性RA患者抗TNFα抗体療法時の可溶性FcγRIIIaの経時的変化. 第34回日本免疫学会総会学術集会, 札幌
  18. 正木浩哉, 西川光重 (2004) 透析患者の続発性副甲状腺機能亢進症に対するマキサカルシトールの長期維持投与成績. 第49回日本透析医学会学術集会
  19. 高橋伯夫 (2004) 市民公開シンポジウム 高血圧症. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
  20. 高橋伯夫 (2004) 市民公開講座 高血圧と付き合い合う方法. 第40回高血圧自然発症ラット(SHR)学会学術集会, 大阪市
  21. 小宮山豊 (2004) シンポジウム 採血のテクニック(危機管理を交えて) —採血手技の基本と注意点—. 東京都臨床検査技師会西部地区研修会, 東京
  22. 小宮山豊 (2004) シンポジウム 「生物・化学テロと臨床検査」 —緊急時に対応する薬毒物検査と微生物検査の現状と未来—. 第44回(通算199回)日本臨床化学会近畿支部例会, 大阪
  23. 小宮山豊 (2004) シンポジウム 血小板および血液凝固・線溶の基礎. シェーリング・ブラウ株式会社 社内研修会, 大阪
  24. 西村真人, 小野利彦 (2004) シンポジウム 透析患者の循環器合併症 透析患者における心臓内血栓の危険性. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  25. 西村真人 (2004) ランチョンセミナー「透析患者の心疾患治療に心臓核医学を活かす」血液透析患者における脂肪酸代謝シンチグラフィの有用性. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  26. 高橋伯夫 (2004) 特別講演 慢性腎不全患者の病態の理解と良好な血圧コントロール. 紀泉カンファレンス, 大阪市
  27. 高橋伯夫 (2004) 特別講演 早朝高血圧の診断と治療. 健康フォーラム, 神戸市
  28. 高橋伯夫 (2004) 特別講演 スポーツと健康. 日本機械学会, 淡路島, 洲本市
  29. 西村真人 (2004) 特別講演 血液透析患者の冠動脈疾患診断ならびに心事故予測における123I-BMIPP SPECTの有用性. 第22回動態核医学研究会, 仙台
  30. 西村真人 (2004) 特別講演 慢性腎臓病患者の冠動脈疾患 診断・治療とその管理. 第5回HCN釜座研究会, 京都
  31. Imada T, Masaki H, Nozawa Y, Yamahara H, Sakamoto N, Kishimoto N, Fukui M, Hayakawa T, Tokoro T, Mori Y, Nishikawa M, Takahashi H, Iwasaka T (2004) Current Problems of Peritoneal Membrane in CAPD: Peritoneal Membrane Regeneration by Autologous Bone Marrow Mononuclear Cells Implantation in a Peritoneal Dialysis Model of Rats. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  32. Imada T, Masaki H, Fukui M, Yamahara H, Mori Y, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Therapeutic peritoneal membrane for implantation of autologous BMMNCs in Rats Peritoneal Dialysis model. 第47回日本腎臓学会学術総会
  33. 山原英樹, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 来島泰秋, 阪本憲彦, 今田崇裕, 福井政慶, 能勢敦子, 早川 敬, 所 敏子, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二, 向山政志, 横井秀基 (2004)

- 腹膜中皮細胞におけるCTGF発現 TGF- $\beta$ による刺激効果. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
34. 内山葉子, 森 泰清, 小崎篤志, 山原英樹, 来島泰秋, 今田崇裕, 岸本典子, 福井政慶, 所敏子, 正木浩哉, 岩坂壽二, 西川光重, 長原正幸 (2004) 維持血液透析 (HD) 患者での血中S100A12蛋白濃度の検討. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  35. 岸本典子, 森 泰清, 中田 緑, 丸山弘樹, 山原英樹, 来島泰秋, 阪本憲彦, 今田崇裕, 福井政慶, 能勢敦子, 内山葉子, 早川 敬, 所敏子, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) CAPDに伴う腹膜劣化に対する新規遺伝子治療法の基礎的検討. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  36. 来島泰秋, 森 泰清, 所 敏子, 山原英樹, 岸本典子, 能勢敦子, 内山葉子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2004) 感染性心内膜炎に伴った抗好中球細胞質抗体 (C-ANCA) 陽性の急速進行性腎炎の1例. 第34回日本腎臓学会西部学術集会, 岡山
  37. 山下浩司, 所 敏子, 山原英樹, 来島泰秋, 今田崇裕, 岸本典子, 阪本憲彦, 早川敬, 福井政慶, 正木浩哉, 森 泰清, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2004) 難治性ネフローゼ症候群に対してLDLapheresis, シクロスポリン (CyA) 併用にて急性腎不全から回復しえた1例. 第34回日本腎臓学会西部学術集会, 岡山
  38. 岸本典子, 森 泰清, 山原英樹, 来島泰秋, 能勢敦子, 内山葉子, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2004) Predominant tubulointerstitial nephritisを認めたSLE患者の一例. 第34回日本腎臓学会西部学術集会, 岡山
  39. 青田典子, 所 敏子, 横江洋之, 来島泰秋, 山原英樹, 岸本典子, 阪本憲彦, 早川敬, 正木浩哉, 森 泰清, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) DFPPを併用した抗GBM抗体腎炎の一例. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  40. 森 泰清, 内山葉子, 小崎篤志, 福井政慶, 長谷川隆正, 岸本典子, 山原英樹, 柴崎泰延, 今田崇裕, 阪本憲彦, 早川 敬, 所 敏子, 正木浩哉, 西川光重, 長原正幸, 岩坂壽二 (2004) 血液透析患者における血漿S100A12蛋白濃度の臨床的意義について. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  41. 福井政慶, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 今田崇裕, 山原英樹, 柴崎泰延, 所 敏子, 正木浩哉, 長原正幸, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) 慢性維持透析患者のQOL改善における十全大補湯の有用性について. 第49回日本透析医学会学術集会, 神戸
  42. 森 泰清, 岸本典子, 中田 緑, 内山葉子, 山原英樹, 来島泰秋, 正木浩哉, 岩坂壽二, 丸山弘樹 (2004) ヒト末血単核球由来細胞による腎尿細管再生の基礎的検討. 第47回日本腎臓学会学術総会, 宇都宮
  43. 山原英樹, 森 泰清, 岸本典子, 内山葉子, 来島泰秋, 所 敏子, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二, 向山正志, 横井秀基 (2004) 腹膜中皮細胞におけるCTGF発現 TGF- $\beta$ による刺激効果. 第47回日本腎臓学会学術総会, 宇都宮
  44. 岸本典子, 森 泰清, 中田 緑, 内山葉子, 山原英樹, 来島泰秋, 能勢敦子, 所 敏子, 正木浩哉, 永田登志子, 梅田幸久, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) 慢性腎障害での腹膜線維症モデル作成と新規遺伝子治療法の基礎的検討. 第47回日本腎臓学会学術総会, 宇都宮
  45. 長谷川隆正, 小崎篤志, 松原弘明, 四馬田-井上 恵, 森 泰清, 木村 穰, 沖垣光彦, 豊田長興, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) 糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への骨髄・末梢血単核球細胞移植の有効性. 第47回日本腎臓学会学術総会, 宇都宮
  46. 神島 宏, 木村 穰, 酢谷保夫, 竹花一哉, 西上尚志, 正木浩哉, 栗原裕彦, 栗本晃二, 岩坂壽二, 松原弘明 (2004) 重症狭心症に対する骨髄単核球細胞移植 (BMI) を用いた血管新生療法. 第31回日本集中治療医学会学術集会, 宇都宮
  47. 四馬田-井上 恵, 小崎篤志, 馬場天信, 田嶋佐和子, 長谷川隆正, 正木浩哉, 木村 讓, 高橋伯夫, 佐藤 豪, 西川光重, 岩坂壽二 (2004) 糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連について. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
  48. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧と降圧療法, 和

歌山県医師会学術講演会, 和歌山市

49. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧の病態と降圧療法の実際. 横浜市医師会生涯教育講演会, 横浜
50. 高橋伯夫 (2004) 降圧療法—最近の進歩—. 岸和田市医師会生涯教育講演会, 岸和田市
51. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧のマネージメント. 大阪府城東区医師会生涯教育講演会, 大阪市
52. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧の病態と治療. 神戸市医師会生涯教育講演会, 神戸市
53. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧の病態と治療. 京都市西京区医師会生涯教育講演会, 京都市
54. 高橋伯夫 (2004) 臓器保護を目指した降圧療法の実際. 住吉区医師会生涯教育講演会, 大阪市
55. 高橋伯夫 (2004) 臓器保護を目指した降圧療法の実際. 三重県鈴鹿市医師会生涯教育講演会, 鈴鹿市
56. 高橋伯夫 (2004) 臓器保護と早朝高血圧. 加古川内科医会生涯教育講演会, 兵庫県加古川市
57. 高橋伯夫 (2004) プレス・セミナー「危険な高血圧を見逃すな」. 東京
58. 高橋伯夫 (2004) 高脂血症の治療戦略. 大阪府医師会生涯教育講演会, 大阪市北区
59. 高橋伯夫 (2004) 生活習慣病と臨床検査. 枚方市医師会生涯教育講演会, 大阪府枚方市
60. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧と降圧療法. 寝屋川市医師会講演会, 寝屋川市
61. 高橋伯夫 (2004) 高血圧治療—最新の考え方—. 北摂薬剤師会講演会, 大阪府高槻市
62. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧の診断と治療戦略. 越谷市医師会生涯教育講演会, 越谷市
63. 高橋伯夫 (2004) 高血圧治療の最新のエビデンス—臓器保護を目的とした降圧療法—. 大阪府医師会生涯教育講演会, 大阪市旭区
64. 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2004) 大腿部に限局する疼痛を認め診断に苦慮した症例. 第47回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 奈良
65. 吉賀正亨, 小宮山豊, 榊田 緑, 原 克子, 河村晃弘, 神島 宏, 岩坂壽二, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2004) 抗 PF4 /ヘパリン複合体抗体 ELISA 陰性のヘパリン起因性血小板減少症2例. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
66. 吉賀正亨, 小宮山豊, 西村典子, 榊田 緑, 高橋伯夫 (2004) 高血圧自然発症ラット (SHR) における食塩摂取に伴う尿中 marinobufagenin 様免疫活性物質の推移. 第40回高血圧自然発症ラット (SHR) 学会学術集会, 大阪
67. 原 克子, 永濱 要, 小宮山豊, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 冠攣縮性狭心症における血中total PAI-1 (tPAI) の動態. 第47回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 奈良
68. 原 克子, 小宮山豊, 宗像眞智子, 仲谷壽男, 高橋伯夫 (2004) 毒草 (ハシリドコロ) によるアルカロイド中毒症例のGC/MS分析. 第26回日本中毒学会総会, 広島
69. 原 克子, 五十野剛, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 経皮的冠動脈介入術 (PCI) における血清アミロイド蛋白 (SAA). 第44回日本臨床化学会年会, 東京
70. 原 克子, 五十野剛, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 経皮的冠動脈介入術 (PCI) における心筋保護剤の有用性. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
71. 原 克子, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2004) 「生物・化学テロと臨床検査」大学病院薬毒物検査室の立場から. 第43回日本臨床化学会近畿支部例会, 大阪
72. 原 克子, 木村 穰, 小宮山豊, 吉賀正亨, 廣渡裕史, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 喫煙者における血中コチニン濃度と全血および血漿セロトニン (5-hydroxytryptamine: 5-HT) 濃度の関係. 第8回近畿・北陸セロトニン研究会, 大阪
73. 原 克子, 小宮山豊, 永濱 要, 神島 宏, 岩坂壽二, 高橋伯夫 (2004) 安静時狭心症における血中total PAI-1の動態. 第4回TTMフォーラム, 東京
74. 原 克子, 廣渡裕史, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2004) 血漿セロトニン (5-hydroxytryptamine: 5-HT) 測定に最適な抗凝固剤の使用法について. 第18回サンプリング研究会, 大阪
75. 角坂芳彦, 正木浩哉, 岸本典子, 高橋伯夫 (2004) 腎機能評価における血清シスタチンCの臨床的有用性の検討. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
76. 中村竜也, 高橋伯夫 (2004) ESBL産生腸内細

菌に対するニューキノロン系薬およびカルバペネム系薬の薬剤感受性について. 第52回日本化学療法学会総会, 沖縄

77. 田中敬一郎, 中村竜也, 内田幸子, 佐野みゆき, 中田千代, 平城 均, 宗像眞智子, 高橋伯夫 (2004) G群溶血連鎖球菌による壊死性菌膜炎の1症例. 第44回近畿医学検査学会, 奈良

#### 著 書

1. Masuda M, Amano K, Nishimura N, Masaki H, Komiyama Y, Takahashi H (2004) Measurement of soluble FcγRIIIaMφ in plasma as a novel marker for atherosclerosis. *Immunology Medimond* pp 249–252, S.r.l., Italy
2. 高橋伯夫 (2004) 高血圧性臓器障害に関する基礎研究 交感神経系の関与. 高血圧と高血圧性臓器障害—臓器障害の予防と管理—IV 62(3), 133–138頁, 日本臨牀
3. 高橋伯夫 (2004) 早朝高血圧の検査と診断—適正な血圧管理のために. 高血圧診療のコツと落とし穴 検査・診断36 (島田和幸編) 36–37頁, Pitfalls & Knack 中山書店, 東京
4. 高橋伯夫 (2004) 朝血圧を測るといつも高いんです. 高血圧を探る 疾患5 (島田和幸編) 129–134頁, 永井書店, 大阪
5. 高橋伯夫 (2004) 第4章 高血圧症の管理・治療 降圧薬の種類と使用上の基本. 最新医学 新しい診断と治療のABC 高血圧症 循環器3 (猿田享男編) 150–165頁, 最新医学社
6. 高橋伯夫 (2004) 高血圧に関連する最新情報 ドーパミン. 「腎と透析」知っておくべき高血圧の知識 (監修 二瓶 宏 編集 北岡建樹, 塩乃入洋, 飯野靖彦, 木村健二郎) 554–557頁, 医学社, 東京
7. 高橋伯夫 (2004) 血栓症検査ガイドブック Part 2 新しい検査項目 高感度CRP (high sensitive C-reactive protein: hs-RP). 血栓と循環 12(4) (編集主幹 池田康男 編集委員 重田 宏, 島田和幸, 藤田敏郎) 541–544頁, メディカルレビュー社
8. 河野雄平, 山口武典 (2004) AII受容体拮抗薬における脳保護作用とその臨床的根拠をみる. AII受容体拮抗薬のすべて 第3版 (荻原俊男, 菊池健次郎, 猿田享男, 島本和明, 日和田邦男, 宮崎瑞夫編) 88–93頁, 先端医学社, 東京
9. 河野雄平 (2004) 血圧の自己管理. 知っておきたい循環器病あれこれ 43. 循環器病研究振興財団, 吹田
10. 藤井秀樹, 河野雄平 (2004) 非薬物療法シミュレーション内科. 高血圧を探る (島田和幸編) 49–52頁, 永井書店, 東京
11. 河野雄平 (2004) 白衣高血圧と仮面高血圧: 家庭血圧による診断と管理. 高血圧診療のコツと落とし穴 (島田和幸編) 10–11頁, 中山書店, 東京
12. 滝内 伸, 河野雄平 (2004) アルコールとタバコについての注意点. 高血圧診療のコツと落とし穴 (島田和幸編) 125–126頁, 中山書店, 東京
13. 吉原史樹, 河野雄平 (2004) アスピリンとの併用はできますか. ファーマナビゲーターシリーズ「ARB」編 (熊谷裕生, 小室一成, 堀内正嗣, 森下竜一編) 224–227頁, メディカルレビュー社, 東京
14. 河野雄平 (2004) 運動で脳梗塞を防ぐ. 別冊NHK きょうの健康 (山口武典総監修) 56–64頁, 日本放送出版協会, 東京
15. 中浜 肇, 河野雄平 (2004) 利尿薬 腎臓ナビゲーター. (浦 信行, 柏原直樹, 熊谷裕生, 竹内和久編) 214–215頁, メディカルレビュー社, 東京
16. 稲永 隆, 河野雄平 (2004) DRASTIC (Dutch Renal Artery Stenosis Intervention Cooperative): DATA UPDATE. 循環系 (第3版) (山口 徹, 日和田邦男, 斎藤 康編) 248–249頁, 先端医学社, 東京
17. 中村敏子, 河野雄平 (2004) 悪性高血圧 知っておくべき高血圧の知識. 腎と透析 57 巻増刊号 (二瓶 宏監修 北村建樹, 塩之入 洋, 飯野靖彦, 木村健二郎編) 222–224頁, 東京医学社, 東京
18. 稲永 隆, 河野雄平 (2004) 血管拡張薬 知っておくべき高血圧の知識. 腎と透析 57 巻増刊号 (二瓶 宏監修 北村建樹, 塩之入洋, 飯野靖彦, 木村健二郎編) 307–310頁, 東京医学社, 東京
19. 高橋伯夫 (2004) 病態 血圧計の精度は? 「肥

満と糖尿病」. 3(1), 23-25頁, 丹水社

その他

1. 高橋伯夫 (2004) DPC の導入で検査の迅速化が進展. Medical Academy News 889
2. 高橋伯夫 (2004) 高感度 CRP が拓く新たな病態診断高感度 CRP の基礎と臨床的意義. The Medecal & Test Journal 880
3. 高橋伯夫 (2004) 高脂血症の薬物療法と抗動脈硬化作用. Medical Academy News 892
4. 高橋伯夫 (2004) 臓器保護を目的とした高血圧治療. 東住吉区医師会広報7月号 2-6
5. 高橋伯夫, 北村 聖, 中村健二, 渡邊清明 (2004) 現在の保健医療と臨床検査. ヒューマンサイエンス 4-13

## 救急医学科

### 〈研究概要〉

#### 出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果とアポトーシス発現に関する実験的研究

1) 出血性ショックにおけるアポトーシス発現と高張食塩液の免疫賦活作用に関する研究—高張食塩液投与により免疫抑制状態をどのように回避できるか—

出血性ショック後の蘇生に成功しても、その後にARDS（急性呼吸窮迫症候群）やMOF（多臓器不全）が発生し、死亡する症例がしばしば見られる。これには、出血性ショック後の免疫抑制状態が深く関与していると考えられ、高張食塩液の抗アポトーシス作用が免疫抑制状態を回復または回避するメカニズムの解明を行い、治療に役立てることを目標とする。

出血性ショックモデルとして、Balb/cマウスの左大腿動脈より脱血して血圧を40 mmHgに90分保つ。蘇生方法として、高張食塩液と脱血血液、2倍量の脱血血液量のラクテートリンゲル液と脱血血液、Sham群、コントロール群での、胸腺、脾臓でのアポトーシス発現と免疫抑制状態の関係を蘇生後経時的に検討する。胸腺、脾臓でのアポトーシス発現をフローサイトメトリーを用いて測定する。①胸腺、脾臓でのアポトーシス発現を凍結切片を用いて測定する。②アポトーシスが発現している細胞が、CD4かCD8のどちらの細胞が発現しているかをアポタグ染色とCD4、CD8の2重染色で検討する。③出血性ショック後に制御性T細胞（CD25<sup>+</sup>, CD4<sup>+</sup>）がどのように発現しているかを、凍結切片の2重染色などにより観察する。④ヘルパーT細胞Th1/Th2比の不均衡状態、すなわちTh2の優位状態への偏位などが起きていないかを時間経過によりどのように変化するかを検討する。

2) iNOSノックアウトマウスを用いた重度侵襲ストレス応答とアポトーシス発現のメカニズムの解析（出血性ショックモデルと熱傷モデルにおける検討）

出血性ショックや熱傷などの重度侵襲においては、しばしば全身の重要臓器に障害をもたらす。その臓器障害にアポトーシスが関与するといわれている。出血性ショックの蘇生液として高張食塩液を投与するとラクテートリンゲル液で蘇生したときと比較して肺傷害、小腸障害、肝障害などの臓器障害を軽減することが知られている。また、ラクテートリンゲル液に比較して各臓器でのアポトーシス発現を抑制することもわかってきた。当科では、従来、iNOSノックアウトマウスを用いてLPS投与の敗血症モデルでの免疫機能への影響に関する研究を行ってきたが、今回、iNOSノックアウトマウスを用いて、重度侵襲（ストレス）モデルでの、アポトーシス発現に関するメカニズムの解析を行うことにより、将来、これら、重度侵襲ストレス後の臓器障害、臓器不全に移行するのを防ぎ、救命率をあげることを目的として研究を行う。出血性ショック後に蘇生液として高張食塩液を用いた場合には、アポトーシス発現を抑制することが解ってきたが、一方、熱傷モデルにおいては、輸液として、高張食塩液を用いた場合には、ラクテートリンゲル液に比較してむしろ、肺障害を増悪させるといわれている。最近の研究では、

高張食塩液を投与する前にiNOSのinhibitorを投与することにより、増悪させる効果を減少させることが報告された。すなわち、重度侵襲下においては、臓器障害とアポトーシス発現はNOを介して深く関連していると考えられる。これら侵襲の違うモデルでのアポトーシス発現のメカニズムの解明は、重度侵襲後の臓器障害を予防、改善させ、将来これらの患者の救命率をあげることに寄与するものと考えられる。

## 臨床研究

### 1) 統合失調症における過大侵襲時の生体反応

重度外傷の受傷者の場合には、過大侵襲のために、例えばストレス潰瘍などのように、種々の過剰な生体反応の結果と見られる合併症を来し、治療に難渋することが少なくない。一方、統合失調症の患者は、自損行為により例えば高所から墜落して骨折や臓器損傷などの重度の外傷を受傷している、あるいは自損行為による腹部刺創で腸管脱出を来している、搬入時には疼痛を訴えず、入院後の経過が順調で、合併症を併発することも少ない。統合失調症患者では侵襲に対する過度の生体反応が起きないために、合併症が少なく、予後がよいのではないかと考えている。統合失調症患者で侵襲に伴って分泌されるストレスホルモン、サイトカインを追跡し、また、患者の重症度を評価し比較、検討するため損傷形態、重症度、経過中の合併症を評価する臨床研究を継続中である。

### 2) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の検討.第I-II相臨床試験(準備中)

急性期脊髄損傷患者を対象にした培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の臨床効果および安全性を評価する。

脊髄損傷重症例では、生涯を対麻痺のために車椅子で、あるいは四肢麻痺のためにベッド上での生活が強いられる。さらに呼吸筋麻痺のために人工呼吸器すら外せない場合もある。平成13年6月1日に厚生労働省がおこなった調査において、18歳以上の脊髄損傷患者は約10万人で毎年5,000人の患者が発生している。脊髄損傷患者の多くは介護を必要とするため、その治療法の発展は、当事者のQOLや社会参加を大きく向上させるだけでなく、介護の社会的コストを大きく削減することに繋がるものと考えられる。

従来、何らかの外傷により損傷を受けた中枢神経組織は再生せず、その機能回復は不可能とされてきた。急性期にはその損傷の程度をできるだけ小範囲にとどめるためメチルプレドニゾロンが投与されている。また、慢性期にはその残存した神経機能をできるだけ引き出すリハビリテーションが行われている。

新しい治療法の可能性として、最近、骨髄間質細胞を移植することによって中枢神経の損傷部を修復させようとする試みが報告された。共同で研究を行う京都大学の研究グループもラットから採取した骨髄から間質細胞を分離培養し、胸髄Th8-9レベルに挫滅損傷を加えた別のラットへ移植する実験を行ってきた。損傷後急性期に損傷部へ直接移植を行った群で歩行運動の著明な改善を認めた。しかし、ヒトへの応用を考えた場合には、脊髄の実質内に細胞を注入するのは危険性が高く、注入操作そのものにより新たな損傷が発生する可能性がある。一つの解決案として、細胞を脳脊髄液中に投与することが考えられる。ラット骨髄間質細胞を第四脳室内に投与する実験で、移植した群では神経学的な回復が認められており、組織学的にも脊髄損傷の程度が軽く損傷部位の空洞の形成が少ない結果が認められた。この回復は移植細胞からの活性物質によるものと考えられるが、その詳細は未だ不明である。移植された細胞は、初期には損傷部位内部に認められるが、1か月以上生存する細胞はごく少数しか存在せず、移植された細胞が長期間生着することが神経機能の回復にとって必須でないことが示唆される。また、移植された細胞は初期には脊髄の表面に広く分布していたが、それは時間とともに減少傾向にあったので、ES細胞移植時に問題となっているような腫瘍化などの危険性もほとんど考えられない。

骨髄間質細胞移植以外の脊髄損傷治療として諸外国においても細胞治療の開発が行われている。脳由来神経幹細胞を用いた治療法については、動物実験で、移植細胞が神経系の細胞に分化したという報告

がある。臨床的な利用を考えると、本人からの中枢神経由来の幹細胞の採取は現実的には難しい。また中絶ヒト胎児由来の幹細胞や胚性幹細胞 (ES cell) を利用する場合には、倫理的問題や拒絶反応の問題は避けられず、免疫抑制薬が必要となれば二次的な副作用も生じうる。またウィルス、プリオン等の感染の危険性もある。また、患者自身のマクロファージを培養し活性化してから骨髄損傷部へ直接移植する方法や、鼻粘膜より採取し培養した嗅球の神経細胞を取り巻くグリア細胞 (OEG) を骨髄損傷部へ直接移植する方法が、実際にヒトへの臨床応用として行われている。これらの治療法はまだ実験段階であり、有効性および安全性が検証されたものではない。加えて、これらの細胞の移植には、損傷部位の脊椎の椎弓切除を行って損傷部の脊髄実質内に直接、細胞を注入する方法が不可欠である。

一方、今回われわれが提案する骨髄間質細胞の移植は、“脳脊髄液中への培養細胞の投与が有効である”というこれまで京都大学の研究グループで行ってきた研究結果をふまえて、通常の腰椎穿刺の手技を使って脳脊髄液中に細胞を投与するため、諸外国で行われている臨床実験と比較しても、患者への侵襲が少なく、より危険性の少ない優れた方法であると考えている。

臨床応用に向けて、脊損ラットでの効果確認と健常サルでの安全試験は行ったものの、ヒトでの安全試験や当然ながら効果は未確認であることなどの倫理的問題などを注意深く検討し、患者団体とも接触して膨大な計画書を作成してきた。倫理委員会の承認が得られれば、詳細な患者説明書を公開し、実施の運びである。

## <研究業績>

### 原著

1. 武山直志, 田中孝也, 松尾信昭, 山本 透, 中谷壽男 (2004) 高度侵襲患者における immunoparalysis—ヘルパーT cell phenotype 不均衡とマクロファージ単球機能失調—. 救急医学 15: 1-7
2. 中谷壽男 (2004) 中毒性疾患の治療の動向. 今日の治療指針 46: 105
3. 中谷壽男 (2004) 緊急時の輸液と輸血. 救急ケアマニュアル 116-120
4. 藤井弘史, 中谷壽男 (2004) [胸部の画像診断] 急性大動脈解離. 月刊レジデントノート 6: 451-454
5. 矢吹 輝, 浅井 悌, 松尾信昭, 北澤康秀, 中谷壽男 (2004) 救命救急センターにおけるNSTの役割. 救急・集中治療 16: 1113-1118
6. 三木重樹, 田中孝也, 北澤康秀, 弘津喜史, 武山直志, 中谷壽男 (2004) P-ANCA抗体価の漸減中に肺病変の再燃を認めた顕微鏡的多発血管炎の1例. 日本臨床救急医学会雑誌 7: 334-338
7. 中谷壽男 (2004) 急性腹症の診断と鑑別診断のポイント. 臨床研修プラクティス 11月号 1: 12-21
8. 中谷壽男 (2004) 防ぎうる外傷死を減らすために. 日本外傷学会, 日本救急医学会

### の取組み— 37: 3-6

9. 三木重樹, 田中孝也, 松尾信昭, 山本 透, 北澤康秀, 中谷壽男 (2004) 当救急センターにおけるミカファンギンの使用経験. 新薬と臨床 53: 48-55
10. 新谷 裕, 中谷壽男 (2004). その他 129. 各種の毒物中毒. 増刊号 臨床外科 59: 382-384

### 総説

1. 中谷壽男, 山本保博 (2004) 急性中毒. 今日の治療指針 46: 1129-1154
2. 中谷壽男 (2004) 概論: 薬毒物の簡易定性, 半定量検査法とその臨床的意義. 日本臨床増刊号 広範囲血液・尿化学検査・免疫学的検査 2第6版 62: 518-521

### 学会発表

1. Nakatani T, Suzuki Y, Ide C (2004) Present Status for the Clinical Application of Spinal Cord Regeneration Therapy with Bone Marrow Stromal Cell Administration into Cerebrospinal Fluid. The 63rd American Association for the Surgery of Trauma, Maui, Hawaii
2. 中谷壽男 (2004) Let's learn ACLS and JATEC. 浜松外科医会講演会, 浜松
3. 岩瀬正顕, 神寄清一郎, 吉岡正太郎, 田中孝

- 也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症脊椎損傷患者の急性期管理. 第9回日本脳神経外科救急学会, 広島
4. 岸本真房, 弘津喜史, 三木重樹, 田中孝也, 山本 透, 武山直志, 中谷壽男 (2004) 自然中毒 (走野老) により不隠状態を呈し搬送された1例. 第89回日本救急医学会近畿地方会, 大和郡山
  5. 吉岡正太郎, 岩瀬正顕, 浅井 悌, 中谷健治, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) 後頭蓋窩の非外傷性くも膜下出血で発症した右小脳橋角部脳動静脈奇形の1例. 第89回日本救急医学会近畿地方会, 大和郡山
  6. 中谷壽男 (2004) 認定医制度から専門医制度へ. 日本救急医学会第9回専門医・認定医セミナー, 大阪
  7. 弘津喜史, 矢吹 輝, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) Rt-THA手術中に肺塞栓症となり, IVCfilter留置後急性偽性腸閉塞症を繰り返した1症例. 第9回日本腹部救急医学会総会, 東京
  8. 藤井弘史, 弘津喜史, 三宅建作, 井上 豪, 吉岡正太郎, 岸本真房, 松尾信昭, 山本透, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) 当センターにおける急性大動脈解離症例の現状. 第9回河内救急医療懇話会, 大阪
  9. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 重症脳損傷病態管理におけるBISモニターの有用性と問題点. 第7回日本臨床救急医学会総会, 東京
  10. 富野敦稔, 矢吹 輝, 松尾信昭, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) SIRSに伴うALIに対するsodium sivelestat hydrateの治療症例の検討. 第7回日本臨床救急医学会総会, 東京
  11. 中谷健治, 岩瀬正顕, 梶本心太郎, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 診断に難渋した特発性脊椎硬膜外血腫の1例. 第7回日本臨床救急医学会総会, 東京
  12. 田中孝也, 山本 透, 武山直志 (2004) 救命救急センターにおける保健医療の適正化について—医療費の包括評価制度は適正か?—. 第7回日本臨床救急医学会総会, 東京
  13. 石倉宏恭, 平川昭彦, 梶本心太郎, 矢吹 輝, 中谷壽男 (2004) 膵管非融合 (Pancrease divisum) 例に合併した膵損傷の治療方針と損傷分類に関して. 第18回日本外傷学会, 札幌
  14. 中谷健治, 中村誠也, 浅井 悌, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) 当センターにおける多発骨折症例の初期治療について. 第18回日本外傷学会, 札幌
  15. 梶本心太郎, 石倉宏恭, 平川昭彦, 山本 透, 中谷壽男 (2004) 膵一胃吻合再建術を選択したIIIa型膵損傷症例. 第18回日本外傷学会, 札幌
  16. 藤井弘史, 大谷 肇, 弘津喜史, 三宅建作, 山本 透, 北澤康秀, 田中孝也, 中谷壽男, 今村洋二 (2004) 当救命センターにおける急性大動脈解離に対する上行・弓部置換術例. 第47回近畿心臓外科研究会, 大阪
  17. 日原正勝, 小川 豊, 久徳茂雄, 北澤康秀 (2004) 手部深達熱傷の治療方針と問題点. 第30回日本熱傷学会, 東京
  18. 中村誠也, 飯田寛和, 中谷健治, 中谷壽男 (2004) Limited Contact-LCP plateを用いた上肢骨疾患に対する治療経験. 第30回日本骨折治療学会, 東京
  19. 松田公志, 中谷壽男, 西川光重, 米田 博, 鏡山博行 (2004) 選択性臨床実習における大学間相互乗り入れ: 関西医科大学と大阪医科大学での試み. 36回日本医学教育学会, 高知
  20. 中谷壽男 (2004) 急性脊髄損傷の概要と関西医大高度救命救急センターの状況. 第4回脊髄再生研究促進市民セミナー—脊髄由来細胞の移植による脊髄損傷の治療, 東京
  21. 中谷壽男 (2004) 侵襲下の肝代謝と酢酸輸液. 第5回千葉CCM輸液・栄養研究会, 千葉
  22. 中谷壽男 (2004) 北河内地区のメディカルコントロール体制. 平成16年度北河内ブロック救急医療研修会, 守口
  23. 北澤康秀 (2004) メディカルコントロール体制下の二次救急病院の役割. 平成16年度北河内ブロック救急医療研修会, 守口
  24. 武山直志, 田中孝也, 矢吹 輝, 三木重樹, 中谷壽男 (2004) 侵襲状態下における免疫能異常とimmunomodulation—基礎並びに臨床的検討. 第32回日本救急医学会総会, 千葉
  25. 岩瀬正顕, 吉岡正太郎, 中谷健治, 田中孝也, 中谷壽男, 河本圭司 (2004) 頸椎クリアランスの現状と問題点. 第32回日本救急医学会総

会, 千葉

26. 中谷壽男 (2004) ACLS とメディカルコントロール. 平成16年度中河内ブロック救急医療研修会, 大阪
27. 矢吹 輝, 田中孝也, 富野敦稔, 中谷健治, 松尾信昭, 山本 透, 武山直志, 中谷壽男 (2004) 熱傷初期における輸液量, 血液製剤制限の工夫. 第7回日本臨床救急医学会総会, 東京
28. 阪口博保, 安部高子, 柴田春美, 齋藤ひろみ, 下前 学, 松尾信昭, 齊藤一文字, 中谷壽男, 新宮 興 (2004) 薬剤師として災害医療ワーキングチームのメンバーになって. 第9回日本集団災害医学会, 札幌
29. 黒木由美子, 吉岡敏治, 大橋教良, 白川洋一, 屋敷幹雄, 村田厚夫, 中谷壽男, 嶋津岳士, 上条吉人, 広瀬保夫, 清田教也, 波多野弥生, 飯田 薫, 飯塚富士子, 遠藤容子 (2004) 血中濃度分析値を含むヒト急性中毒症例収集・報告統一システムの構築. 第26回日本中毒学会総会, 広島
30. 原 克子, 小宮山豊, 宗像真智子, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2004) 毒草 (ハシリドコロ) によ

るアルカロイド中毒症例のGC/MS分析. 第26回日本中毒学会総会, 広島

31. 新谷 裕, 箱田 滋, 森口哲也, 木内俊一郎, 中谷壽男 (2004) 肺炎を併発した急性薬物中毒症例のクリニカルパス導入のための入院期間の検討. 第26回日本中毒学会総会, 広島
32. 藤田昌哲, 宮崎秀行, 浅井 悌, 藤井弘史, 岩瀬正顕, 山本 透, 田中孝也, 中谷壽男 (2004) 脳炎加療中, 中心静脈カテーテルが原因と思われる上大静脈症候群をきたした1例. 第10回河内救急医療懇談会, 東大阪

#### 著 書

1. 中谷壽男 (2004) ショックにおける生体反応と臓器障害. 救急医療の最先端 (島崎修次, 山本保博, 相川直樹編) 36-40頁, 最先端医療技術研究所, 東京
2. 中谷壽男 (2004) 第14章 妊婦外傷. 改訂外傷初期診療ガイドライン (日本外傷学会外傷研修コース開発委員会編) 197-204頁, へるす出版, 東京

## 輸血部

### <研究概要>

#### 1. 同種血, 自己血輸血に関する研究

輸血検査の自動化システムを導入し, 従来法と比較検討をすることにより, 合理的な運用体制を検討している. また, 不規則抗体検査などの輸血検査の標準化や合理化についても検討している. 緊急輸血症例や輸血副作用症例を解析し, 輸血療法の安全性の向上を目指している.

#### 2. 細胞療法やHLA検査に関する研究

同種および自己造血幹細胞移植の採取・評価・保存を実施しており, これらの所見と臨床経過との関連について検討している. また, 移植症例の同種抗体 (HLA抗体, 血小板抗体) について, 移植後の免疫能や臨床所見との関連から検討している.

### <研究業績>

原 著

1. Ohnishi K, Ino A, Kishimoto Y, Usui N, Shimazaki C, Ohtake S, Taguchi H, Yagasaki F, Tomonaga M, Hotta T, Ohno R (2004) Multicenter prospective study of interferon alpha versus allogeneic stem cell transplantation for patients with new diagnoses of chronic myelogenous leukemia. *Int J Hematol*

79: 345-353

2. Nakai K, Tajima K, Tanigawa N, Matsumoto N, Zen K, Nomura S, Fujimoto M, Kishimoto Y, Amakawa R, Sawada S, Fukuhara S (2004) Intra-arterial steroid-injection therapy for steroid-refractory acute graft-versus-host disease with the evaluation of angiography. *Bone Marrow Transplant* 33: 1231-1233

3. Takebayashi M, Amakawa R, Tajima K, Miyaji M, Nakamura K, Ito T, Matsumoto N, Miyazaki Y, Zen K, Kishimoto Y, Fukuhara S (2004) Blood dendritic cells are decreased in acute graft-versus-host disease. *Bone Marrow Transplant* 33: 989–996
4. 横井 崇, 森眞一郎, 杉本博是, 小宮山豊, 植村芳子, 谷尻 力, 中井邦久, 松本憲明, 全勝弘, 尼川龍一, 岸本裕司, 家子正裕, 高橋伯夫, 福原資郎 (2004) 抗リン脂質抗体を伴った脾辺縁帯 B 細胞リンパ腫. *臨血* 45: 1095–1099

#### 総 説

1. 岸本裕司 (2004) 輸血医療の進歩と課題 輸血副作用 輸血後肝炎. *日内会誌* 93: 1339–1344

#### 学会発表

1. 松本憲明, 中井邦久, 森眞一郎, 全勝浩, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) 再発, 治療抵抗性 B 細胞性非ホジキンリンパ腫に対する R-ESHAP 療法. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
2. 森眞一郎, 松本憲明, 中井邦久, 全勝浩, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) 未治療濾胞性リンパ腫に対する Rituximab 単独および維持療法. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
3. 河野誠司, 嶋元佳子, 松本憲明, 森眞一郎, 全勝弘, 岸本裕司, 尼川龍一, 植村芳子, 福原資郎 (2004) Light chain deposition disease に続発した Angioimmunoblastic T cell lymphoma の一例. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
4. 谷岡理恵, 尾形 誠, 中井邦久, 田嶋健一郎, 松本憲明, 森眞一郎, 全勝浩, 岸本裕司, 尼

川龍一, 福原資郎 (2004) Auto PBSCT 併用大量化学療法後に骨髄非破壊的同種骨髄移植を施行した形質細胞腫. 第27回日本造血細胞移植学会総会, 岡山

5. 横井 崇, 松本憲明, 中井邦久, 森眞一郎, 全勝浩, 植村芳子, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) リツキシマブ投与後に CD20 が陰性となった濾胞性リンパ腫. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
6. 谷尻 力, 松本憲明, 中井邦久, 森眞一郎, 全勝浩, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) 自己末梢血造血幹細胞移植を施行後, 肺高血圧症を認め, Pulmonary venoocclusive disease が疑われた悪性リンパ腫. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
7. 中村謙吾, 森眞一郎, 松本憲明, 中井邦久, 全勝浩, 岸本裕司, 尼川龍一, 福原資郎 (2004) Trisomy 18 単独異常を認めた濾胞性リンパ腫. 第44回日本リンパ網内系学会総会, 京都
8. 阿部 操, 有元美代子, 細川美香, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 寺西節子, 岸本裕司, 福原資郎 (2004) カラム凝集法における直接抗グロブリン試験の検討. 第52回日本輸血学会総会, 札幌
9. 有元美代子, 阿部 操, 細川美香, 岡前文子, 山岡 学, 大谷哲司, 松崎龍典, 寺西節子, 寺岡敦子, 岸本裕司, 福原資郎 (2004) カラム凝集法を用いた時間外輸血検査の運用. 第52回日本輸血学会総会, 札幌
10. 山岡 学, 松崎龍典, 寺嶋由香利, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 大谷哲司, 寺西節子, 岸本裕司, 海堀昌樹, 福原資郎 (2004) 移植後に HLA 抗体が検出された生体肝移植. 第48回日本輸血学会近畿支部総会, 京都

## 香里病院内科

#### 学会発表

1. 藤井壽仁, 高岡 亮, 田川善啓, 北野貴弘, 大宮美香, 津田信幸, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂, 久保田佳嗣, 水野孝子, 岡崎和一

(2004) 巨大十二指腸ブルネル腫瘍の一例.

- 第80回日本消化器病学会近畿支部例会, 奈良
2. 藤井壽仁, 高岡 亮, 田川善啓, 北野貴弘, 大宮美香, 津田信幸, 立岩二郎, 渡辺敏彦, 久

- 保田佳嗣, 水野孝子, 岡崎和一 (2004) 高濃度酸素吸入療法が奏効した腸管囊腫状気腫症の1例, 第72回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
3. 藤井壽仁, 高岡 亮, 岡崎和一 (2004) 潰瘍性大腸炎中等症および重症例における内視鏡所見からみた治療法選択の検討. 第81回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都
  4. 藤井壽仁, 高岡 亮, 岡崎和一 (2004) 潰瘍性大腸炎中等症および重症例における治療法選択のための内視鏡所見の検討. 第73回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
  5. 高岡 亮, 藤井壽仁, 田川善啓, 北野貴弘, 崎谷和重, 大宮美香, 久保田佳嗣, 水野孝子, 岡崎和一 (2004) 肝門部胆管閉塞症例に対するジョーステントを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージの経験. 第68回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡
  6. 片嶋 隆, 松井由美恵, 吉長正博, 佐藤大祐, 唐川正洋, 津田信幸 (2004) 左冠尖からの高周波通電により根治しえた心室頻拍の一例. 第97回日本循環器学会近畿地方会, 大阪

## 香里病院外科

### 〈研究概要〉

当科における研究は, 施設ならびにスタッフの関係上, 臨床研究あるいは他施設との共同研究である。

現在行っている研究は, 1. 多価不飽和脂肪酸が癌の発生・増殖と転移に及ぼす影響, 2. EPA が前立腺癌の再発に及ぼす影響, 3. EPA が正常人の血中PSAなどに及ぼす影響, 4. 癌化学療法時における薬物動態, 5. 胃癌術後の腸管運動の経時的変化, 6. 共役トリエン型EPAの合成などである。

### 原 著

1. Tsujita-kyutoku M, Yuri T, Danbara N, Senzaki H, Kiyozuka Y, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Ogura Y, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid suppresses KPL-1 human breast cancer cell growth in vitro in vivo: potential mechanisms of action. *Breast Cancer Res. 6*: R291-R299
2. Moriguchi K, Yoshizaki K, Shikata N, Yuri T, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Suppression of N-Methyl-N-Nitrosourea-induced photoreceptor apoptosis in rats by docosahexaenoic acid. *Ophthalmic Res. 36*: 98-105
3. Shirao K, Ohtsu A, Takada H, Mitachi Y, Hirakawa K, Horikoshi N, Okamura T, Hirata K, Saito S, Isomoto H, Satoh A (2004) Phase-II study of oral S-1 for treatment of metastatic colorectal carcinoma. *Cancer 100*: 2355-2361
4. Danbara N, Uehara N, Shikata N, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Dietary effects of conjugated docosahexaenoic acid on N-methyl-N-Nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in female Sprague-Dawley rats. *Oncol. Rep. 12*: 1079-1085
5. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibit growth of colo 201 human colon cancer cells. *Nutr. Cancer 50*: 71-79
6. 坂 貴司, 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果. *乳癌基礎研究 13*: 47-50

### 総 説

1. 北出浩章, 高田秀穂, 森 毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 上田創平, 渡辺京子, 伊藤美由紀, 井上さだ子 (2004) フローチャートでわかる術後の急変対策「腹痛」. *消化器外科 NURSING 9*: 21-25
2. 高田秀穂, 北出浩章, 森 毅, 小倉徳裕, 奥野雅史, 上田創平, 吉岡和彦, 吉田 良, 岩本慈能, 中野雅貴, 米倉康博, 上山泰男 (2004) 脂質と癌の予防. *食品と開発 39*: 5-8

3. 伊藤美由紀, 松木博子, 宮城 愛, 大林つばさ, 渡辺京子, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2004) どう応える? 患者さんの不安&疑問: 術後, MRSA腸炎を発症した患者さんの場合. 消化器外科NURSING 9: 749-753

#### 学会発表

- 藤井壽人, 高岡 亮, 田川善啓, 北野貴弘, 大宮美香, 津田信幸, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂, 久保田佳嗣, 水野孝子, 岡崎和一 (2004) 巨大十二指腸ブロンネル腺腫の一例. 第80回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
- 高田秀穂, 北出浩章, 吉岡和彦 (2004) 本邦で増加してきた大腸癌は予防できるか?—摂取脂質の量と種類からの検討—パネルディスカッション: 生活習慣病としての消化器疾患. 第90回日本消化器病学会総会, 仙台
- 森 毅, 山田正法, 山本大悟, 田中完児 (2004) 血清CEAおよびCA15-3の高値を示した巨大乳癌悪性葉状肉腫の一例. 第12回乳癌学会総会, 小倉
- 山田正法, 山本大悟, 奥川帆麻, 森 毅, 田中完児 (2004) 当科における良性・悪性葉状肉腫腫瘍の検討. 第12回乳癌学会総会, 小倉
- 辻田 (久徳) 美樹, 段原直行, 垠 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) ヒト乳癌細胞株 (KPL-1) における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解明. 第93回日本病理学会総会, 札幌
- 段原直行, 辻田 (久徳) 美樹, 垠 貴司, 高田秀穂, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2004) 共役ドコサヘキサエン酸によるMNU誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果. 第93回日本病理学会総会, 札幌
- 米田篤司, 弥山秀芳, 三箇山宏樹, 上村祐子, 北中直子, 辻 陽子, 太田由子, 上田創平, 北出浩章, 森 毅, 奥野雅史, 小倉徳裕, 高田秀穂 (2004) NSAIDsにより消化管出血を来した3例. 第25回病院薬剤師会近畿学術大会, 大津
- 弥山秀芳, 太田由子, 高田秀穂 (2004) 薬剤師のチーム医療への参画によるセーフティマネージメント, パネルディスカッション: 消化器病と医療事故・訴訟. 第90回日本消化器病学会総会, 仙台
- 中田 博, 横井川規巨, 稲葉隆明, 海堀昌樹, 小倉徳裕, 高田秀穂, 井上瑞江, 権 雅憲, 上山泰男 (2004) 担癌状態におけるムチンの生物学的意義. 第63回日本癌学会総会, 福岡

## 香里病院皮膚科

### 〈研究概要〉

従来どおり皮膚付属器疾患である「尋常性痤瘡」と皮膚の「細菌と感染症」を二大テーマとしている。

#### I. 尋常性痤瘡 (ニキビ)

- 痤瘡の発症病理解明を目的として, 毛包系腫瘍を含めて病態別に内分泌学のおよび免疫組織染色による角化異常発現の検討を継続して行っている。
- 痤瘡の新しい治療法であるケミカルピーリングを始めているが, ピーリングの安全性と有効性を臨床的に検討している。

#### II. 皮膚の細菌と感染症

- 黄色ブドウ球菌の薬剤感受性を継続して測定し, 特に耐性菌 (MRSA) の動向に注意し, 適正な抗菌薬の使用に役立てている。
- MRSAと消毒薬耐性遺伝子について検討している。黄色ブドウ球菌が産生する毒素の中で表皮剥脱毒素 (ET) は膿痂疹 (とびひ) を惹起するが, ET遺伝子をもつMRSAのほとんどが消毒薬耐性を持たないことを証明した。

## 〈研究業績〉

## 総説

1. 西嶋攝子, 黒川一郎 (2004) 新生児・小児皮膚疾患マニュアル A. 日常的な皮膚疾患 9. 痤瘡. *Monthly Book Dermatology* 93: 61-66
2. 西嶋攝子, 三輪 恒, 大島 茂, 阪上佐和子 (2004) 慢性円盤状エリテマトーデス. *皮膚の科学* 3: 259-260
3. 西嶋攝子, 山中滋木, 大島 茂, 中矢秀雄 (2004) レンサ球菌性膿痂疹—塗抹染色で原因菌を推定できた—. *皮膚の科学* 3: 339-340
4. 西嶋攝子 (2004) ニキビの最近の治療. *皮膚の科学* 3: 622-627
5. 黒川一郎, 西嶋攝子 (2004) にきび (尋常性痤瘡), 粉瘤 (表皮嚢腫). *臨床外科* 59: 41-43
6. 西嶋攝子 (2004) 皮膚感染症の病態と治療～細菌感染症を中心に～. *感染防止* 14: 16-24

## 著者

1. 西嶋攝子 (2004) ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群. こどもの皮疹のみかた—急性発疹症へのアプローチ (日野治子編) 123-127頁, 中外医学社, 東京
2. 西嶋攝子 (2004) にきび. *皮膚心療内科* (久保千春, 宮地良樹編) 174-177頁, 診断と治療社, 東京
3. 西嶋攝子 (2004) ニキビですっとお薬を飲んでも大丈夫でしょうか? 患者さんから浴びせられる皮膚疾患 100 の質問～達人はどう答え, どう対応するか～ (宮地良樹編) 198-199頁, メディカルビュー社, 東京
4. 西嶋攝子 (2004) 思春期を過ぎたのにニキビが出ます. なぜでしょうか? 患者さんから浴びせられる皮膚疾患 100 の質問～達人はどう答え, どう対応するか～ (宮地良樹編) 200-201頁, メディカルビュー社, 東京

## 洛西ニュータウン循環器科

## 〈研究業績〉

## 原著

1. 下條ひろみ, 西上尚志, 山本哲史, 城 聡一, 西澤信也, 高山康夫, 岩坂 壽二 (2004) 心タンポナーデを合併した尿毒症性心外膜炎の1例. *Journal of cardiology* 44-1: 27-31
2. 下條ひろみ (2004) Letters to editor Does Pericarditis Mean “Shingaimakuen” in Japanese? *Journal of cardiology* 44-6: 267

## 学会発表

1. 吉田衣江, 高山康夫, 下條ひろみ, 高島啓文, 松原恵子, 岩坂 壽二 (2004) Is Tissue Doppler-Based Strain Rate Imaging Superior to Tissue Doppler Imaging for Detecting Regional Dysfunction in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy? 第68回日本循環器学会総会, 東京
2. 吉田衣江, 高山康夫, 下條ひろみ, 高島啓文, 駒井千恵子, 松原恵子, 岩坂 壽二 (2004) 高血圧症における左室肥大と心機能の関係について—Strain rate imagingを用いた検討—. 第15回日本心エコー図学会総会, 東京

3. 吉田衣江, 高山康夫, 下條ひろみ, 高島啓文, 駒井千恵子, 松原恵子, 岩坂 壽二 (2004) Strain Rate Imaging を用いた高血圧症の心機能評価. 日本超音波医学会第28回関西西地方会, 大阪
4. 吉田衣江, 高山康夫, 下條ひろみ, 湯山令輔, 高島啓文, 松原恵子, 岩坂 壽二 (2004) 心不全で発症した Duchenne 型筋ジストロフィー女性キャリアーの一例. 第8回心不全学会, 岐阜
5. 下條ひろみ, 高山康夫, 吉田衣江, 湯山令輔, 高島啓文, 松原恵子, 岩坂 壽二 (2004) 高血圧症例での糖尿病合併による心機能低下. 日本超音波医学会 第77回学術集会, 栃木
6. 湯山令輔, 湯浅文雄, 山本哲史, 岩坂 壽二 (2004) Home-based Exercise Training Improves Endothelium-dependent, Flow-mediated Dilation of Large Conduit Vessels After Acute Myocardial Infarction. 第68回日本循環器学会総会, 東京
7. 湯山令輔, 湯浅文雄, 山本哲史, 楊 培慧, 岩坂 壽二 (2004) 急性心筋梗塞症におけるホモシステインと血管内皮機能の検. 第41回日本臨床生理学会総会, 栃木
8. 高山康夫 (2004) strain による心内膜下心筋の

- 評価(動物). 日本超音波医学会 第77回学術集会, 栃木
9. 高山康夫, 正木元子, 吉田衣江, 下條ひろみ, 松原恵子, 高島啓文, 岩坂壽二 (2004) Strain rate imaging を用いた Duchenne 型筋ジストロフィーの心機能評価. 第41回日本臨床生理学会総会, 栃木
  10. 高山康夫, 正木元子, 樋口嘉久, 吉田衣江, 高島啓文, 下條ひろみ, 松原恵子, 岩坂壽二 (2004) Reduced Systolic Strain at Left Ventricular Posterior Wall in Patients With Duchenne Muscular Dystrophy. 第68回日本循環器学会総会, 東京
  11. 松原恵子, 高山康夫, 吉田衣江, 下條ひろみ, 高島啓文, 湯山令輔 (2004) 高血圧症例での心機能に与える加齢の影響. 日本老年医学会近畿地方会, 守口